

平成 24 年度 サロベツ自然再生事業推進業務

報 告 書

平成 25 年 3 月

環境省 北海道地方環境事務所

株式会社 福山コンサルタント

目次

1.業務概要	1
2.業務目的	1
3.業務内容	1
4. 打合せ	3
5.成果品	4
6.業務工程	5
7.連絡体制等	6
8.業務成果	7
8.1 自然再生事業地における環境学習の実施	7
8.2 サロベツの湿原と農業の共生をテーマとしたイベントの実施	45
8.3 環境学習等の今後の課題	109
9.資料編	120

1.業務概要

業務名：平成 24 年度サロベツ自然再生事業推進業務

業務期間：平成 24 年 8 月 24 日から平成 25 年 3 月 29 日

履行場所：北海道天塩郡豊富町

発注者：環境省北海道地方環境事務所

受注者：株式会社 福山コンサルタント

2.業務目的

サロベツ原野においては、平成 17 年に設立した上サロベツ自然再生協議会により「湿原の保全」「農業の振興」「地域づくり」を目標とした自然再生事業が行われており、環境省においては平成 21 年 7 月に策定した実施計画書に基づきサロベツ川放水路南側湿原の乾燥化対策、泥炭採掘跡地の植生回復等に取り組んでいる。

また、平成 24 年 6 月には「上サロベツ自然再生普及行動計画」が改訂され、自然再生の取り組みを持続的なものにするために、取り組みを地域内外に伝え、多様な主体の参画や連携を促すことが示された。

このことから、本業務は、環境省が自然再生事業に取り組む事業地を環境学習の施設として活用するとともに、サロベツの湿原と農業の共生をテーマとしたイベントを実施し、サロベツ自然再生事業において地域住民等多様な主体の参画や連携を促すことを目的としている。

3.業務内容

3.1 自然再生事業地における環境学習の実施

自然再生事業の管理用施設として整備された調査用木道を活用し、自然再生の取り組みを伝え、住民参加の促進を図るための環境学習を、サロベツ川放水路南側湿原及びサロベツ原生花園園地跡地のそれぞれで各 1 回、計 2 回実施した。なお、環境学習の実施に当たっては、平成 23 年度サロベツ自然再生事業推進業務にて行った自然再生事業地の活用方法の検討を踏まえて行った。

- (1) 企画立案と実施計画の作成
- (2) 事前の広報活動
- (3) 学習資料の作成
- (4) 当日の運営
- (5) 実施結果の取りまとめ

3.2 サロベツの湿原と農業の共生をテーマとしたイベントの実施

サロベツ自然再生事業において地域住民等多様な主体の参画や連携を促すため、サロベツ湿原センターを活用し、サロベツの湿原と農業の共生をテーマとしたイベントを1回実施した。イベントの開催に当たっては、以下のことを実施した。

- (1) 企画立案と実施計画の作成
- (2) 参加団体の選考、内容等の調整（使用備品類の手配を含む）
- (3) 事前の広報活動（チラシ 500 部の作成を含む）
- (4) 自然再生の取り組みを紹介するパネル（5 面）の作成
- (5) 当日の運営
- (6) 実施結果の取りまとめ

なお、イベント実施に際しては、エコモー☆サポーター（「上サロベツ自然再生普及行動計画」に位置づけられた有志の協力団体）から協力を得た。

3.3 環境学習等の今後の課題

環境学習およびイベントの結果に基づき今後の課題を検討した。なお、課題の取りまとめにおいては、平成 25 年 3 月 5～6 日に、上サロベツ自然再生協議会に当初より参加されており、道内の湿原に関して造詣の深い岡田 操氏に現地説明の上で、今後の環境学習等の実施に向けた改善点等について助言をいただいた。

3.4 「上サロベツ自然再生普及行動計画」等の作成・印刷

- (1) 平成 24 年 6 月に改訂された「上サロベツ自然再生普及行動計画」のパンフレットを作成し、3,000 部を印刷した。なお、パンフレット作成においては校正・デザインを含む作業を行った。
- (2) 「上サロベツ自然再生普及行動計画」の改訂内容を踏まえ、「サロベツ・エコモー・プロジェクト」の活動募集に向けたパンフレットを作成し、1,000 部を印刷した。なお、パンフレット作成においては校正・デザインを含む作業を行った。
- (3) 「サロベツ・エコモー・プロジェクト」について、平成 24 年度の活動報告書を作成し、1,000 部を印刷した。なお、パンフレット作成においては校正・デザインを含む作業を行った。

4. 打合せ

打合せは、業務着手時に1回、最終報告時1回のほか、環境学習の実施2回、イベントの実施時2回、合計6回を現地（豊富町等）で実施した。

表-4.1 打合せ協議日程等

回数	打合せ日程	打ち合わせ内容等	打合せ場所
1	平成24年8月28日	着手時打合せ 作業計画書について	稚内
2	平成24年9月25日	第1回環境学習について	豊富
3	平成24年9月30日	第1回環境学習の振り返り サロベツ・エコモーDayについて	豊富
4	平成24年10月19日	サロベツ・エコモーDayの準備状況について	豊富
5	平成24年11月3日	第2回環境学習について 印刷物の仕様等確認	豊富
6	平成25年1月25日	アドバイザーの助言聴取について	（電話）
7	平成25年3月14日	業務報告書等について	札幌

5.成果品

本業務の成果品は表-5.1 に示す通りである。

表-5.1 成果品一覧表

項 目	規 格	部 数		備 考
		電子媒体	紙媒体	
業務報告書	A4版 カラー両面印刷 100ページ程度	2	5	
イベントチラシ	A4版 カラー両面印刷 1ページ		500	
自然再生紹介パネル	A1版 カラー片面印刷 1ページ×5面		5	アルミ額縁入り
「上サロベツ自然再生普及行動計画」パンフレット	A4版 カラー印刷両面 12ページ程度		3,000	
「サロベツ・エコモー・プロジェクト」活動募集パンフレット	A4版 カラー両面印刷 6ページ程度		1,000	
「サロベツ・エコモー・プロジェクト」活動報告書	B5版 カラー両面印刷 20ページ程度		1,000	

6.業務工程

本業務の工程は表-6.1 に示す通りである。

表-6.1 業務工程表

業 務 区 分		業 務 工 程									
種 目	細 別	8月 10 20	9月 10 20	10月 10 20	11月 10 20	12月 10 20	1月 10 20	2月 10 20	3月 10 20		
自然再生事業地における環境学習	企画立案と実施計画の作成										
	事前の広報活動										
	学習資料の作成										
サロベツの湿原と農業の共生をテーマとしたイベントの実施	当日の運営										
	実施結果のとりまとめ										
	企画立案と実施計画の作成										
	参加団体の選考、内容等の調整										
	事前の広報活動										
	自然再生の取り組みを紹介するパネルの作成										
「上サロベツ自然再生普及行動計画」等の作成・印刷	当日の運営										
	実施結果のとりまとめ										
	「上サロベツ自然再生普及行動計画」等の作成・印刷										
報告書作成	報告書作成										
打合せ協議	打合せ協議										

7.連絡体制等

(1) 発注者

環境省 北海道地方環境事務所 稚内自然保護官事務所 自然保護官 中島 信人

〒097-8527 稚内市末広 5-6-1 稚内地方合同庁舎

TEL : 0162-33-1100 FAX : 33-1101 携帯電話 : 080-1880-0017

Mail : NOBUTO_NAKAJIMA@env.go.jp

(2) 請負者

株式会社 福山コンサルタント 北海道事務所 所長 ^{かくもと} 角本 正明

〒001-0020 札幌市北区北 20 条西 3 丁目 1-34 コシダテックビル 3 階

TEL : 011-757-7553 FAX : 011-757-7555 携帯電話 : 090-2235-4606

Mail:kakumoto@fukuyamacosul.co.jp

8.業務成果

8.1 自然再生事業地における環境学習の実施

自然再生事業の管理用施設として整備された調査用木道を活用し、自然再生の取り組みを伝え、住民参加の促進を図るための環境学習を、サロベツ川放水路南側湿原及びサロベツ原生花園園地跡地において、それぞれで各 1 回、計 2 回実施した。

(1) 企画立案と実施計画の作成

環境学習の実施に際して、事前に開催の趣旨、全体スケジュール、参加者募集方法、開催時期と規模、環境学習の内容等について実施計画書を作成した。実施計画を次頁以降に示した。

サロベツ環境学習ツアー

この秋は自然再生の現場を見に行こう！

(自然再生事業地における
環境学習実施計画書)

平成 24 年 9 月

株式会社 福山コンサルタント

1. 開催趣旨

サロベツ原野では、平成 17 年に設立した上サロベツ自然再生協議会により「湿原の自然再生」「農業の振興」「地域づくり」を目標とした自然再生事業が行われている。これら自然再生への取り組みを持続的なものにするためには、地域全体での協力した取り組みや、上サロベツならではの特徴ある地域づくりを進めていくことが必要である。

「サロベツ環境学習ツアー 自然再生の現場を見てみよう！」において、通常は立ち入ることができない自然再生事業地まで地域住民を案内し、自然再生事業の背景や事業目的、また、これまでの成果や今後の展望などについて詳細に紹介することにより、広く地域の方々の自然再生事業への関心を高め、地域における理解者を増やしていくことを目的とする。

2. 開催要項

＜環境学習ツアーのねらい＞

環境学習ツアー開催のねらいは以下の 5 項目である。

①サロベツ自然再生事業に対する**住民意識の向上**

環境学習ツアーを通じて、参加した地元住民が上サロベツ地域で行われている自然再生事業についての意識を向上してもらえるようにする。

②サロベツの自然環境保全に関する**住民参加活動の推進**

環境学習ツアーに参加することにより自然環境の保全に対する意識が高まり、将来的に行政だけでなく地元住民が主体となった活動が展開されていくことを期待する。

③上サロベツ自然再生事業、自然環境保全に関する**情報発信**

環境学習ツアー開催を通じて、地元住民に対して自然再生事業に関する情報発信を行う。また、環境学習ツアーに参加した地元住民が自らの体験を周囲に発信することにより、不参加の住民に対しても自然再生事業に関する住民意識の向上が期待される。

④サロベツの自然環境保全に関する**持続的活動の推進**

環境学習ツアーを通じて、自然環境保全活動が地元住民に定着し、持続的な活動へと発展していくことを期待する。

⑤サロベツの自然環境保全に関する**人材の育成**

環境学習ツアーによって、サロベツの自然環境保全活動に関する人材が育ち、彼らが持続的な活動をリードしていくことを期待する。

＜全体スケジュール＞

環境学習ツアーに関するスケジュールを以下に示す。

表-8.1 自然再生事業地における環境学習工程表

工 種	9月			10月			11月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
企画立案・実施計画	■								
事前の広報活動	■ 広報準備	■ プレスリリース		■ 広報準備	■ プレスリリース				
環境学習の資料作成	■	■							
当日の運営			■ 第1回環境学習開催			■ 第2回環境学習開催			
実施結果の取りまとめ				■			■		

＜参加者募集＞

環境学習ツアー開催の主旨に則り自然再生事業に興味のある地域の住民から、広く参加を募ることが重要である。また、サロベツ・エコモー・プロジェクトの関係者にも積極的に参加してもらえるように、重点的に周知を行うこととする。なお、環境学習ツアーの参加者規模としては、調査用木道を歩く場合の安全確保などを考慮して関係者も含めて15～20名程度を想定する。

1. 広く一般公募
2. サロベツ・エコモー・プロジェクト活動実施者（エコモー☆メンバー）
3. サロベツ・エコモー・プロジェクトの運営支援組織（エコモー☆サポーター）

＜開催場所＞

今回の環境学習ツアーの見学地は、環境省が自然再生事業を進めている以下の2箇所について行う。

①サロベツ川放水路南側湿原、調査用木道（落合沼などが観察できる）

②サロベツ原生花園園地跡地、調査用木道

なお、自然再生事業地の一つである泥炭採掘跡地については、10月20日（土）にサロベツ湿原センターで開催予定の自然再生事業に関するイベントの際に、別途環境学習ツアーを企画中であることから、本環境学習ツアーでは対象としない。

＜開催時期、規模＞

サロベツ川放水路南側湿原の調査用木道は延長が長く、移動時間が多くかかり（往復1時間以上）、また開催時期は気温が低くなる可能性のある時期であるため、長時間の野外活動は参加者にとって負担になることも考えられる。さらに、昼食を挟む環境学習ツアーの場合は、参加者の拘束時間が長くなるため敬遠されがちである。したがって、サロベツ湿原センターでの事前レクチャー時間と現地見学時間を合わせても、誰でも気軽に参加しやすい半日(午前中)程度で終了する環境学習ツアーが望ましいと考えられる。

以上のことから、2つの事業地を別々の日に見学する2本立ての環境学習ツアーとして実施する。なお、開催時期は、準備期間も考慮して9月22日（土）以降から選定した(表-8.2 参照)。さらに、10月20日（日）にサロベツ湿原センターで開催予定の自然再生事業に関するイベントの前後に設定することを基本とし、参加者が期待できる週末で、かつ、地元行事や湿原センターのイベント開催日を出来るだけ避けて候補日を選定した。その結果、環境学習ツアーは、第1回を9月30日(日)、第2回を11月4日(日)に計画する。また、荒天等による順延予備日は10月6日(土)および11月10日(土)を計画した。

表-8.2 環境学習開催日の選定表

月	日（曜日）	他のイベント等の有無	判 定	備 考
9	22（土・祭日）	なし	▲	連休で参加者が期待できない可能性があり、翌日もイベントがある。
	23（日）	渡り鳥観察会（野鳥の会主催）	×	他のイベントと重なる。
	29（土）	ペンケ沼清掃（地元 NPO 主催）	×	他のイベントと重なる。
	30（日）	なし	◎	第 1 回開催予定日
10	6 日（土）	なし	○	順延予備日
	7 日（日）	市民自然講座（地元 NPO 主催）	×	他のイベントと重なる。
	8 日（月・祭日）	植樹活動（地元 NPO 主催）	×	他のイベントと重なる。
	13 日（土）	ペンケ沼清掃（地元 NPO 主催）	×	他のイベントと重なる。
	14 日（日）	豊富小学校学芸会	×	他のイベントと重なる。
	20 日（土）	自然再生事業に関するイベント （エコモーDay）	—	
	21 日（日）	豊富中学校学芸会	×	他のイベントと重なる。
	27 日（土）	豊富町民文化（教育委員会主催）	×	他のイベントと重なる。
	28 日（日）	豊富町民文化（教育委員会主催）	×	他のイベントと重なる。
11	3 日（土）	子供交流活（地元小中学校主催）	×	他のイベントと重なる。
	4 日（日）	なし （短時間の市民自然講座あり）	◎	第 2 回開催予定日
	10 日（土）	なし	○	順延予備日
	11 日（日）	豊富町歴史探訪 （地元 NPO 主催）	×	他のイベントと重なる。

3. 環境学習ツアー内容

環境学習ツアー内容は、以下を計画する。

〈第1回 9月30日（日）9：30～12：30〉

表-8.3 第1回サロベツ環境学習ツアータイムテーブル

時刻	時間	項 目	手配者 担当者	備 考
9:15	15 分	受付	受注者	
9:30	5 分	開会・開会挨拶	稚内自然保護官 事務所	
9:35	30 分	事前学習 (当日の流れ等のオリエンテーショ ン・自然再生事業紹介)	稚内自然保護官 事務所 受注者	湿原セン ター内
10:05	5 分	休憩・移動準備	受注者	
10:10	10 分	フィールドへの移動（徒歩）	受注者	サロベツ 川放水路 南側湿原
10:20	100 分	フィールド活動（11:35 落合沼）	稚内自然保護官 事務所 受注者	
12:00	5 分	湿原センターへ移動（バス使用）	受注者	
12:05	5 分	休憩	—	
12:10	15 分	意見交換・アンケート回答	稚内自然保護官 事務所 受注者	
12:25	5 分	閉会挨拶・12:30 閉会	稚内自然保護管 事務所	

〈第2回 11月4日（日）10：30～12：30〉

表-8.4 第2回サロベツ環境学習ツアータイムテーブル

時刻	時間	項 目	手配者 担当者	備 考
10:15	15 分	受付	受注者	
10:30	5 分	開会・開会挨拶	稚内自然保護 官事務所	
10:35	25 分	事前学習 (当日の流れ等のオリエンテーシ ョン・自然再生事業紹介)	稚内自然保護 官事務所 受注者	湿原セン ター内
11:00	5 分	休憩・準備	受注者	
11:05	5 分	フィールドへの移動（バス使用）	受注者	サロベツ 原生花園 園地跡地
11:10	50 分	フィールド活動 (サロベツ原生花園園地跡地)	稚内自然保護 官事務所 受注者	
12:00	5 分	湿原センターへ移動（バス使用）	受注者	
12:05	5 分	休憩	—	
12:15	15 分	意見交換・アンケート回答	稚内自然保護 官事務所 受注者	
12:25	5 分	閉会挨拶・12:30 閉会	稚内自然保護 官事務所	

※ 9:30～11:00 までNPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク主催の市民講座「サロベツ自然語講座」が開催されているため、その参加者と、一般募集の方々を中心に、自然再生事業地の環境学習を行う。

4. 機材等準備

環境学習ツアーにおける機材等準備は下表に示すとおりである。機材等は、原則的に受注者が手配、準備する。

表-8.5 環境学習ツアーの機材準備一覧表

準 備 品	数 量	備 考
配布資料①	20 部/回	自然再生事業地マップ、 現地で使用
配布資料②	20 部/回	事前レクチャー用資料
受付名簿	1 部/回	
筆記用具	20 セット/回	アンケート記入用
アンケート用紙	20 枚	
ネームプレート	20 セット/回	
プロジェクター	1 台	事前レクチャー用
ノート P C	1 台	事前レクチャー用
長靴	数足	貸出用
雨具	数着	貸出用
双眼鏡	20 個	貸出用
デジタルカメラ	3 台	記録用
応急セット	1 式	
ハチ用殺虫剤	1 個	
虫よけスプレー	2 個	
ガイド用写真	1 式	現地説明用
消毒液・噴霧器	1 式	口蹄疫対策
足洗いマット・ブラ シ・プール・水ポリタ ンク	1 式	外来種子等の持ち込み防 止対策
発信器	1～2 台/回	現地において説明者が使 用
レシーバー	20 台/回	参加者が使用
可動式橋	1 台	原生花園跡地の環境学習 にて使用

(2) 事前の広報活動

広報については下表に示すように、宗谷管内在住者、豊富町在住者、広域を対象にそれぞれの広報方法で実施した。環境学習ツアーの開催要項が広報先に浸透するよう2週間前を目処に広報を実施した。プレスリリース資料および掲示チラシ等を次頁以降に示す。

表-8.6 広報の範囲と方法一覧表

対 象 者	広 報 方 法
宗谷管内在住者 (稚内市他)	マスコミ各社へのプレスリリース (北海道新聞社・日刊宗谷・NHKなど)
豊富町在住者	豊富町内主要施設へのポスター掲示
広 域	関係者に対するメール発信 ホームページへの掲載

表-8.7 ポスター掲示先一覧表

No.	施設名	チラシ サイズ	枚数	掲示日		掲示を許可した者
				第1回	第2回	
1	サロベツ湿原センター	A3	1	9/19	10/23	自然保護官
2	豊富町共同福祉施設	A4	1	9/19	10/23	NP0事務局長
3	セイコーマート とよとみ店	A4	1	9/19	10/23	店主
4	セイコーマート エベコロ店	A4	1	9/19	10/23	店主
5	豊富フードセンター	A3	1	9/19	10/23	店員
6	サロベツマイハート 夢工房	A4	1	9/19	10/23	店主
7	沿岸バス豊富営業所	A3	1	9/19	10/23	受付窓口職員
8	うへのミート&フード	A4	1	9/19	10/23	店主
9	豊富町社会福祉協議会	A4	1	9/19	10/23	協議会職員
10	豊富町町民センター	A3	1	9/19	10/23	町教委職員
11	豊富町スポーツセンター	A4	1	9/19	10/23	受付窓口職員
12	豊富駅	A3	1	9/19	10/23	観光協会職員
13	豊富町観光情報センター	A3	1	9/19	10/23	観光協会職員
14	豊富温泉ふれあいセンター	A3	1	9/19	10/23	受付職員
15	豊富温泉コンシェルジュデスク	A3	1	9/19	10/23	温泉コンシェルジュ
16	ホテルニュー温泉閣	A4	1	9/19	10/23	店主
17	豊富高校	A4	1	9/19	10/23	事務員
18	豊富中学校	A4	1	9/19	10/23	事務員
19	豊富小学校	A4	1	9/19	10/23	事務員
20	餅カフェ わが家	A4	1	9/19	10/23	店主



豊富町共同福祉施設の掲示



JR 豊富駅の掲示



豊富温泉ふれあいセンターの掲示



豊富観光情報センターの掲示



餅カフェ わが家の掲示



沿岸バス豊富営業所の掲示



豊富町民スポーツセンターの掲示



うえのミート&フードの掲示



サロベツ湿原センターの掲示



豊富温泉コンシェルジュデスクの掲示

プレスリリース資料

(第1回環境学習)

平成24年9月14日

環境省稚内自然保護官事務所

関係各位

お知らせ

＜件名＞『サロベツ環境学習ツアー

～この秋は自然再生の現場を見に行こう！第1弾～』参加者募集について

＜お知らせ内容＞

環境省稚内自然保護官事務所では、平成18年度より環境省などが取り組んでいる上サロベツ自然再生事業について広く一般の方々に知っていただくためのイベントとして、「サロベツ環境学習ツアー～この秋は自然再生の現場を見に行こう！～」を開催致します。

当日は、サロベツ湿原センターにて上サロベツ自然再生協議会の取り組み概要に関する説明を受けた後、ガイドの引率で自然再生事業地の一つ、「落合沼」を見学します。

普段は立ち入ることができない調査用木道を特別に通行し、現地を見学するツアーですので、自然再生の現状を知っていただく貴重な機会です。

なお、自然再生事業地の見学ツアーは11月にかけて、全3回企画されており、今回の企画はその1回目です。周知にご協力のほど、よろしくお願い致します。

※落合沼：湿原の水が放水路へ流出することを防ぎ、後背する湿原を保全するため、かつて掘られた水抜き水路を埋め戻し、乾燥化した落合沼を掘削することによって、沼を復活させた。

＜行事の内容等について＞

●開催日：平成24年9月30日（日）9:30～12:30頃まで

※荒天時は、翌週10月6日（土）に延期とし、朝8時に参加者に連絡します。

●集合場所：サロベツ湿原センター内エントランス 9:30

●参加費：無料（定員15名・先着順）

●持物・服装：防寒着（汚れても良い、動きやすい服装）・長靴

●申込期限：9月26日（水）

＜予告＞

第2弾：10月20日（土） 泥炭採掘跡地見学ツアー

第3弾：11月4日（日） 旧原生花園見学ツアー

＜お問合せ・お申し込み先＞

サロベツ湿原センター

TEL：0162-82-3232 FAX：0162-82-1009

E-mail：RO-WAKKANAI@env.go.jp

＜主催者＞

環境省稚内自然保護官事務所

TEL：0162-33-1100 FAX：0162-33-1101

E-mail：center@sarobetsu.or.jp

プレスリリース資料

(第2回環境学習)

平成24年10月23日

環境省稚内自然保護官事務所

関係各位

お知らせ

＜件名＞『サロベツ環境学習ツアー ～この秋は自然再生の現場を見に行こう！ 第3弾・サロベツ原生花園園地跡地～』 参加者募集について

＜お知らせ内容＞

環境省稚内自然保護官事務所では、平成17年度より環境省などが取り組んでいる上サロベツ自然再生事業について広く一般の方々に知っていただくためのイベントとして、「サロベツ環境学習ツアー～この秋は自然再生の現場を見に行こう！ 第3弾・サロベツ原生花園園地跡地～」を開催致します。

当日は、サロベツ湿原センターにて上サロベツ自然再生事業の取り組み概要に関する説明を受けた後、環境省稚内自然保護官事務所 自然保護官などの案内で自然再生事業地の一つ、「サロベツ原生花園園地跡地」を見学します。

この場所は、昭和61年にビジターセンター（サロベツ原生花園自然教室）が整備され、サロベツ湿原の自然に親しめる観光拠点として多くの方々に利用されてきました。しかし、近年は施設の重さなどによって地下水位が低下し湿原の乾燥化を招くなど、湿原への環境負荷が懸念されていたことから、平成22年度秋をもって建物と駐車場が撤去され、木道も調査用に半分を残して撤去されました。

（その後、従来の場所から1.5km東側の円山地区に「サロベツ湿原センター」が移転オープンしました）

現在、サロベツ原生花園園地跡地では、湿原の回復を図る自然再生事業が行われており、関係者以外は入ることができません。今回は、普段は立ち入ることができない原生花園園地跡地を間近に見学し、調査用木道を特別に通行するツアーですので、自然再生の現状を知っていただく貴重な機会です。周知にご協力のほど、よろしくお願い致します。

なお、自然再生事業地の見学ツアーは9月末から2回行われてきましたが、今回は3回目で最終回となります。

＜行事の内容等について＞

- 開 催 日：平成24年11月4日（日）10:30～12:30頃まで（小雨決行）
※荒天時は、翌週11月10日（土）に延期とし、当日朝8時に参加者に連絡します。
- 集 合 場所：サロベツ湿原センター内エントランス 10:30
- 参 加 費：無料（定員15名・先着順）
- 持物・服装：防寒着・レインコート（雨合羽）・長靴
- 申込 期 限：10月31日（水）

＜お問合せ・お申し込み先＞

サロベツ湿原センター TEL：0162-82-3232 FAX：0162-82-1009
E-mail：center@sarobetsu.or.jp

＜主 催 者＞

環境省稚内自然保護官事務所 TEL：0162-33-1100 FAX：0162-33-1101
E-mail：RO-WAKKANAI@env.go.jp



第1弾!

この秋は**自然再生**の
現場を見に行こう!

普段は入ることができない
『**落合沼**』に
今回特別に調査用木道を歩いて入り、
ガイドと一緒に見学します

環境学習ツアー

9/30 SUN
参加無料

＜予告＞
第2弾! 10月20日(土)
泥炭採掘跡地見学ツアー
第3弾! 11月4日(日)
旧原生花園跡地見学ツアー

写真: 自然再生事業により水面が回復した落合沼(2011.10)

開催日 平成24年9月30日(日) 9:30~12:30頃まで
※荒天時は翌週10月6日(土)に延期とし、朝8時までにご連絡します

集合場所 サロベツ湿原センター内エントランス 9:30

参加費 無料(定員15名) **申込期限** 9月26日(水)

持物・服装 防寒具(汚れても良い、動きやすい服装)・長靴

連絡先 サロベツ湿原センター tel: 0162-82-3232
fax: 0162-82-1009 mail: center@sarobetsu.or.jp

主催 環境省稚内自然保護官事務所

第3弾！

この秋は**自然再生**の
現場を見に行こう！

11/4 日
参加無料

サロベツ 環境学習ツアー

建物の跡地は今どうなっているのでしょうか？

普段は入ることができない

『サロベツ原生花園 園地跡地・木道』

に今回特別にガイドと一緒に入り、見学します

写真：調査用に残された木道

開催日 平成24年11月4日（日） 10：30～12：30頃まで

※小雨決行（荒天時は翌週11月10日（土）に延期とし、朝8時までにご連絡します）

集合場所 サロベツ湿原センター内エントランス 10:30

参加費 無料（定員15名） 申込期限 10月31日（水）

持物・服装 防寒具（汚れても良い、動きやすい服装）・長靴・雨具

連絡先 サロベツ湿原センター tel：0162-82-3232

fax：0162-82-1009 mail：center@sarobetsu.or.jp

主催 環境省稚内自然保護官事務所



サロベツ湿原センター宛

FAX: 0162-82-1009

メール: center@sarobetsu.or.jp

サロベツ環境学習ツアー申込用紙

住所			
電話			
携帯電話	(中止時に連絡を取りたいため)		
メール			
フリガナ 氏 名	年齢	性別	長靴が用意できない方は貸し出しますので、サイズをご記入下さい

(3) 学習資料の作成

各環境学習ツアー開催に際して、事前学習としてサロベツ湿原の基礎知識のオリエンテーションおよび自然再生事業紹介を行った。作成した学習資料は資料編の「9.1 環境学習用資料(事前学習)」に示した。

(4) 当日の運営

環境学習会の当日は、前出のタイムテーブルに示した時間配分および担当者に従って事前学習および野外学習ツアー等を実施した。なお、環境学習に際しては、事前に現地踏査を実施して下記の作業を実施した。また、各環境学習の様子を画像で次頁以降に示した。

<第1回環境学習実施日前の作業>

- ・降雨が続いたことなどから平成24年9月21日に現地の下見を実施し、発注者に現状報告するとともにウルシ類除去等の作業の承諾を得た。
- ・木道周囲のウルシ類の繁茂が激しいため、参加者が触れそうな箇所については除去した(主に9月24日に作業を実施)。
- ・敷板を敷設していない箇所、一部泥濘が著しい箇所があったので、板の敷設作業を実施した(主に9月24日に作業を実施)。

<第2回環境学習実施日前の作業>

- ・環境学習ツアー前日の11月3日に現地の下見を行った。
- ・見学予定地と道道との間にある水路に金属製の仮橋を設置し、設置場所を特定するとともに仮橋の安全性を確認した。
- ・当日予定されるルートを確認して足場の安定性を確認した。

<第1回環境学習・事前学習>



開会のあいさつ



サロベツ湿原についての学習



自然再生事業に関する学習

<第1回環境学習・野外学習>



野外学習出発時の注意点確認
案内用トランシーバー配布



湿原センターから道道を移動



木道まで草地を横断



外来植物等侵入防止のために靴を洗淨
口蹄疫予防の消毒を実施



木道までの林内移動



植物観察等を行いながら木道を移動



緩衝帯での説明



緩衝帯付近の水路



途中でタンチョウを観察する



落合沼へ木道を移動



落合沼での説明



落合沼



沼に飛来してきたカモ類を観察

<第1回環境学習・意見交換会、アンケート記入>



アンケート回答中



環境学習の感想・意見発表

<第2回環境学習・事前学習>



開会のあいさつ



サロベツ湿原についての学習



自然再生事業に関する学習

<第2回環境学習・野外学習>



現地案内板前で説明



植生回復実験エリアでの説明



木道への移動



木道撤去跡地



木道撤去跡地での説明



画像を用いて植生遷移を説明



仮橋を渡り道道へ移動
奥に見える車両は送迎バス

<第2回環境学習・意見交換会、アンケート記入>



(5) 実施結果の取りまとめ

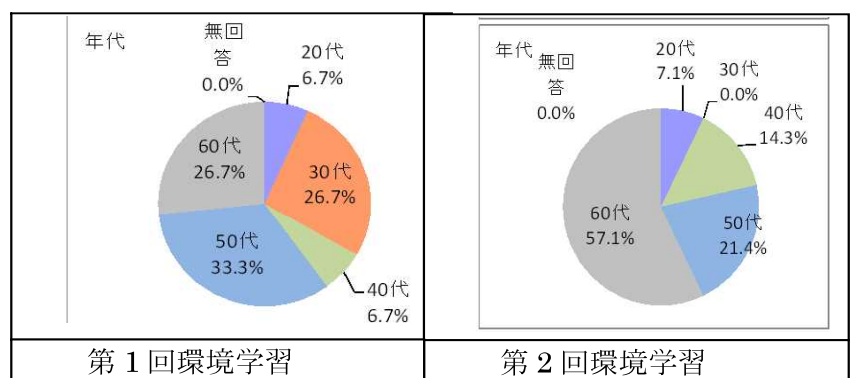
環境学習の参加者数は下表に示すように、第1回15名、第2回14名であった。この他に説明要員、記録要員および安全確保等のための関係者として5名(発注者2名、受注者3名)が随行した。参加者の性別内訳は、第1回はほぼ同数であったが、第2回は男性の方が多くなっている。これは、開催が寒冷期(11月)であったことが影響している可能性があるのではないかと推察される。所在地別の内訳では、第1回は地元の豊富町が大部分であったが、第2回目は稚内市の方が多くなっており、旧原生花園園地に対する関心が広範囲からの参加を誘引した結果ではないかと推察する。その他、第1回では留萌市から2名、幌延町から2名の参加者があったことが特筆される。また、第2回では参加者の知人として東京から2名の参加があった。

参加者数の内訳は、NPO会員より一般参加者が占める割合が2回ともに多くなっていた。広報の効果が表れているものと推定される。

表-8.8 環境学習参加者の集計

区分	開催日	参加者数 合計	性別内訳		所在地別内訳				NPO会員区分		備 考
			男	女	豊富町	稚内市	その他道内	道外	会員	一般	
第1回	H24.9.30	15名	7	8	10	1	4	—	6	9	その他道内は幌延町2名と留萌市2名
第2回	H24.11.4	14名	9	5	5	7	—	2	5	9	道外は東京2名 一般参加9名の内、 1名は第1回にも参加

参加者の年代別内訳は右図に示すとおりである。第1回環境学習(9/30)では、30代、50代及び60代がそれぞれ30%弱を占めている。一方、第2回環境学習(11/4)では、60代が57.1%、次いで50代が21.4%と80%近くを占めている。このような違いは、第2回環境学習では直前まで開催されていた市民講座「サロベツ自然語講座」の参加者に勧誘したこと、および旧原生花園園地に対する関心が高年代の参加者の割合を増やしたのでないかと推察する。



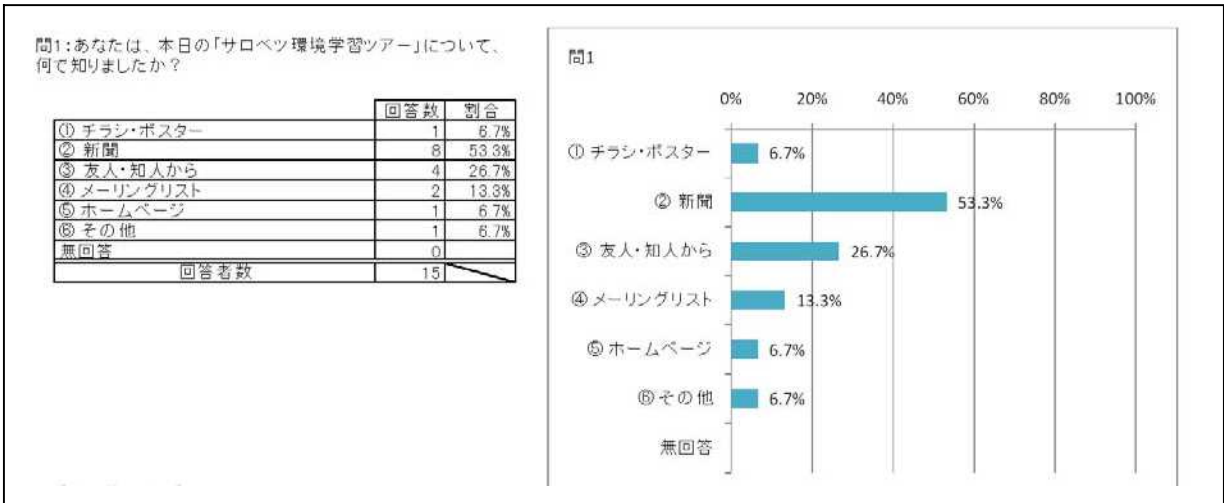
環境学習終了後に、今後の環境学習の在り方を考える際の参考とする目的でアンケートを実施した。アンケート用紙は資料編に示した。

<第1回環境学習アンケート結果>

アンケートは参加者 15 名を対象に実施し、回収率 100%であった。

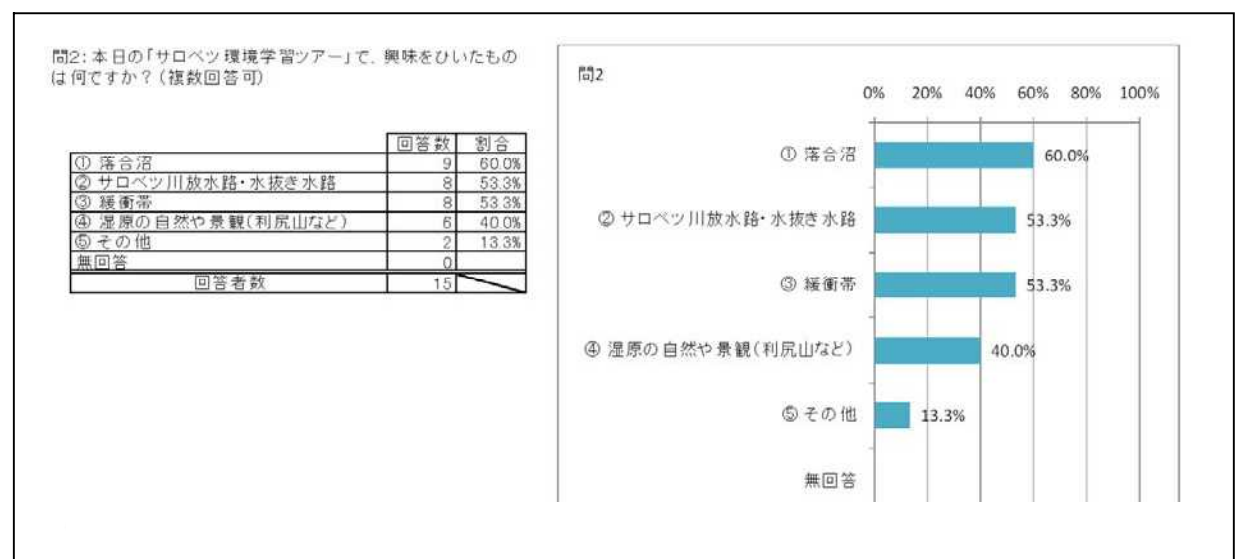
(問1)あなたは、本日の「サロベツ環境学習ツアー」について何で知りましたか？

広報効果を確認する意味合いの設問である。新聞記事により今回の環境学習を知った方が過半数であり、プレスリリースの効果が表れており、今後も有効な方法と考えられる。



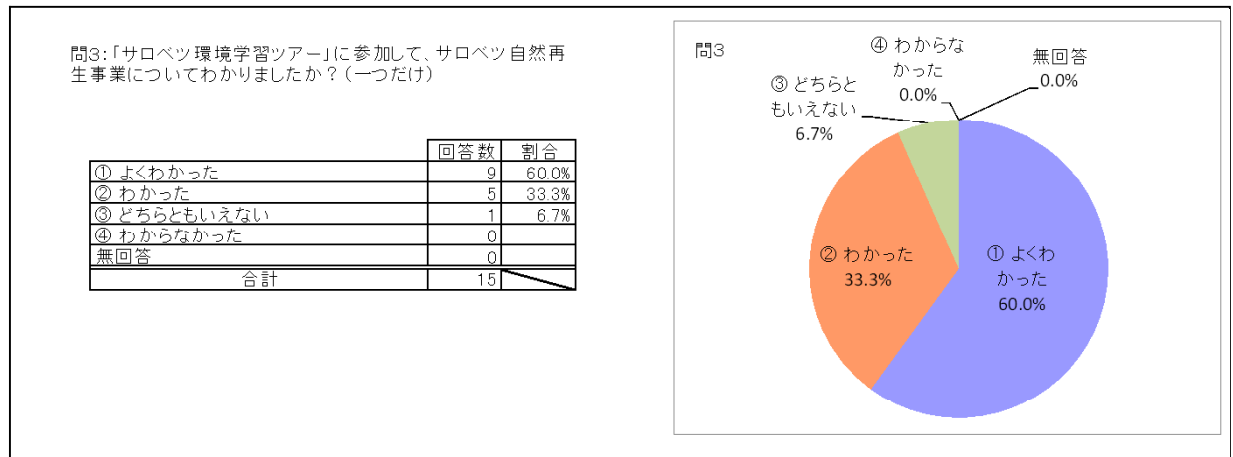
(問2)本日の「サロベツ環境学習ツアー」で、興味をひいたものは何ですか？

環境学習の主催者側の「ねらい」がどれほど受け入れられているかを知るための設問である。複数回答で、今回のツアーの目玉である「落合沼 60.0%」、「サロベツ放水路水抜き水路 53.3%」および「緩衝帯 53.3%」が高い回答率となっており、これらについての理解が深まった事が期待できる回答となっている。



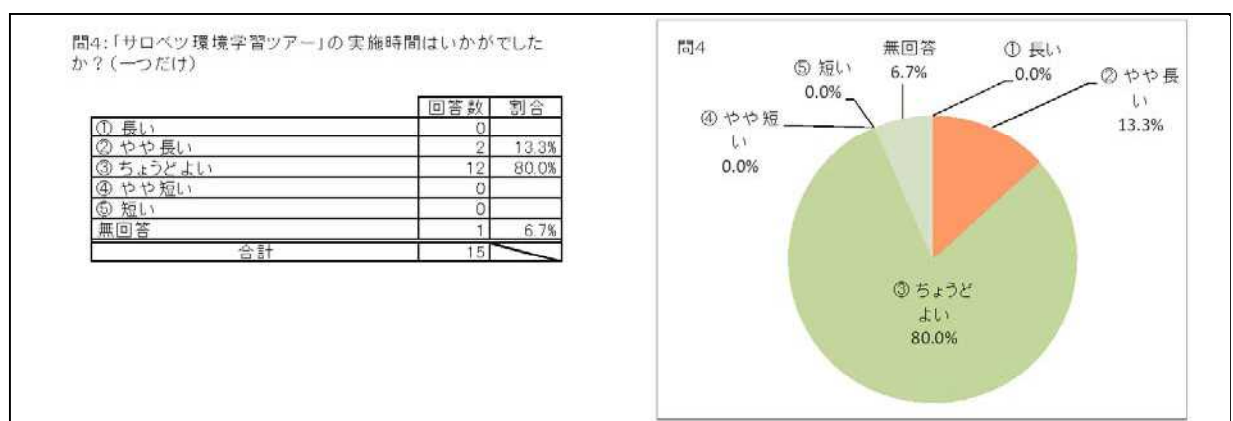
(問3)「サロベツ環境学習ツアー」に参加して、サロベツ自然再生事業についてわかりましたか？

環境学習に参加することにより自然再生事業についての理解が深まったかを質問している。「よくわかった 60.0%」および「わかった 33.3%」で 90%を超えており、環境学習が効果的であると理解できる。



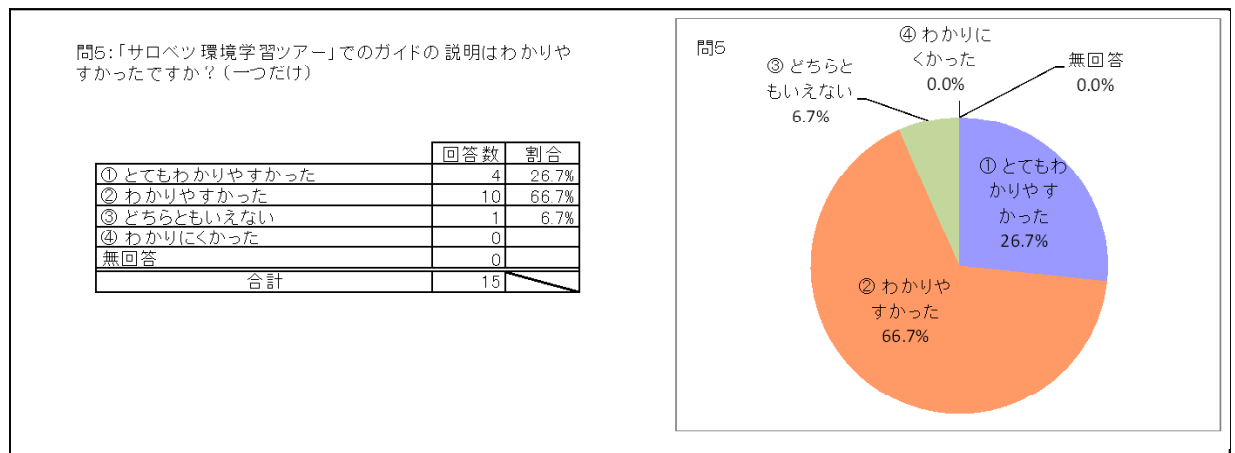
(問4)「サロベツ環境学習ツアー」の実施時間はいかがでしたか？

環境学習は午前中の約3時間で実施した。環境学習の時間として「ちょうどよい 80.0%」の結果となっている。一方、「やや長い 13.3%」との意見もあり、徒歩での移動距離が長いことが影響しているものと考えられるが、夏季等の花の時期などに開催されれば、途中で関心を引く動植物等の観察などがあるので改善される事も予想される。いずれにしても、半日程度の工程が好ましいと言えよう。



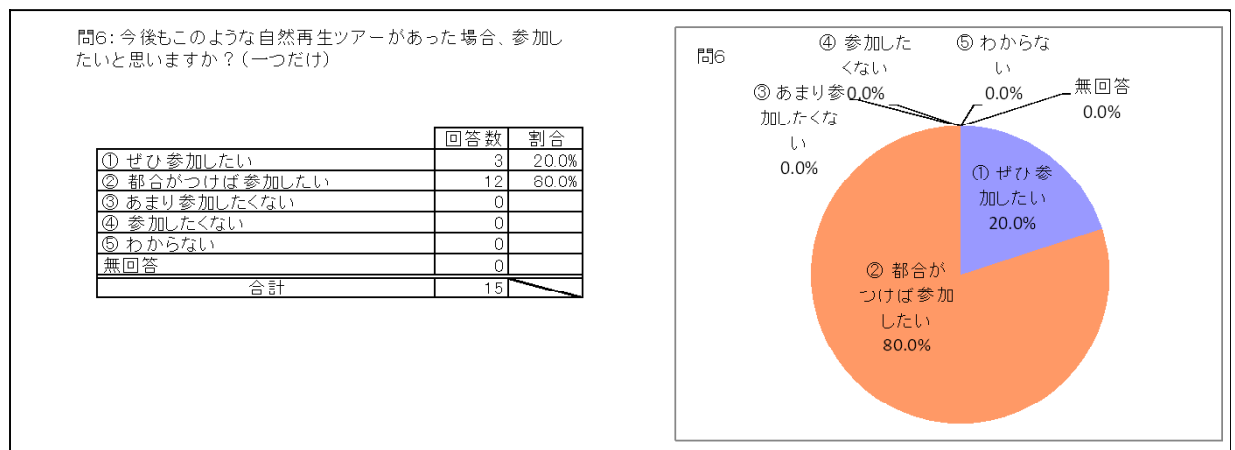
(問 5)「サロベツ環境学習ツアー」でのガイドの説明はわかりやすかったですか？

環境学習のガイドの説明は、「とてもわかりやすかった 26.7%」と「わかりやすかった 66.7%」を合わせると 90%を超える値となり、比較的評価されていると解釈できる。一方、「とてもわかりやすかった」の割合が 30%以下であったので、今後も、五感に訴えるなどの解りやすい説明の工夫が必要であろう。



(問 6)今後もこのような自然再生ツアーがあった場合、参加したいと思いますか？

今後の参加の意向を質問した。「ぜひ参加したい 20.0%」及び「都合がつけば参加したい 80.0%」と、今回の環境学習が比較的好評であったことがうかがえる。また、「都合がつけば参加したい」との回答に対応して、早めの広報が必要であることが解った。



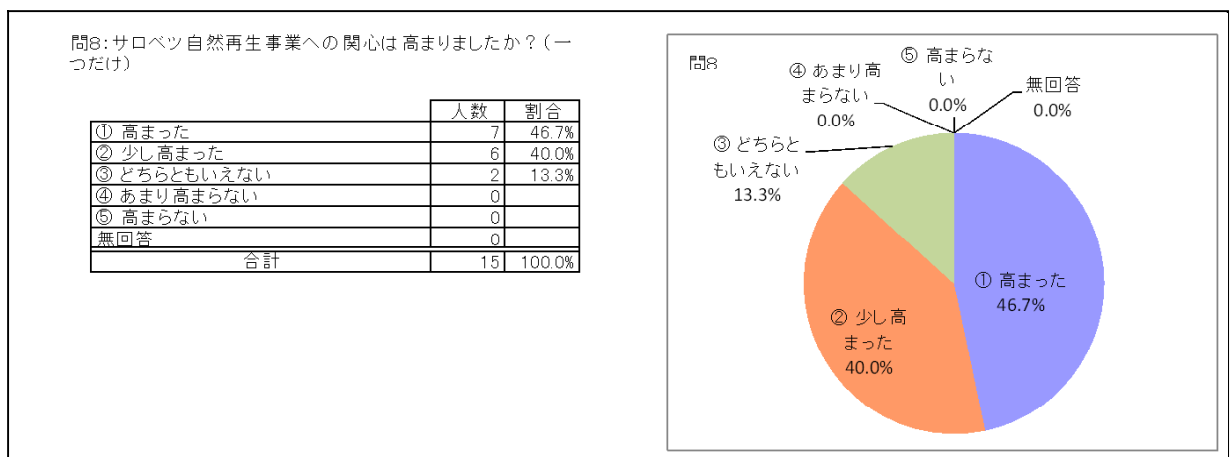
(問 7)上記の問 6 で、あなたがそのように回答した理由はなぜですか？

問 6 の参加したい理由を自由回答形式で質問した結果を以下に示す。「ぜひ参加したい」の理由に「地元の素晴らしさを再認識したとの」記載があり、また、「都合がつけば参加したい」の理由に「普段行くことができない場所へ行けるのは魅力、学びもありつつ自然も楽しめた」との記載がある事が特筆される。

問7: 問6(今後もこのような自然再生ツアーがあった場合、参加したいと思いますか？)の回答理由	
記述内容	問6の回答
もっと知りたいから。	ぜひ参加したい
住んでる所の近くの自然が、どこが「スゴイ！」のか、よくわかったから。それを生かしていきたい。観光、教育、地域その他…	
身近にあるサロベツ原野の状態を知ることができ楽しかったのと、現状が大変ではあるが地域の方の協力もあり、復活している場面がみられたから	都合がつけば参加したい
体調面で	
普段行くことができない場所へ行けるというのは魅力 学びもありつつ自然も楽しめた	
乾燥化対策に興味深い	
自然の中を歩きたいので！	
口頭での説明も貴重なものも多く、なかなか一度ではおぼえられない	
自然って大切なものであるから	
ちょうどよい時間で、心と身体によい経験だった	
自然再生の経過を見たい(長生きしないとだめかな？)	
地球の自然環境の変わりように関心があり	

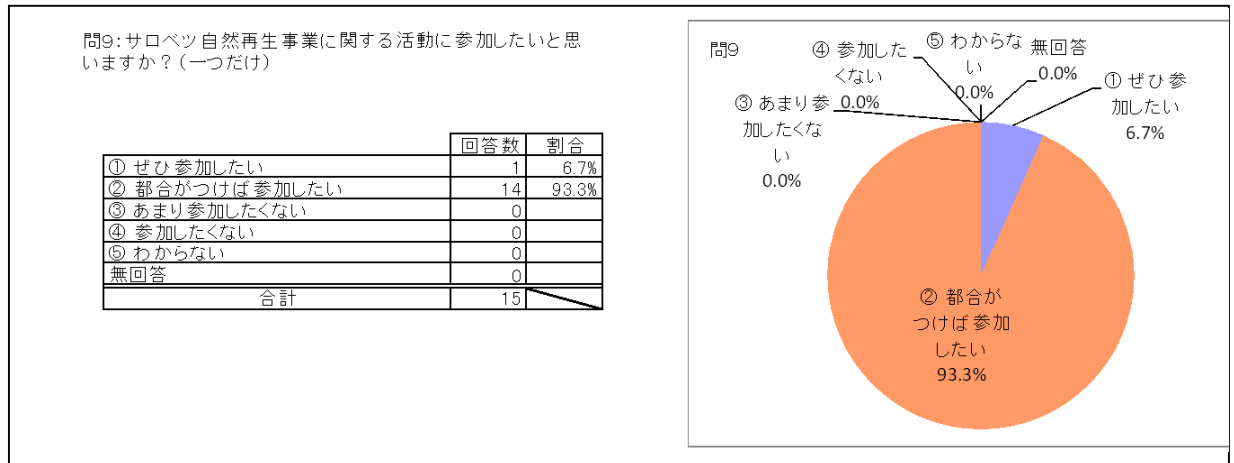
(問 8)サロベツ自然再生事業への関心は高まりましたか？

自然再生事業への関心の高まりは、「高まった 46.7%」と「少し高まった 40.0%」の合計で 90%弱となっており、環境学習が自然再生事業への関心を高めた効果があったことが窺える。



(問 9)サロベツ自然再生事業に関する活動に参加したいと思いますか？

今後、自然再生事業に関する活動への参加を質問したところ、「ぜひ参加したい 6.7%」と「都合がつけば参加したい 93.3%」となっており、農閑期や祝祭日などの都合がつきやすい時期を選定して、早めの広報を行えば参加者の拡大が期待できる回答となっている。



(問 10)上記の問 9 で、あなたがそのように回答した理由はなぜですか？

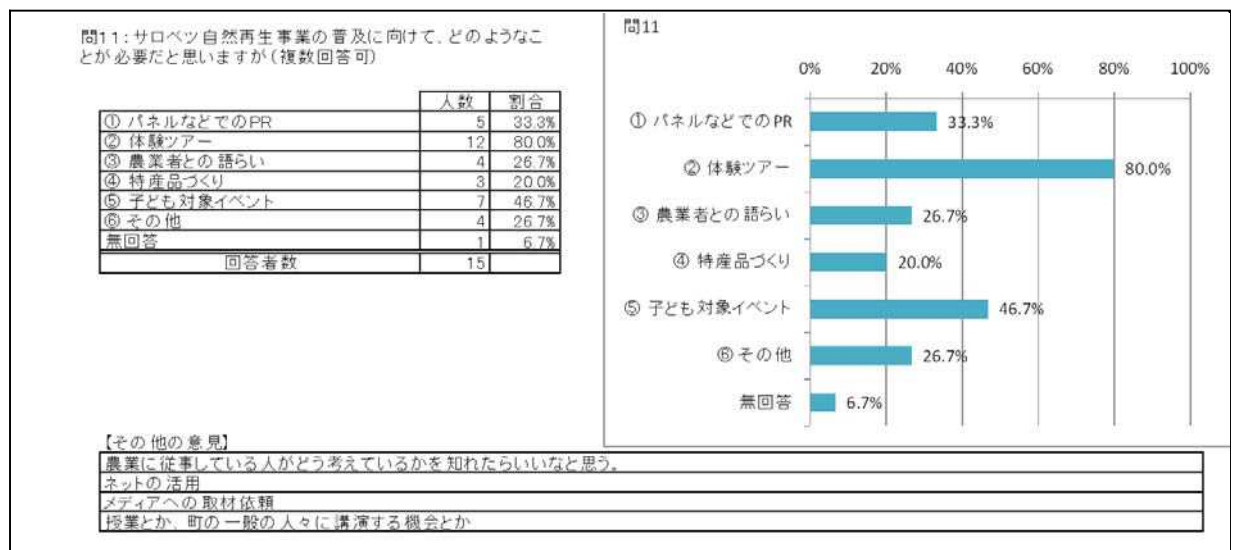
自然再生事業に関する活動の参加理由は、下記に示すとおりである。「都合がつけば参加したい」の理由として「自分がかかわることで、もっと身近な問題としてとらえることができるから」と前向きな回答があった。

問10: 問9(サロベツ自然再生事業に関する活動に参加したいと思いますか？)の回答理由

記述内容	問9の回答
知らないことばかり	ぜひ参加したい
自分がかかわることで もっと身近な問題としてとらえることができるから	都合がつけば参加したい
体力的にどうかと	
体調面で	
サロベツ環境に興味をもったので	
自分が、生まれた、土地であるから。	
気持ちはあるけど、いろいろ事情もあるので	
せっかくこの地区に住んでいるので。	
大都会東京から来たので、自然保護・再生に直接関われる機会にこれまで乏しかったから	都合がつけば参加したい
地球の変わりようは危機的状況では？という思い	

(問 11)サロベツ自然再生事業の普及に向けて、どのようなことが必要だと思いますか？

自然再生事業の普及に向けてどのようなことが必要かを複数回答で質問したところ、「体験ツアー80.8%」、「子供対象イベント 46.7%」、「パネルなどでの PR33.3%」との回答を得た。子供も参加できる家族対象のイベントの開催が普及に効果的であると解釈できる。この他の意見としては、「農業に従事している人がどう考えているかを知れたらよい」、「ネットの活用、メディアへの取材依頼」及び「授業とか、町の一般の人々に講演する」が記載されていた。学校の社会学習プログラムとしての提案や出前教室(学習)などが今後の検討課題となるものと考ええる。

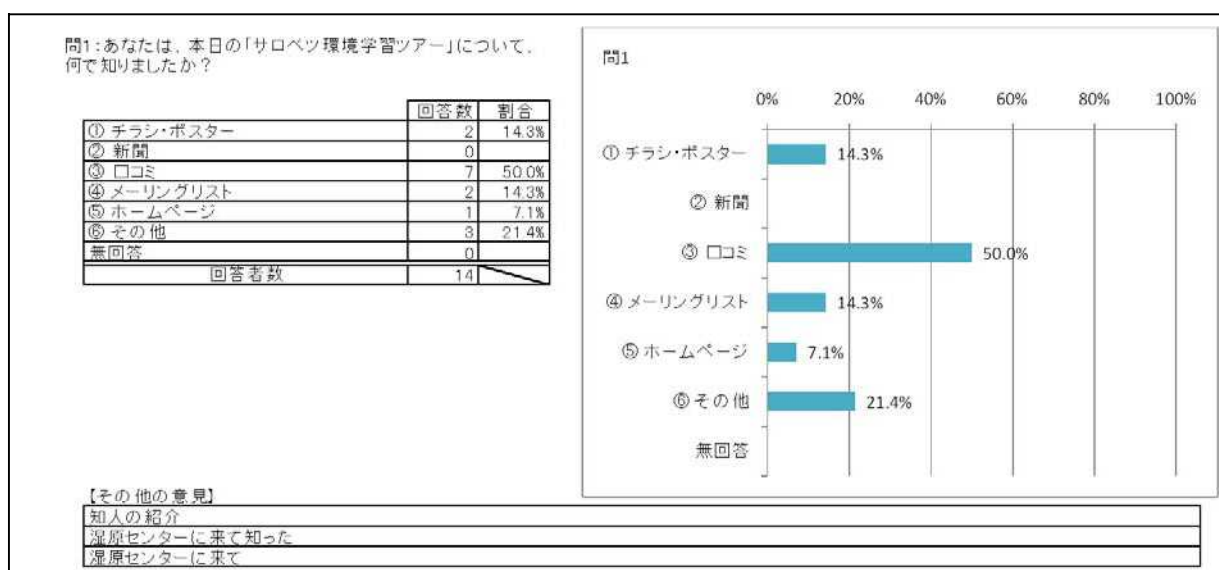


<第2回環境学習アンケート結果>

アンケートは参加者 14 名を対象に実施し、回収率 100%であった。

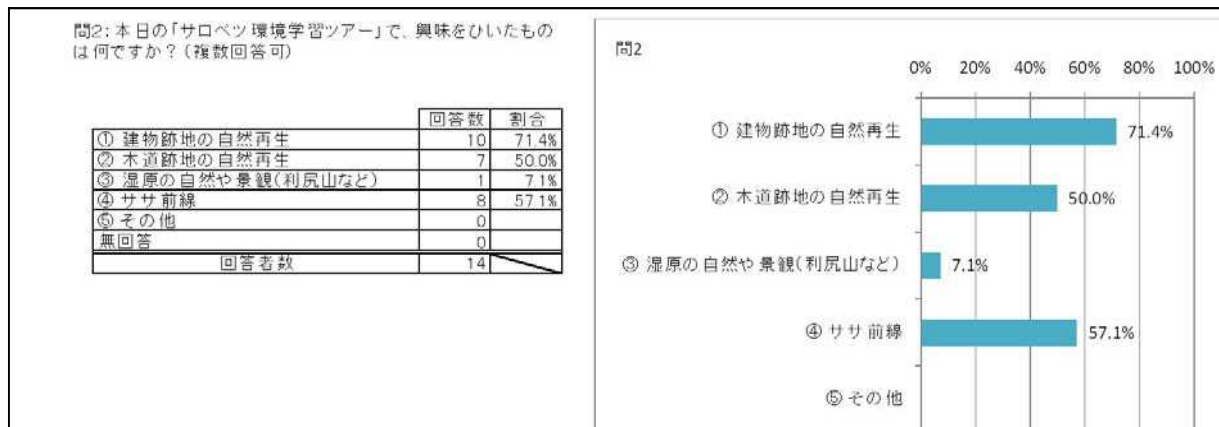
(問1) あなたは、本日の「サロベツ環境学習ツアー」について何で知りましたか？

広報効果を確認する意味合いの設問である。第1回では新聞記事により環境学習を知った方が過半数であったが、今回は環境学習の直前まで開催されていた市民講座「サロベツ自然語講座」(NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク主催)の参加者に続けて環境学習に参加するように勧誘したために、「口コミ 50.0%」が最も多くなった。プレスリリースの効果が見込めないわけではないと考える。



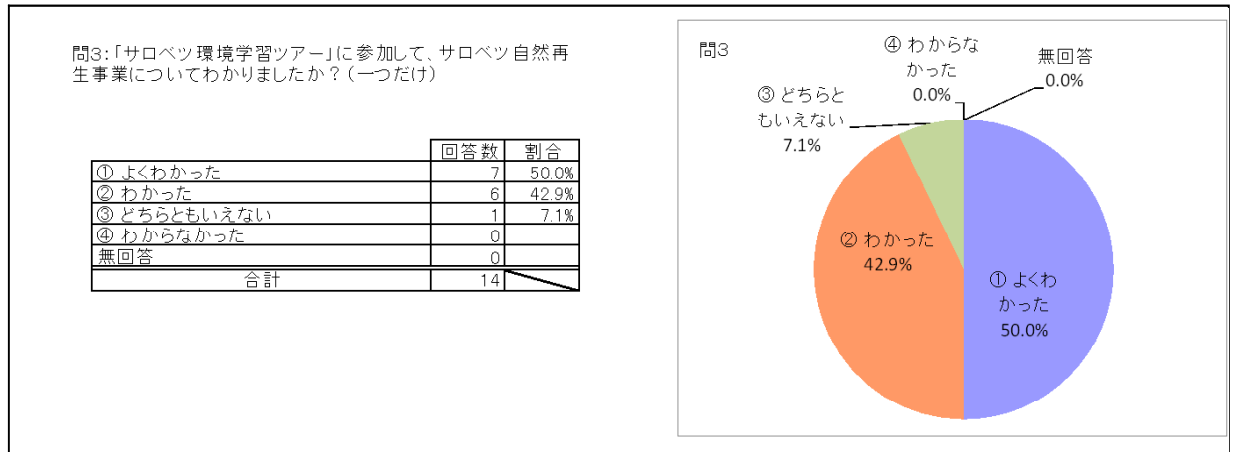
(問2) 本日の「サロベツ環境学習ツアー」で、興味をひいたものは何ですか？

環境学習の主催者側の「ねらい」がどれほど受け入れられているかを知るための設問である。複数回答で、今回のツアーの目玉である「建物跡地の自然再生 71.4%」、「ササ前線 57.1%」および「木道跡地の自然再生 50.0%」が高い回答率となっており、これらについての理解が深まった事が期待できる回答となっている。



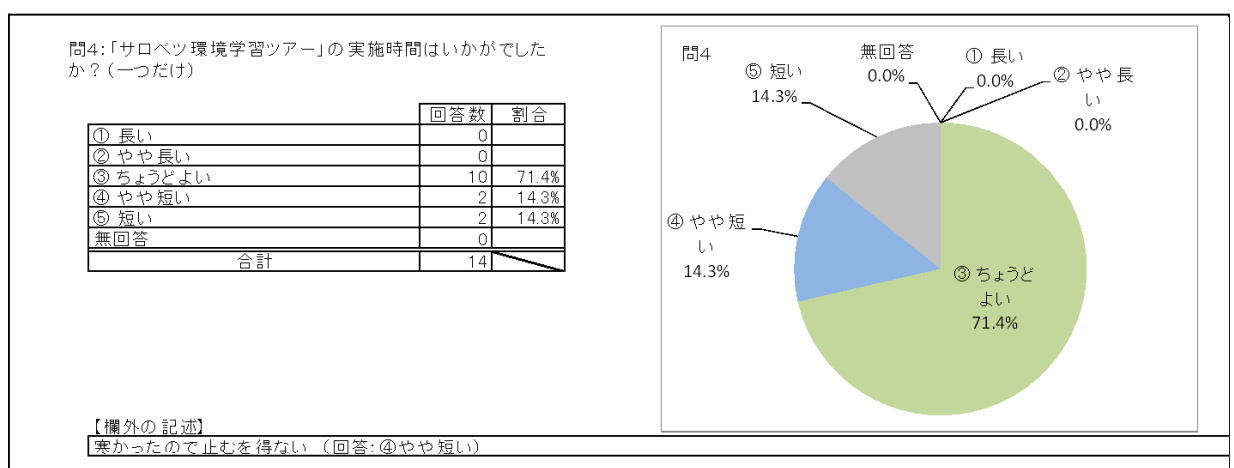
(問3) 「サロベツ環境学習ツアー」に参加して、サロベツ自然再生事業についてわかりましたか？

環境学習に参加することにより自然再生事業についての理解が深まったかを質問した。「よくわかった 50.0%」および「わかった 42.9%」で 90%を超えており、環境学習が効果的であると理解できる。ただし、「よくわかった」の割合は第1回 60.0%に比べて低下している。



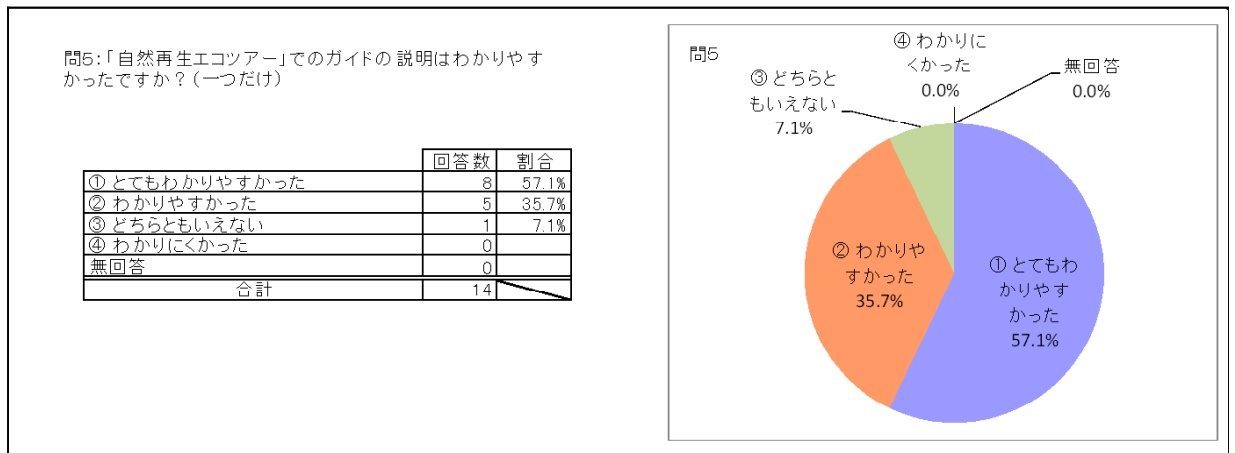
(問4) 「サロベツ環境学習ツアー」の実施時間はいかがでしたか？

環境学習は、気温の低下も考慮して午前中の約2時間で実施した。環境学習の時間として「ちょうどよい 71.4%」、「やや短い 14.3%」「短い 14.3%」の結果となった。気温の高い時期であれば、さらに木道の移動を延長するなどにより、環境学習の時間を適当な範囲に調整することは可能である。



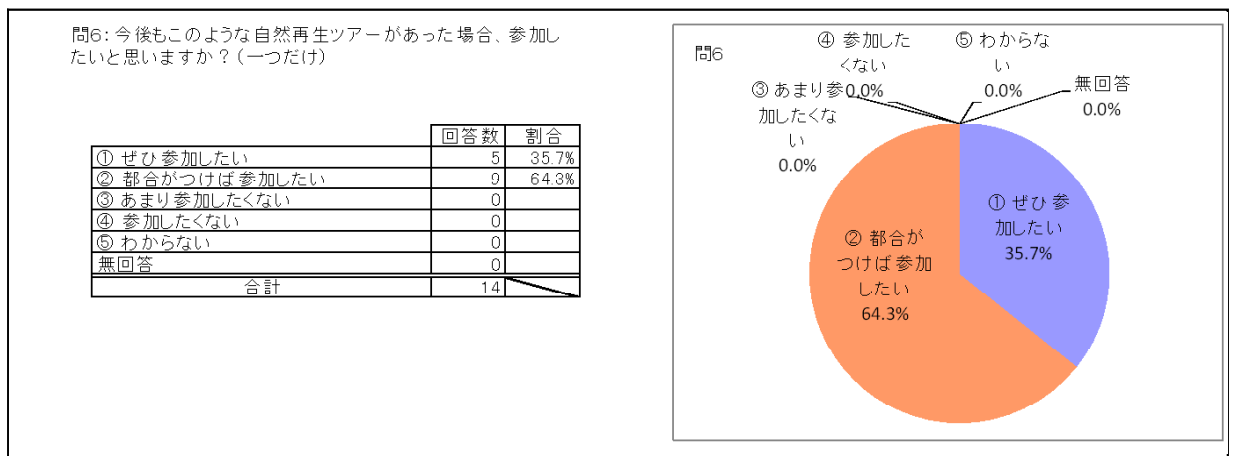
(問 5) 「サロベツ環境学習ツアー」でのガイドの説明はわかりやすかったですか？

環境学習のガイドの説明は、「とてもわかりやすかった 57.1%」と「わかりやすかった 35.7%」を合わせると 90%を超える値となり、比較的評価されていると解釈できる。また、「とてもわかりやすかった」の割合が第 1 回環境学習(26.7%)より倍増しているのは、野外学習において参加者を半分に分けて少人数の学習を行ったこと、さらに、事前学習の教材を改善した効果もあったと思われる。



(問 6) 今後もこのような自然再生ツアーがあった場合、参加したいと思いますか？

今後の参加の意向について質問した。「ぜひ参加したい 35.7%」及び「都合がつけば参加したい 64.3%」と、今回の環境学習が好評であったことがうかがえる。



(問 7) 上記の問 6 で、あなたがそのように回答した理由はなぜですか？

問 6 の参加したい理由を自由回答形式で質問した結果を以下に示す。「ぜひ参加したい」の理由に「まだまだ知らない事だらけなので勉強したい」との前向きな記載があり、また、「都合がつけば参加したい」の理由に「夏の時期にもう一度同じ場所を見たい」「自然再生の進み方をみてみたい」との記載がある事が特筆される。

問7: 問6(今後もこのような自然再生ツアーがあった場合、参加したいと思いますか?)の回答理由	
記述内容	問6の回答
まだまだ知らない事だらけなのでもっと勉強したい	ぜひ参加したい
長期の流れ一時だけではまだまだ未知！！	
湿原を守るために何が必要かを知りたいから	
子供の時から自然の中(オホーツクの海岸や沼地、川、今は兜沼公園など)で育って来たから、自然について興味が尽きない	
大変な関心を持っているから	都合がつけば参加したい
もう少し勉強して来ます	
自然再生の変化を見てみたい	
自然再生の進み方をみたみたいので	
平日は参加出来ない為	
夏の時期にもう一度同じ場所を見たい	
できるだけ参加したいです。勉強になるので	
自然保護、再生の必要性を改めて認識したため	
目に見えるササ前線の動きが知りたい	
仕事が優先なので・・・。何もないければ、よろこんで参加します！	

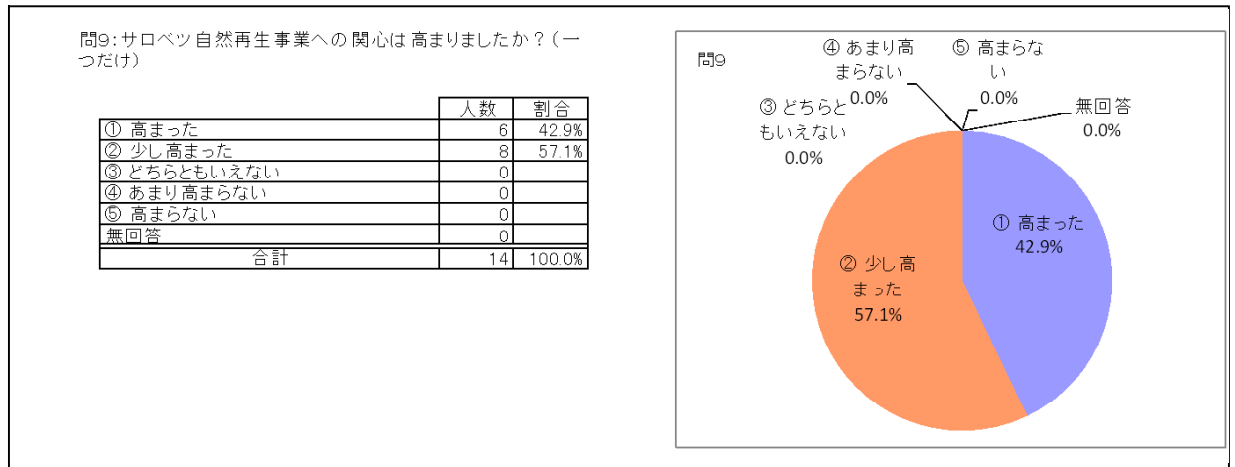
(問 8) ツアー全体を通して、ご意見・ご感想があればお書きください。

環境学習ツアー全般について意見を求めたところ、下記のような記載があった。ポイントは開催時期、わかりやすい学習機会の提供及び継続性であると考ええる。

問8: ツアー全体を通して、ご意見・ご感想があればお書きください	
記述内容	
とても良かったが、とても寒かった。	
寒かったが自然再生について興味を持った	
もっとあたたかい時期にやってほしい。	
ガイドさんも親切でわかりやすく、非常に勉強になりました。	
春や夏・秋のツアー(季節別)	
年一度は必ずやること	
何故、いつまでも水浸しなんだろうと思ってました(看板を読んでなかった)勉強になりました	
花の季節にも来たいと思います。	
初めてなので内容がまだ分からないので、2回3回と回を重ねてからでなければ・・・	
風が冷たかったので、あたたかい時期の方がよかったです。またやってほしいです。	

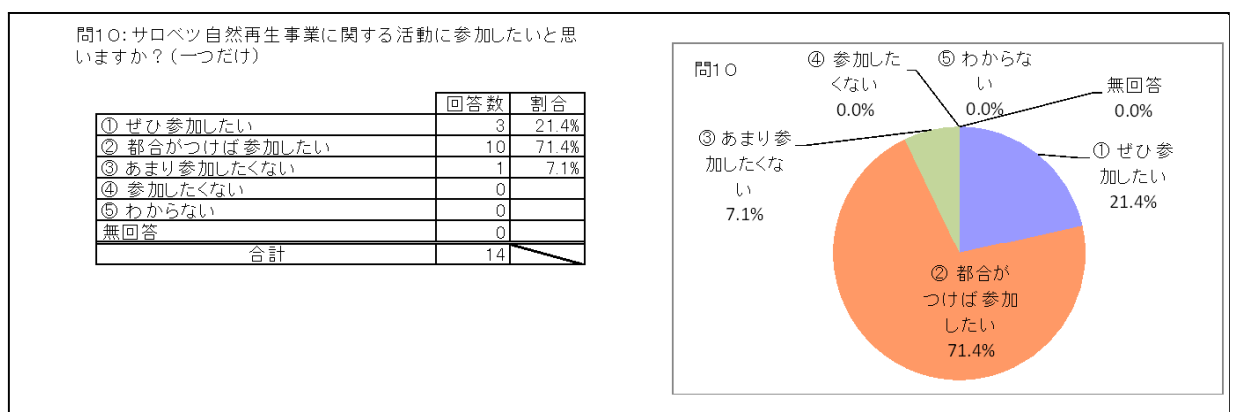
(問 9) サロベツ自然再生事業への関心は高まりましたか？

自然再生事業への関心の高まりは、「高まった 42.9%」と「少し高まった 57.1%」となっており、第 1 回アンケートと同様であり、環境学習が自然再生事業への関心を高めた効果があったことが解る。



(問 10) サロベツ自然再生事業に関する活動に参加したいと思いますか？

今後、自然再生事業に関する活動への参加の意向を質問したところ、「ぜひ参加したい 21.4%」と「都合がつけば参加したい 71.4%」となった。「ぜひ参加したい」の割合は第 1 回(6.7%)より高く積極的な参加者の割合が増加した。これは、参加者に市民講座「サロベツ自然語講座」の参加者が含まれていた結果ではないかと思われる。一方で、第 1 回ではいなかった「あまり参加したくない 7.1%」が含まれていた。



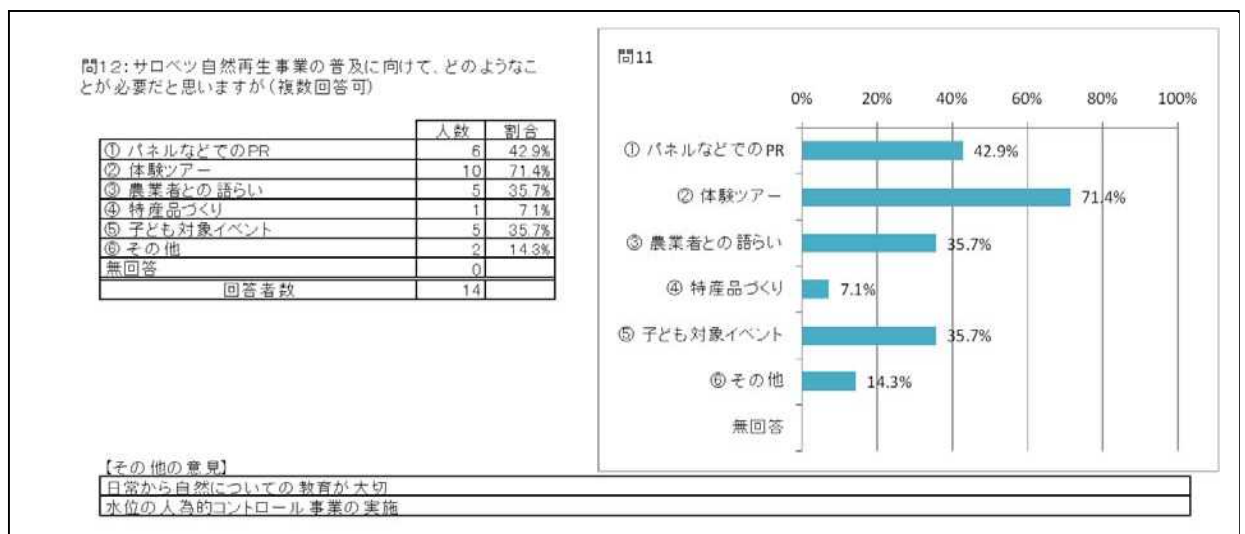
(問 11)上記等 10 の回答の理由。

自然再生事業に関する活動の参加理由は、下記に示すとおりである。「都合がつけば参加したい」の理由として「用事がなければ、何か活動したい」などの前向きな回答があった。一方、「あまり活動したくない」理由としては、「元々知らない事業であったため」と消極的な意見が記載されており、事業を知ってもらい、活動の輪を広げるためにも環境学習等の発信が必要であるといえよう。

問11: 問10(サロベツ自然再生事業に関する活動に参加したいと思いますか?)の回答理由	
記述内容	問9の回答
元気であれば 自然の寿命(人間の寿命)	ぜひ参加したい
湿原の保全が生態系の維持に必要なだとわかったから	
楽しい	
住民の関心を高める	都合がつけば参加したい
現地を見学したので	
もっと自然を知る為	
長い歴史の中で育って来た自然をより多くの人が意識をもって守っていかなければいけないと思った。	
最北の自然を大切に守りたい	
用事がなければ、何か活動したいです	
東京よりの参加なので都合が合えば	
この事業はやらなきゃならない事なので、少しでも役立ちたい	あまり活動したくない
仕事を休んでまで参加すれば専務に説教されるから・・・本当は、のどから手が出る程参加したいです！	
元々知らない事業であったため	

(問 12)サロベツ自然再生事業の普及に向けて、どのようなことが必要だと思いますか？

自然再生事業の普及に向けて、どのような事が必要かを複数回答で質問したところ、「体験ツアー71.4%」、「パネルなどでの PR42.9%」「農業者との語らい・子供対象イベント 46.7%」との回答を得た。第 1 回のアンケートと同様の結果であった。



8.2 サロベツの湿原と農業の共生をテーマとしたイベントの実施

サロベツ自然再生事業において地域住民等多様な主体の参画や連携を促すため、サロベツ湿原センターを活用し、サロベツの湿原と農業の共生をテーマとしたイベントを1回実施した。イベントの実施においては、以下のことを実施した。

(1) 企画立案と実施計画の作成

イベントの実施に際して、事前に開催の趣旨、全体スケジュール、参加者募集方法、開催時期等についての実施計画を作成した。実施計画を次頁以降に示した。

サロベツの自然と農業を満喫する一日

サロベツエコモーDay

(サロベツの湿原と農業の共生を
テーマとしたイベント実施計画書)

平成 24 年 9 月

株式会社 福山コンサルタント

1. 開催趣旨

サロベツ原野では、平成 17 年に設立した上サロベツ自然再生協議会により「湿原の自然再生」「農業の振興」「地域づくり」を目標とした自然再生事業が行われている。これら自然再生への取り組みを持続的なものにするためには、地域全体での協力した取り組みや、上サロベツならではの特徴ある地域づくりを進めていくことが必要である。

今回の「サロベツの自然と農業を満喫する一日 サロベツエコモーD a y」では、様々な企画を通してサロベツの湿原の保全や農業に関わる方々が交流を深め、上サロベツならではの特徴ある地域づくりに向けて地域全体が協力し合うきっかけになることを目的とする。

2. 開催要項

＜イベントのねらい＞

サロベツエコモーD a y 開催のねらいは以下の 6 項目である。

①サロベツの湿原と農業の共生に対する**住民意識の向上**

地元住民が参加することにより、上サロベツ地域で行われている湿原の再生と農業の共生を目指す自然再生事業についての意識向上を図る。

②サロベツの湿原と農業の共生に関する**住民参加活動の推進**

上サロベツ地域で行われている湿原と農業の共生に関する地元住民の意識が高まり、将来的に、地元住民が主体となった活動が展開されていくことを期待する。

③サロベツの湿原と農業の共生に向けた**多様な関係者の参画の推進**

農業関係者等の多様な地元関係者の参画が推進されていくことを期待する。

④サロベツの湿原と農業の共生に向けた活動の**情報発信**

地元住民に対して湿原と農業の共生に関する取り組みの情報発信を行う。また、参加者が自らの体験を周囲に発信することにより、不参加の住民に対しても住民意識の向上が期待される。

⑤サロベツの湿原と農業の共生に向けた**持続的活動の推進**

湿原と農業の共生に向けた取り組みが地元住民に定着し、持続的な活動へと発展していくことを期待する。

⑥サロベツの湿原と農業の共生に向けた地域づくりに関わる**人材の育成**

湿原と農業が共生する地域づくりに主体的に関わる人材が育ち、彼らが持続的な活動をリードしていくことを期待する。

〈全体スケジュール〉

サロベツエコモーD a yを開催するにあたってのスケジュールは以下の通り。

表-8.9 サロベツの湿原と農業の共生をテーマとしたイベント工程

工 種	9月			10月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
企画立案・実施計画	■	■				
事前の広報活動			■ 広報準備	■ プレスリリース		
準備期間 (各種手配、配布資料作成等)			■	■	■	
当日の運営					■	
実施結果の取りまとめ						■

〈参加者募集〉

サロベツエコモーD a y開催の主旨に則り、自然再生事業に興味のある地域の住民から、広く参加を募ることが重要である。また、上サロベツ自然再生協議会普及部会関係者やサロベツ・エコモー・プロジェクト関係者、農業関係者にも積極的に参加してもらえるように、重点的に周知を行うこととする。

1. 広く一般公募
2. 上サロベツ自然再生協議会再生普及部会員
3. サロベツ・エコモー・プロジェクト活動実施者（エコモー☆メンバー）
4. サロベツ・エコモー・プロジェクト運営支援組織（エコモー☆サポーター）
5. 農業関係者（JA 北宗谷、4H クラブ）

＜開催場所＞

今回のサロベツエコモーDay は、環境省の施設であるサロベツ湿原センターを中心に行うものとする。

- ①サロベツ湿原センター
- ②隣接のレストハウスサロベツ
- ③泥炭採掘跡地（自然再生エコツアー）
- ④山本農場（自然再生エコツアー）

＜開催時期、規模＞

サロベツエコモーDay 開催の主旨に則り、農業関係者にとって参加しやすい牧草収穫後の時期（農閑期）で、かつ一般からの参加も期待できる週末として、地元行事や湿原センターのイベント開催時期を出来るだけ避けて候補日を選定した(表・8.10 参照)。その結果、サロベツエコモーDay の開催日は、10月20日（土）が適当であるとの判断にした。なお、本イベントは、荒天時であってもサロベツ湿原センターやレストハウスでの室内活動が可能であること、また、その他の週末は既に地元行事の予定が入っていることから、荒天による順延予備日は設けないこととした。

表-8.10 サロベツエコモーDay 開催日の選定

月	日（曜日）	他のイベント等の有無	判 定	備 考
9	22（土・祭日）	なし	▲	連休で参加者が期待できない可能性があり、翌日もイベントがある。
	23（日）	渡り鳥観察会（野鳥の会主催）	×	他のイベントと重なる。
	29（土）	ペンケ沼清掃（地元 NPO 主催）	×	他のイベントと重なる。
	30（日）	第 1 回環境学習予定日	×	他のイベントと重なる。
10	6 日（土）	同、予備日	×	他のイベントと重なる。
	7 日（日）	市民自然講座（地元 NPO 主催）	×	他のイベントと重なる。
	8 日（月・祭日）	植樹活動（地元 NPO 主催）	×	他のイベントと重なる。
	13 日（土）	ペンケ沼清掃（地元 NPO 主催）	×	他のイベントと重なる。
	14 日（日）	豊富小学校学芸会	×	他のイベントと重なる。
	20 日（土）	エコモーDay 候補日	◎	
	21 日（日）	豊富中学校学芸会	×	エコモー交流環境学習ツアーの直後
	27 日（土）	豊富町民文化（教育委員会主催）	×	他のイベントと重なる。
	28 日（日）	豊富町民文化（教育委員会主催）	×	他のイベントと重なる。
11	3 日（土）	子供交流活（地元小中学校主催）	×	他のイベントと重なる。
	4 日（日）	第 2 回環境学習予定日	×	他のイベントと重なる。
	10 日（土）	同、予備日	×	他のイベントと重なる。
	11 日（日）	豊富町歴史探訪 （地元 NPO 主催）	×	他のイベントと重なる。

3. サロベツエコモーDay の内容

＜企画概要＞

サロベツエコモーDay 当日は、以下に示す 6 種類の企画を同時進行で行う。

①サロベツを食べよう ～豊富牛乳を使ったメニューコンテスト～

- ・時間：11:00～ 試食が無くなり次第終了
- ・場所：レストハウスサロベツ
- ・内容：サロベツ湿原センターに隣接するレストハウスにおいて、豊富牛乳を食材として使用した料理コンテストを開催し、当日会場を訪れた方に試食と投票をしてもらう。人気メニューについてはレストハウスでの提供を検討する。
- ・定員：試食者 30 名 / メニューコンテスト出品者 5 名

②自然再生エコツアー ～湿原と農業の共生を知ろう～

- ・時間：9:30～14:00
- ・場所：泥炭採掘跡地および山本牧場
- ・内容：自然再生事業地の一つである泥炭採掘跡地をガイドと共に訪れ、かつて行われた泥炭採掘の歴史について学び、そして、環境省が自然再生事業として行っている植生回復に向けた取り組みを知ってもらう機会とする。また「湿原」と「農業」の共生に向けては、農家の方の協力が不可欠であることから、「山本牧場」を見学し、酪農家の山本氏より農家の方々の視点でサロベツ地域の酪農や湿原への考え方についてお話を伺う。
- ・定員：15 名

③エコモー交流会 ～おじいちゃんからサロベツの歴史を聞こう～

- ・時間：14:30～16:30
- ・場所：サロベツ湿原センター多目的スペース
- ・内容：豊富牛乳を使ったメニューコンテスト、自然再生エコツアーの結果報告を行った後、長年に渡りサロベツの自然と農業を見守って来られた八重沢勇氏（豊富町・酪農家）および村元正己氏（豊富町・天北塾・サロベツ学会）の 2 名から、サロベツ開拓の歴史や自然の魅力、脅威などについてお話を伺う。

④浚渫船に乗ってみよう

- ・時間：9:30～14:00
- ・場所：サロベツ湿原センター木道わき浚渫船
- ・内容：サロベツ湿原センターの屋外に展示されていて、普段は乗ることができない泥炭浚渫船を当日限定で開放し、サロベツの泥炭採掘の歴史の一端に触れてもらう。

⑤トラクターに乗ってみよう

- ・時間：9:30～14:00
- ・場所：サロベツ湿原センター駐車場、芝生広場
- ・内容：サロベツ湿原センターの駐車場に、農家の方の協力を得て牧草の刈り取りなどで使用するトラクターを展示し、運転席に乗ることもできるようにする。また施設前の芝生広場に牧草ロールを展示し、地域の酪農に対する関心を高めてもらう。

⑥自然再生を知ろう

- ・時間：9:30～14:00
- ・場所：サロベツ湿原センター展示室
- ・内容：エコモー☆サポーターによる、サロベツ・エコモー・プロジェクトのPRや、サロベツで行われている自然再生の取り組みを紹介する展示コーナーを設置する。

(2) 参加団体の選考、内容等の調整（使用備品類の手配を含む）

＜参加団体の選考＞

サロベツエコモーD a y の開催主旨を踏まえ、湿原の保全や農業に関わる方々が交流を深め、上サロベツならではの特徴ある地域づくりに向けて地域全体が協力し合うきっかけとするため、以下の観点で地域における関係団体・個人を選定した。

1. イベント運営を円滑に行うため、地域の行政機関
2. 地域において自然（湿原）に関連する活動を行っている団体・個人
3. 地域において酪農に関連する活動を行っている団体・個人
4. イベントを次世代に引き継ぐため、地域の教育機関
5. 地域の特産品作りに携わる団体・個人

また、協力の同意を得られた 7 団体・2 個人には具体的にサロベツエコモーD a y に向けた協力内容を依頼した。その結果を次頁の表に示す。

なお、今回の協力要請は開催日の 2 週間ほど前に実施した。協力を得られなかった団体は、開催日までの時間的余裕が無いため協力は難しいとして断られた場合が多く、早期に要請を受けていれば協力できた可能性が高いとする指摘もあった。このことから、今後の協力要請においては、団体に対する要請は当該年度初期が好ましく、遅くとも 2～3 カ月前には調整を図ることが必要であると考えます。

表-8.11 参加団体の選定結果

機関・団体・個人名	選定理由	協力の可否	協力要請内容
豊富町役場	地元自治体	○	・町内回覧、公共施設への掲示による開催周知 ・自然再生エコツアーのためのバス手配
JA北宗谷	地元酪農団体	○	・農家への周知
JA北宗谷青年部	地元酪農団体	○	・牧草ロール、トラクターの展示
豊富牛乳公社	地元酪農団体	○	・豊富牛乳の提供 (当日、来場者に配布)
4Hクラブ	地元酪農団体	—	
JA北宗谷女性部	地元酪農団体	—	
農村生活文化伝承活動を進める会	地元酪農団体	—	
サロベツ農事連絡会議 山本寿昭議長	地元酪農団体	○	・山本農場への自然再生エコツアー受入
豊富高校	地元教育機関	○	・牛乳メニューコンテストへの出品
エコモーター☆サポーター	自然再生普及活動推進団体	○	・サロベツ湿原センター内での展示運営
八重沢勇氏	地元酪農家	○	・エコモーター交流会にてサロベツ原野開拓の歴史や農家の苦労、酪農と湿原の関わりについてお話いただく
中村国雄氏	地元酪農家	○	・エコモーター交流会にてサロベツ原野開拓の歴史や農家の苦労、酪農と湿原の関わりについてお話いただく ※都合がつかず当日は欠席
加藤和夫氏	地元酪農家	○	・エコモーター交流会にてサロベツ原野開拓の歴史や農家の苦労、酪農と湿原の関わりについてお話いただく ※都合がつかず当日は欠席
NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク	地元自然系団体	○	・各実施イベントの運営補助
村元正己氏 (天北塾・サロベツ学会)	地元自然系団体	○	・エコモーター交流会にて、これまでの湿原との関わりや湿原の素晴らしさ、地域の自然への想いをお話いただく。
サロベツ・ネイチャーゲームの会	地元自然系団体	—	
稚内漁業協同組合 豊富支所	地元漁業団体	—	
工房レティエ	地元チーズ業者	—	
サロベツファーム	地元食肉加工業者	—	

＜イベントの内容調整＞

サロベツエコモーDay の内容について調整を行い、以下に示すように各企画のタイムテーブル、準備物品、役割分担等を決定した。

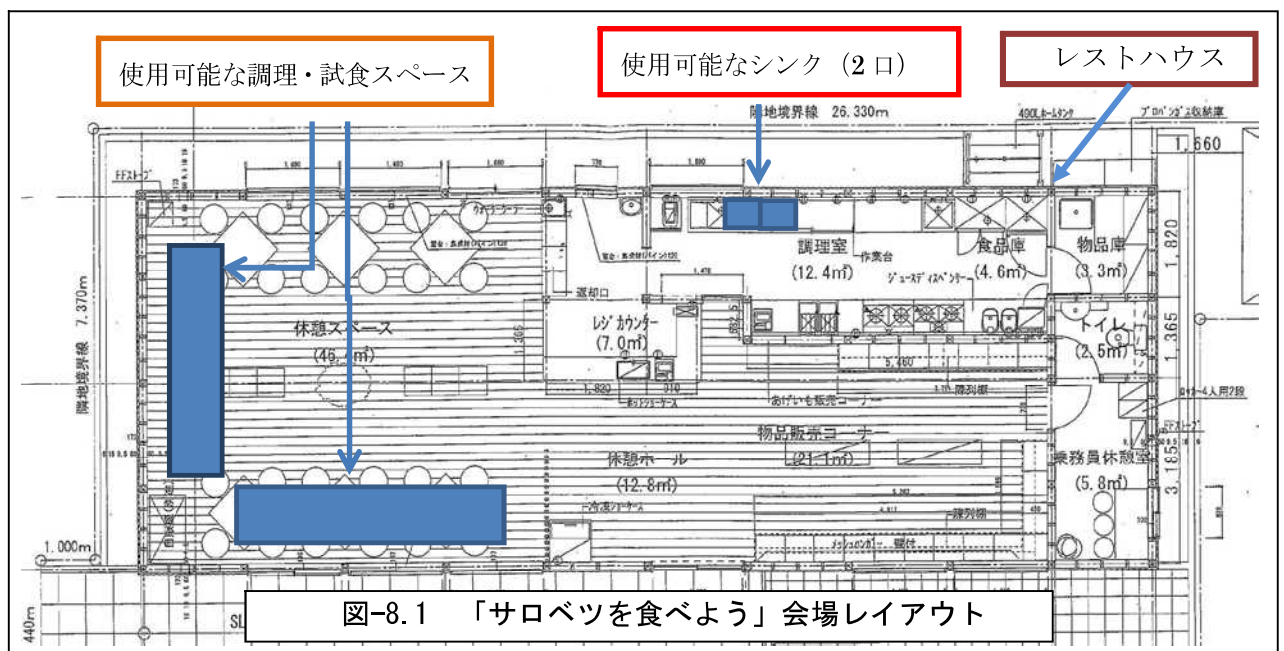
＜サロベツを食べよう＞

表-8.12 「サロベツを食べよう」 タイムテーブル

日付	開始時刻	時間	項 目	担当者	備 考
一週間前	ー	ー	食品衛生法届出	稚内自然保護官事務所、受注者	稚内保健所に書類提出
10月19日 (前日)	15:00	60分	会場設営	稚内自然保護官事務所、受注者	「自然再生を知ろう」の設営が終了し次第作業開始
10月20日 (当日)	9:00	30分	会場設営の確認・受付準備、レストハウス職員へ当日の流れを説明	受注者	
	9:30	75分	受け付け開始・出品者調理開始（随時）	受注者	
	10:45	15分	メニュー配置	受注者	
	11:00～		メニューコンテスト開始（随時呼び込み）	受注者	出品者に対し結果発表は14:30からになる旨説明
			30食限定で終了	受注者	
			終了後、投票集計	受注者	結果は事前にレストハウス職員に説明
	14:30		「エコモー交流会」にて結果発表	稚内自然保護官事務所、受注者	

表-8.13 「サロベツを食べよう」準備物品リスト

準 備 品	数 量	担当者	備 考
IHクッキングヒーター	クッキングヒーター2台	受注者	
ホットプレート	ホットプレート2台		
調理器具		受注者 出品者他	出品者にも調理器具の持参を依頼した。IH対応)
投票用紙	15枚	受注者	
メニュー説明カード	メニュー毎に1枚	受注者	出品用紙を印刷
廃油処理		受注者	
お皿、箸、コップ	50食分を準備	受注者	
ゴミ袋	1	受注者	
サロベツ特産品詰め合わせ	1 (最優秀賞用)	受注者	
筆記用具 (投票用)	適宜	受注者	
ポスター	レストハウス入口 1枚	受注者	
	湿原センター入口 1枚		
長机		2 受注者	湿原センターから移動



＜自然再生エコツアー＞

表-8.14 「自然再生エコツアー」タイムテーブル

開始時刻	時間	項 目	担当者	備 考
9:15	15分	受付	受注者	湿原センター
9:30	5分	開会・開会挨拶	稚内自然保護官 事務所 受注者	センター内会議室
9:35	25分	事前学習 (当日の流れ等のオリエン テーション・自然再生事業 紹介)	稚内自然保護官 事務所 受注者	同上
10:05	5分	休憩・移動準備		エントランス
10:10	100分	フィールド活動（泥炭採掘 跡地）	稚内自然保護官 事務所 受注者	現地
11:50	5分	休憩		エントランス
11:55	5分	午前の部終了、情報伝達	稚内自然保護官 事務所 受注者	会議室
12:00	45分	各自昼食・自由時間		
12:45	5分	午後の部開始、情報伝達	稚内自然保護官 事務所 受注者	エントランス
12:50	10分	山本牧場へ移動	受注者ほか	役場のワゴン車、関 係車両に分乗
13:00	40分	フィールド活動（山本牧 場）	案内：山本氏	
13:40	10分	センターへ移動	稚内自然保護官 事務所 受注者	
13:50	10分	意見交換・アンケート回答	稚内自然保護官 事務所 受注者	会議室
14:00	5分	閉会挨拶	稚内自然保護官 事務所 受注者	

留意点:泥炭採掘跡地に出発する前に、自然再生事業地マップを活用して、歩行距離や時間、現地の状況について伝え、具体的なイメージを持ってもらう。

表-8.15 「自然再生エコツアー」準備物品リスト

準 備 品	数 量	担当者	備 考
配布資料	20 部(自然再生事業地マップ)	受注者	現地で使用
配布資料	20 部 (パワーポイントデータ)	受注者	
受付名簿	1 部	受注者	
筆記用具	20 セット	受注者	
アンケート用紙	20 枚	受注者	
ネームプレート	20 セット	受注者	
デジカメ	1 台	受注者	
プロジェクター	1 台	受注者	

〈エコモ－交流会〉

表-8.16 「エコモ－交流会」タイムテーブル

開始時刻	時間	項 目	担当者	備 考
14 : 00	30 分	会場設営 受付準備 最終打ち合わせ	稚内自然保護 官事務所 受注者	湿原センタ ー内
14 : 30	5 分	開会・開会あいさつ	稚内自然保護 官事務所 受注者	
14 : 35	10 分	サロベツを食べよう 報告	受注者	数枚の写真 を用いて、 活動内容を 説明
14 : 45	10 分	自然再生エコツアー 報告	受注者	
14 : 55	5 分	休憩		
15 : 00	30 分	サロベツの歴史を聞こう① 語り部 八重沢 勇 氏	受注者	
15 : 30	30 分	サロベツの歴史を聞こう② 語り部 村元 正巳 氏	受注者	
16 : 00	5 分	休憩		
16 : 05	20 分	サロベツを語り合おう（全員参加）	受注者	
16 : 25	5 分	閉会・閉会あいさつ	稚内自然保護 官事務所 受注者	

表-8.17 「エコモー交流会」準備物品リスト

準 備 品	数 量	担当者	備 考
プロジェクター	1 個	受注者	
延長コード	1 個	受注者	
マイク	2 本	受注者	
写真資料	数枚	受注者	
お茶菓子類	適宜	受注者	
裏紙（メモ）	数十枚	受注者	
筆記用具	適宜	受注者	

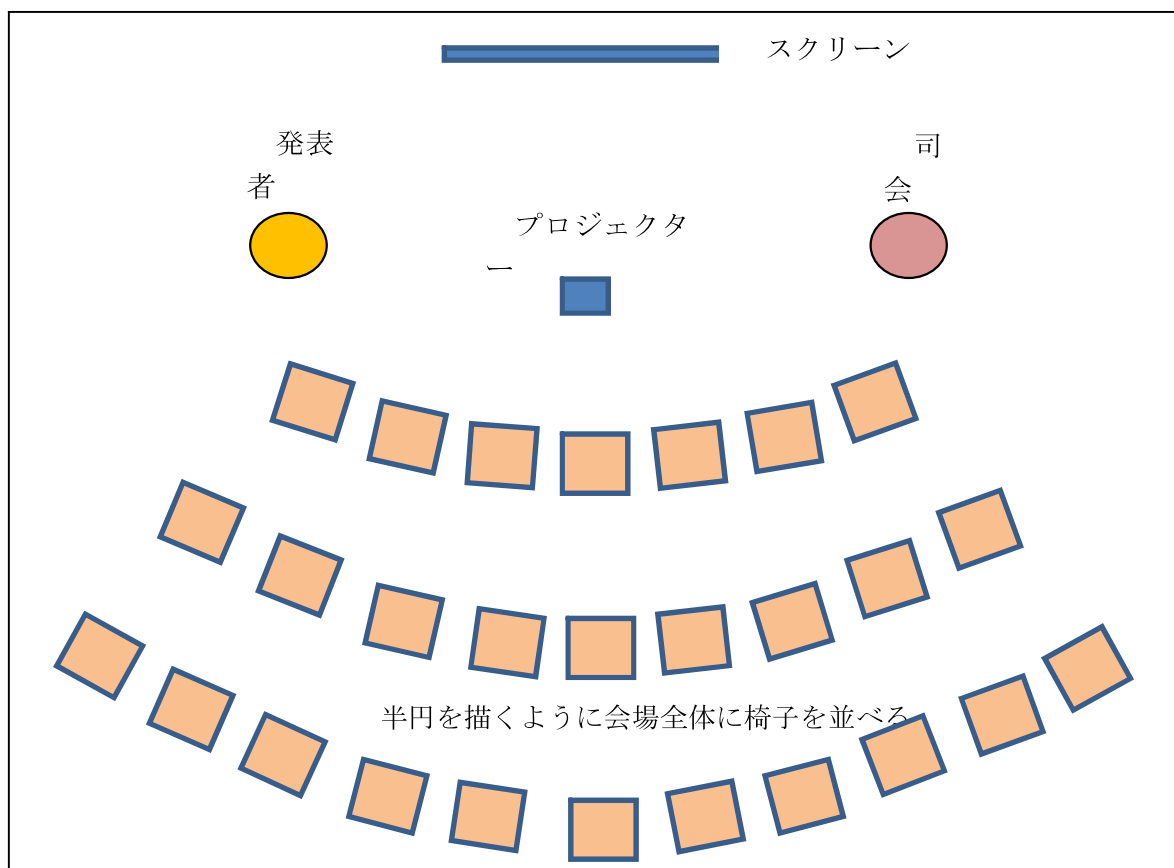


図-8.2 「エコモー交流会」会場レイアウト

〈浚渫船に乗ってみよう〉

表-8.18 「浚渫船に乗ってみよう」タイムテーブル

開始時刻	時間	項 目	担当者	備 考
9:00	30 分	安全管理、日程・注意事項確認、マット準備など 当日スタッフ配置（3 人） ①受付と最初のレクチャー(1 人) ②船体甲板と梯子補助(2 人)	受注者	湿原センター
9:30 ～ 11:30	30 分	受付開始 ※船体に上がれる人数に限りがあるため、3 名ずつの案内とする ※「浚渫船に乗ってみよう」という案内板を持ち、呼び込みを行う ※3 名程度の参加者が集まった時点で、浚渫船まで移動し、レクチャー後、実際に乗船していただく	受注者	エントランス
12:00	30 分	お昼休憩		
13:00 ～ 13:30	30 分	受付開始 集まり次第 移動開始	受注者	
14:00		終了、片付け	受注者	

※当日は 30 分毎に案内を実施する。

表-8.19 「浚渫船に乗ってみよう」準備物品リスト

準 備 品	数 量	担当者	備 考
浚渫船資料	30 部	受注者	
浚渫船案内板	1 個	受注者	
受付用紙	2 枚程度	受注者	
滑り止めマット	1 枚	受注者	
トラロープ	1 個	受注者	
三脚	1 脚	受注者	
梯子	2 脚	受注者	資材は環境省より借用

＜トラクターに乗ってみよう＞

表-8.20 「トラクターに乗ってみよう」タイムテーブル

日付	開始時刻	時間	項 目	担当者	備 考
10/19 (前日)	14:00	60分	トラクター、牧草ロール搬入 (小松農場) ※トラクター2台(テッダ、 ロールペーラを牽引) ※牧草ロール(ラップしている 物としていない物各2個) ※危険な機械はないことからカ ラーコーンは不要になる見込み (念のため準備はする)	稚内自然保護官 事務所、受注者	
	15:00	15分	展示時の留意点、説明内容等について小松氏に確認	稚内自然保護官 事務所、受注者	
	15:15	15分	搬入した機械の清掃	稚内自然保護官 事務所、受注者	
	15:30		準備完了	稚内自然保護官 事務所、受注者	
10/20 (当日)	9:00	30分	日程・注意事項確認	稚内自然保護官 事務所、受注者	
	9:30～14:00	270分	展示開始(子どもが運転席に乗 れるように管理) ※随時呼び込み、機械の説明 ※運転席への乗り下りの管理 (怪我や機器の破損が生じない よう常に管理) ※利用者の少ない時間に随時休 憩(休憩時には勝手な乗り込み 等がないよう管理) ※観光バスが来たときは随時誘 導	稚内自然保護官 事務所、受注者	当日は役場農 政課も協力
	14:00以降	60分	トラクター、牧草ロール搬出 (小松農場)	稚内自然保護官 事務所、受注者	

※雨天の場合は小松農場と相談し開催を検討(現段階では小雨決行の予定)

表-8.21 「トラクターに乗ってみよう」準備物品リスト

準 備 品	数 量	担当者	備 考
農業機械資料	50 部程度	稚内自然保護官事務所 受注者	
案内板	2 個	稚内自然保護官事務所 受注者	
カラーコーン	10 個	稚内自然保護官事務所 受注者	※危険な機械 があった場合に使用 ※役場が前日に搬入予定
カウンター	1 個	稚内自然保護官事務所 受注者	

＜自然再生を知ろう(室内展示)＞

表-8.22 「自然再生を知ろう」タイムテーブル

日付	開始時刻	時間	項 目	担当者	備 考
10/19 (前日)	14:00	90分	会場設営	稚内自然保護官事務所 エコモ－☆サポ－ター 受注者	各自持ち込んだ展示物を、 常設展示会場の間取り図に 沿って設置する。 エコモ－☆サポ－ターには、 個人(西島氏)のほかに稚内 開発建設部職員・NPOサロ ベツ・エコ・ネットワーク職 員、宗谷森林管理署職員・ 豊富町職員などが含まれ る。
	15:30	60分	事前打ち合わせ 当日の注意事項や、各ブー スの解説者など役割分担に ついて調整、確認する。 エコモ－交流会の会場設営 について協力をお願いす る。	稚内自然保護官事務所 エコモ－☆サポ－ター 受注者	会場設営が終わり次第開 始時刻を前倒しする。
	16:30		準備完了	稚内自然保護官事務所 エコモ－☆サポ－ター 受注者	
10/20 (当日)	9:00	30分	最終打ち合わせ	稚内自然保護官事務所 エコモ－☆サポ－ター 受注者	
	9:30	270分	展示開始	稚内自然保護官事務所、 エコモ－☆サポ－ター 受注者	各ブースで適宜解説を行 う。 ※利用者にアンケートを 記入して頂く。 常設展示は14:00まで
	14:00	30分	展示会場の一部片付け ※図-9.2に示す、6.野鳥カ ルタ、7.お絵かきコーナ ーを片付け、エコモ－交流 会の会場を設営する。	稚内自然保護官事務所 エコモ－☆サポ－ター 受注者	
	14:30	120分	エコモ－交流会	稚内自然保護官事務所 受注者	
	16:30	30分	展示会場の片付け	稚内自然保護官事務所 エコモ－☆サポ－ター 受注者	

表-8.23 「自然再生を知ろう」準備物品リスト

準備品	数量	担当者	備考
エコモーDayアンケート	30枚	受注者	
ひも	1本	受注者	パネル用
スタッフネーム	15個	受注者	エコモー☆サポーター人数分
カウンター	1個	受注者	
色鉛筆など	3式	受注者	ぬりえコーナー用
鉛筆	20本	受注者	クイズラリー、アンケート用
画紙		受注者	
ガムテープ		受注者	

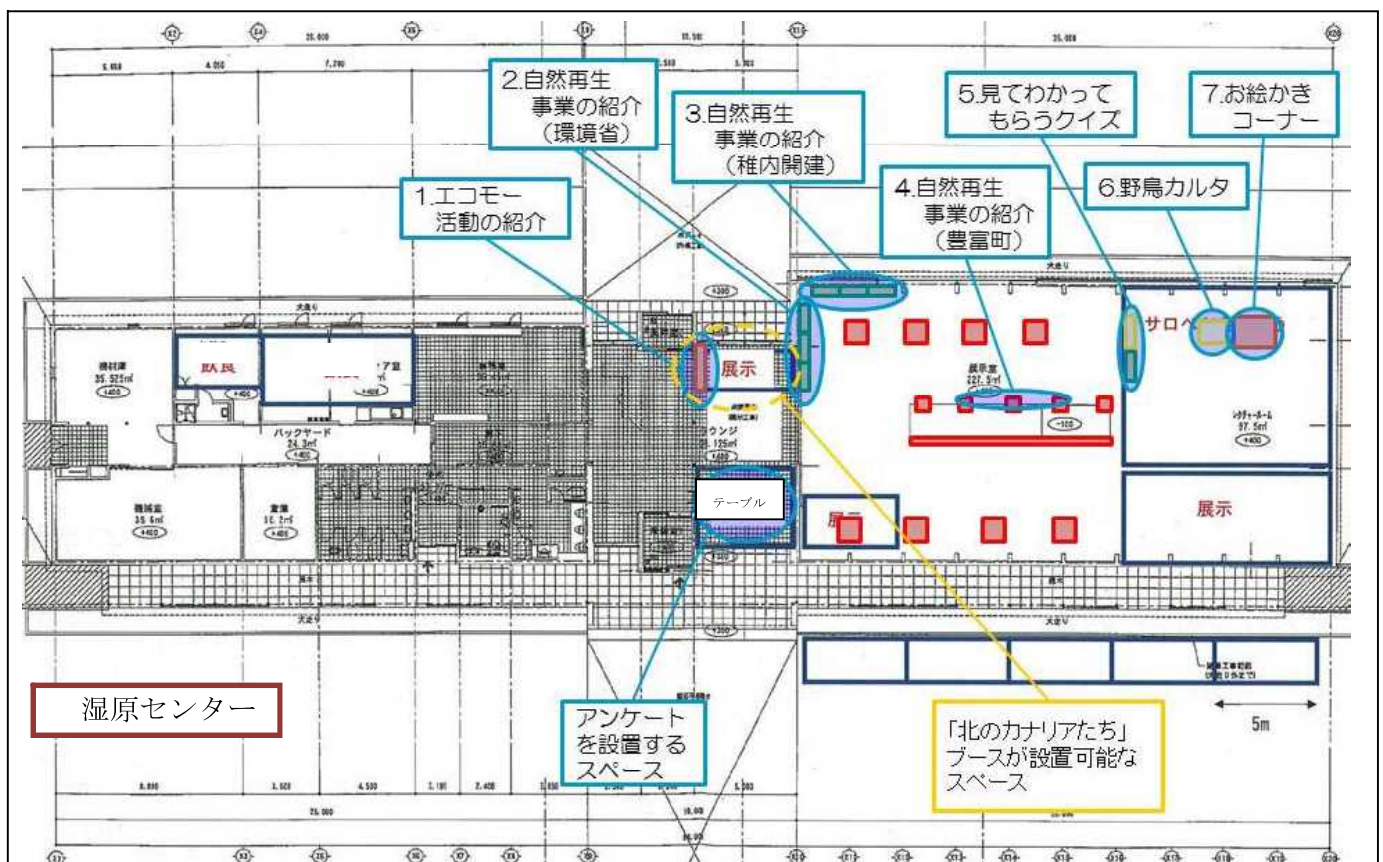


図-8.3 「自然再生を知ろう」会場レイアウト

(3) 事前の広報活動（チラシ 500 部の作成を含む）

広報については下表に示すように、宗谷管内在住者、稚内市・豊富町在住者、広域を対象にそれぞれの広報方法で実施した。また、事前広報のために、新聞折り込み用のチラシのデザイン及び印刷(500 部)を行った。チラシは掲示用ポスターとしても活用した。掲示場所は表-8.26 に示すとおりである。また、イベントの開催要項が広報先に浸透するよう 2 週間前を目処に広報を実施した。プレスリリース資料および掲示チラシ等を次頁以降に示す。

なお、当日は NHK 稚内支局の取材があり、当日の 18:45 よりの全道版ニュースで放映された。また、日刊宗谷も取材に来ており、後日、記事として掲載された。新聞記事等は資料編の「9.7 新聞記事等」に示した。

表-8. 24 広報の範囲と方法一覧表

対 象 者	広 報 方 法
宗谷管内在住者	マスコミ各社へのプレスリリース (北海道新聞社・日刊宗谷・NHKなど)
稚内市 豊富町在住者	稚内市・豊富町内主要施設へのポスター掲示
豊富町在住者	町内回覧
広 域	関係者に対するメール発信 ホームページへの掲載
上サロベツ自然再生協議会 再生普及部会員	イベントチラシ郵送
サロベツ・エコモー・プロジェクト 活動実施者、エコモー☆メンバー	イベントチラシ郵送
農業関係者 (JA北宗谷)	イベントチラシ郵送

表-8. 25 チラシ配布方法

配布方法	配布部数
豊富町回覧板	300部
JA北宗谷の発行物に同封	130部
サロベツ湿原センターにて配布	20部
稚内自然保護官事務所にて配布	50部
計	500部

表-8. 26 ポスター掲示先一覧表

No.	施設名	チラシ サイズ	枚数	掲示日	掲示を許可した者
1	サロベツ湿原センター	A3	1	10/4	自然保護官
2	豊富町共同福祉施設	A4	1	10/4	NPO事務局長
3	セイコーマート とよとみ店	A4	1	10/4	店主
4	セイコーマート エベコロ店	A4	1	10/4	店主
5	豊富フードセンター	A3	1	10/4	店員
6	サロベツマイハート 夢工房	A4	1	10/4	店主
7	沿岸バス豊富営業所	A3	1	10/4	受付窓口職員
8	うえのミート&フード	A4	1	10/4	店主
9	豊富町社会福祉協議会	A4	1	10/4	協議会職員
10	豊富町町民センター	A3	1	10/4	町教委職員
11	豊富町スポーツセンター	A4	1	10/4	受付窓口職員
12	JR豊富駅	A3	1	10/4	観光協会職員
13	豊富町観光情報センター	A3	1	10/4	観光協会職員
14	豊富温泉ふれあいセンター	A3	1	10/4	受付職員
15	豊富温泉コンシェルジュデスク	A3	1	10/4	温泉コンシェルジュ
16	ホテルニュー温泉閣	A4	1	10/4	店主
17	豊富高校	A4	1	10/4	事務員
18	豊富中学校	A4	1	10/4	事務員
19	豊富小学校	A4	1	10/4	事務員
20	餅 カフェ わが家	A4	1	10/4	店主
21	豊富町役場	A4	1	10/10	職員
22	レストハウスサロベツ	A4	1	10/10	職員
23	JR稚内駅	A4	1	10/10	職員
24	稚内市観光協会	A4	1	10/10	協会職員
25	KITAKARA管理事務所	A4	1	10/10	職員
26	稚内副港市場	A4	2	10/10	職員

プレスリリース資料

平成 24 年 10 月 4 日
環境省稚内自然保護官事務所

関係各位

お知らせ

<件名> 『サロベツ・エコモーD a y』の開催について

<お知らせ内容>

環境省稚内自然保護官事務所では、サロベツ湿原の保全や農業に関わる方々が交流を深め、上サロベツならではの特色ある地域づくりに向けて地域全体が協力し合うきっかけになることを目的としたイベント、「サロベツ・エコモーD a y（デイ）」を開催致します。周知にご協力のほど、よろしくお願い致します。

当日はサロベツ湿原センターを拠点に様々な催しが予定されておりますので、詳細はチラシをご覧ください、ご不明な点はお問い合わせ下さい。

<サロベツ・エコモーD a yとは>

サロベツ湿原は低地において日本で最も広い高層湿原を有し、ラムサール条約にも登録されています。その湿原を保全するため、サロベツでは湿原と農業の共生を目指した自然再生事業が行われています。サロベツ・エコモーD a yでは、より身近に「湿原」や「農業」を感じていただき、地域の方が自然再生事業に興味を持いただくきっかけになればと考えています

※「エコモー」とは、エコロジーの「エコ」と、牛の鳴き声の「モー」からなる造語です。

<行事の内容等について>

- 開 催 日：平成 24 年 10 月 20 日（土）9:30～16:30
- 場 所：サロベツ湿原センター・レストハウスサロベツ
- 対 象：どなたでも可。ただし、自然再生エコツアーと、メニューコンテストのエントリーは事前申し込みが必要。

当日は、以下の催しが並行して行われます。

1. サロベツを食べよう（試食は 30 食限定） 11:00～無くなり次第終了
（豊富牛乳や豊富町産の食材を使った料理コンテストです。料理のエントリーをされる方は、事前申し込みが必要です。）
2. 自然再生エコツアー（要申込・先着 15 名） 9:30～14:00
（午前中に普段は入れない泥炭採掘跡地を見学し、午後から山本牧場を見学します。自然再生の現場と酪農の現場を巡る特別なツアーです。）
3. エコモー交流会 14:30～16:30
（サロベツの自然と農業を見守って来た酪農家の八重沢勇氏と、天北塾を主宰する村元正己氏から開拓の歴史や自然の魅力についてお話を伺います。）
4. センター展示 9:30～14:00
 - ①浚渫船に乗ってみよう：普段は展示してあるだけで乗ることができない浚渫船を当日限定で開放します。
 - ②トラクターに乗ってみよう：センター駐車場にトラクターを展示します。運転席に乗ることもできます
 - ③自然再生を知ろう：センター内で自然再生の取り組みを紹介するパネル展を開催します。
5. その他
（豊富町特産品の牛乳 100 個の配布や、豊富町産の食材を使った食べ物の販売コーナーもあります。）

<自然再生エコツアー予告> エコツアーは、11 月にもございます。
第 3 弾：11 月 4 日（日） 旧原生花園跡地見学ツアー

<お問合せ・お申し込み先>

サロベツ湿原センター TEL：0162-82-3232 FAX：0162-82-1009
E-mail：center@sarobetsu.or.jp

<主 催>

環境省稚内自然保護官事務所 TEL：0162-33-1100 FAX：0162-33-1101
E-mail：RO-WAKKANAI@env.go.jp

<共 催>

豊富町 ・ NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワーク

(チラシ表面)

サロベツの自然と農業を満喫する1日

サロベツ エコモー Day

「サロベツエコモーDayとは」

サロベツ湿原は低地において日本で最も広い高層湿原を有し、ラムサール条約にも登録されています。その湿原を保全するためにサロベツでは、湿原と農業の共生を目指した自然再生事業が行われています。サロベツエコモーDayでは、より身近に「湿原」や「農業」を感じていただくことを目的としています。

※エコモーとは、エコロジーのエコと牛の鳴き声のモーからなる造語です。

日 時
10/20 SAT
9:30～16:30

開催場所
サロベツ湿原センター
レストハウスサロベツ



サロベツを食べよう!

～豊富牛乳を使ったメニューコンテスト～

時間/11:00～なくなり次第終了
場所/レストハウスサロベツ

豊富牛乳、豊富町産の食材を使った料理コンテストを開催します。最も人気のあった料理は来シーズンからサロベツレストハウスのメニューに!

30食限定!!
お越しいただいた
先着30名の方に
投票していただきます!

メニュー募集!!
コンテストへの出品を募集しています! 詳細はお問い合わせ下さい。

自然再生エコツアー

～湿原と農業の共生を知ろう～

時間/9:30～14:00
場所/泥炭採掘跡地・山本農場

かつて泥炭採掘が行われた場所では、環境省が湿原を再生するための事業を行っています。また、「湿原」と「農業」の共生に向けては、農家の方の協力があります。自然再生エコツアーでは、「湿原」と「農業」の共生をテーマに「泥炭採掘跡地」と「山本農場」を見学します。(定員15名)

参加は
事前の登録
が必要です!
詳細はお問い合わせ下さい。

エコモー交流会

～おじいちゃんからサロベツの歴史を聞こう!～

時間/14:30～16:30
場所/サロベツ湿原センター

豊富牛乳メニューコンテスト、自然再生エコツアーの結果報告の後、これまで長きに渡ってサロベツの自然と農業を見守ってきたお三方からサロベツの開拓の歴史や自然の魅力などについてお話をうかがいます。

語り
八重沢 勇さん
中村 国雄さん
(豊富町・酪農家)

村元 正己さん
(豊富町・天北塾・サロベツ学会)

事前の
登録は不要
です!
お気軽にご参加下さい。

センター展示

時間/9:30～14:00 場所/サロベツ湿原センター

浸漕船に乗ってみよう!

普段は乗ることができないサロベツ湿原センターの浸漕船を当日限定で開放します。サロベツの泥炭採掘の歴史を知る浸漕船。この機会に乗ってみませんか?

トラクターに乗ってみよう!

サロベツ湿原センター駐車場に牧草の刈り取りやロール巻きに活躍するトラクターを展示します。特別に運転席に乗ることもできます! 協力:JA北谷青年部

自然再生を知ろう!

サロベツ湿原センターの中では、自然再生の取り組みを紹介する展示コーナーを設置します。

豊富牛乳や豊富町産の食材を使った食べ物などの販売コーナーもあります!

どなたでもご参加いただけます。ご家族でお越し下さい!

■開催日/平成24年10月20日(土) 9:30～16:30まで ■開催場所/サロベツ湿原センター・レストハウスサロベツ ■参加費:無料
メニューの出品や自然再生エコツアーの参加については、電話、FAX、E-mailにてご連絡下さい。

お問合せ先 **サロベツ湿原センター** TEL 0162-82-3232 FAX 0162-82-1009 mail:center@sarobetsu.or.jp

主催:環境省稚内自然保護官事務所 共催:豊富町・NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク

(チラシ裏面・参加応募用紙)

サロベツ湿原センター宛
FAX:0162-82-1009
mail:center@sarobetsu.or.jp

自然再生エコツアー参加応募用紙

自然再生エコツアーに参加を応募する方はこちらにご記入下さい。

フリガナ 氏 名	年齢	性別	長靴が用意できない方は貸し出します のでサイズをご記入下さい
住 所			
電 話		携帯電話 中止時に連絡を取りたいため	
E-mail			

※防寒具（汚れてもよい・動きやすい服装）、長靴を各自ご準備ください。
※当日はサロベツ湿原センターでの昼食を予定しています。各自ご準備いただくカレストハウスサロベツをご利用下さい。
※当日は9：30までにサロベツ湿原センターに集合して下さい。

メニューコンテスト応募用紙

メニューコンテストに応募する方はこちらにご記入下さい。

フリガナ 氏名または団体名
団体で応募する場合は代表者名もご記入下さい ()
住 所
電 話
携帯電話
E-mail
メニューの内容及び名称（当日持参するメニューについて、概要をお書き下さい）

※出品に際しては材料費3千円をお支払いします。
※現地での調理はできないため、当日30食分（一口程度）をレストハウスサロベツにお持ち込みいただきます。
※食器等はこちらでご準備します。

(4) 自然再生の取り組みを紹介するパネル（5面）の作成

イベント当日に「自然再生を知ろう」(湿原センター内)に展示するパネル5面のデザイン及び印刷を行った。次頁以降にパネルの内容を示す。なお、展示用にデザインしたパネルはA1版で印刷し、アルミ額縁に入れた。

「上サロベツ自然再生事業」とは？

サロベツ湿原では、多様な人間活動の影響により湿原の減少や劣化が進んでいます。このため、「湿原と農業の共生」を目指して地域の多様な主体が協力して自然再生の取り組みを進めています。

● サロベツ湿原

湿原の特徴

サロベツ湿原は低地における日本最大の高層湿原です。

高層湿原とは

長い年月をかけて泥炭が蓄積され、周囲よりも高くなったために、雨水(雨・雪・露)によって涵養されている湿原を指します。植生はミズケ類が主体となります。

湿原の特徴

- 多様な動植物生息地・生育地
(標地は550種以上、水鳥の繁殖地・渡りの中継地)
- 高山植物が平地に生育
(寒冷で水分が多く、貧栄養)

サロベツ湿原は生物多様性に富んだ豊かな自然環境があり、近年は炭素の貯蔵庫としても注目されています。将来に遺り残していかなければならない貴重な財産です。

● 上サロベツ自然再生協議会

湿原の自然再生と農業の振興、そして地域づくりを一体的に図ることを目的として、地域住民、NPO、地方公共団体、関係行政機関、専門家などで協議会をつくり、自然再生の取り組みを進めています。



● サロベツ湿原の課題

湿原の課題

サロベツ湿原では、昭和40年代以降の大規模開発の進展と共に湿原面積が減少し、現在もササの拡大が進んでいます。



農地 (牧草地)	湿原
排水不良により生産性が低下 小規模にトラクターがはまる等の事故	地下水位が下がり乾燥化が進行 本来の湿原植生が失われ、ササが拡大

農地と湿原が隣接していますが、望ましい地下水位が異なります。

地域にとってはどちらも重要

II

両方が共存する方法が求められています

● 環境省の取り組み

環境省では、景観として優れているばかりでなく、多様な動植物の生息地・生育地であるサロベツ湿原を保全・再生するために「上サロベツ自然再生事業実施計画書」に基づき、以下の事業に取り組んでいます。

- ・サロベツ川放水路南側湿原周辺の乾燥化対策
- ・ササの侵入抑制対策
- ・サロベツ原生花園園地跡地の修復
- ・泥炭採掘跡地等の再生 ・環境学習の推進



● サロベツのこれから

自然と人間の営みの共存を目指します。

農業の振興

⇄

湿原の自然再生

自然再生の目標

- ① 湿原の自然再生
- ② 農業の振興
- ③ 地域づくり

サロベツ川放水路南側湿原周辺の乾燥化対策



歴史

「サロベツ川放水路南側湿原周辺」の歴史

開拓が始まって以来、サロベツ川の氾濫は開発の大きな妨げとなっていました。このため、緊急度の高いサロベツ川上流部の氾濫防止のため、1961年(S36)からサロベツ川放水路掘削工事が行われました。



1947年当時のサロベツ川放水路周辺の航空写真。右側に落合沼の水面が見える。

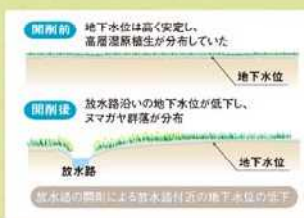


2000年のサロベツ川放水路周辺の航空写真。落合沼は干上がっている。

問題

放水路に向かって地下水が流出し、高層湿原の乾燥化が進んでいます。

サロベツ川放水路周辺は、放水路の開削によって地下水が流出するようになり、湿原の地下水位の低下が生じました。かつてはミスゴケやツルコケモモ等が主に生育する高層湿原植生でしたが、乾燥化によってササやヌマガヤが生育しやすい植生に変化しました。



目標

高層湿原植生の回復を図ります。

サロベツ川放水路の開削時に設置された水抜き水路からの地下水の流出を防ぎ、背後の高層湿原植生の劣化を防ぐことを目的として、水抜き水路への堰の設置または泥炭による埋め戻しを行っています。

このことにより

低下していた地下水位を上昇させ、湿原植生の回復を図ります



取り組み

「サロベツ川放水路南側湿原周辺」では次の取り組みを行っています。

水抜き水路の堰き止め

落合沼では、水抜き水路への堰の設置または埋め戻しを行い、落合沼跡の窪地及び水路に湛水面を形成させ、周囲の地下水位の低下を抑制しています。また、落合沼以外の水抜き水路も堰き止めを行います。

放水路への地下水の流出を防ぐことによって、周辺の高層湿原植生を再生します。

落合沼の堰き止め



堰き止め前の落合沼



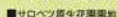
現状の落合沼(湛水が維持されています)





歷史

「サロベツ原生花園園地」は1975年(S50)から木道やレストハウス、サロベツ原生花園自然教室が整備され、多くの人に親しまれてきました。



問題

● 湿原の上に盛土をして整備されたため、湿原が消失するとともに、周辺の植生への影響が懸念されていました。

- 盛土及び施設の建設により湿原が消失
- 盛土による地盤沈下と道路側溝への排水により、湿原の乾燥化と植生の変化が発生

本来の高層湿原植生の面積が減少し、ササが拡大。

目標

「サロベツ原生花園自然教室」の機能を「サロベツ湿原センター」に移転し、跡地に周辺の湿原と調和する植生を回復させます。



サロベツ原生花園園地跡地では、周辺の湿原と調和する植生を回復させることを目標としています。

取り組み

▶ 「サロベツ原生花園園地跡地」では次の取り組みを行っています。

植生回復の流れ

施設の撤去跡地では、表土をはぎ取って泥炭を敷きならし、湿原の植生に戻していきます。



盛土表層のはき取り 泥

地表の相対地下水位の上昇





モニタリングの実施

A区画からD区画では、泥炭の敷きならす厚さを変えて、植生の回復状況をモニタリングしています。



・A、C、D区画(表土掘削) 参照図は、C区画



・B区画(表土掘削、泥炭埋戻し)



泥炭採掘跡地等の再生



歴史

「泥炭採掘跡地」の歴史

サロベツでは、泥炭の工業的な利用価値が注目され1970年(S45)から2002年(H14)まで円山南部で泥炭採掘が行われました。採掘は、高層湿原域を中心とした150ha(当時の高層湿原面積の約16%に相当)あまりの範囲に及びました。

空中写真で見ると、現在でも丸山南部には泥炭採掘跡が開放水面等として残っていることがわかります。



* 浚渫船による採掘作業の様子

問題

「泥炭採掘跡地」には植物が定着していない場所があります。

泥炭採掘跡地では、依然として植生が定着しない場所(裸地)が見られます。



1977年(閉塞後2~7年)



2000年(閉塞後25~30年)



目標

植物の定着が見られない裸地の再生を促します。

植物の定着が見られない裸地において、降雨による浸食や乾燥などを緩和することにより、植物の定着を促します。



取り組み

「泥炭採掘跡地」では次の取り組みを行っています。

乾燥化の防止や表土の保全

マルチングによる表土の保護や溝の造成を行い、乾燥化の防止や表土の保全を行っています。

① ネットの設置-マルチングによる表土の保護



生育している植物の生育を妨げずに新たに種子が定着するよう促しています。

【目合い3パターン】



② 溝の造成-乾燥化の防止

溝をすることによって水が溜まる箇所をつくり、乾燥を抑えます。



多様な水分条件を創出することによって、植物の定着を促します。

【深さ2パターン】



サロベツ・エコモ！プロジェクト

サロベツ・エコモ！プロジェクトとは

サロベツの自然や文化を楽しむ活動の環を広げ、遼原と農業が共生する地域づくりを進めるためのプロジェクトです。自然再生の取り組みが行われているサロベツを身近に感じてもらうような、楽しい活動がたくさん行われています。



●我が町再発見！ハル・気球遊覧
サロベツ遼原保全推進協議会



●秋の渡り鳥観察会
環境省 稚内自然保護官事務所



●市民参加型環境保全活動
(チームサロベツ)
サロベツ総合センター

エコモ！★メンバーがこんな活動をしています！
エコモ！プロジェクト 7つの活動

- サロベツの自然を体験しよう
- サロベツの歴史を学ぼう
- サロベツの文化を体験しよう
- サロベツの自然を体験しよう
- サロベツの歴史を学ぼう
- サロベツの文化を体験しよう
- サロベツの自然を体験しよう



●サロベツ自然語講座
NPO法人サロベツ・エコモ！プロジェクト



●サロベツ原野であそぼう
とろろり堂 法島寺日曜学校



●サロベツワイルドツアー
北海道大学植物同好会



●上サロベツの自然と農業を学ぶのべつ
稚内環境教育推進協議会



サロベツ・エコモ！プロジェクトの活動は、自然や文化を楽しむだけでなく、地域活性化や環境保全にも貢献しています。

エコモ！★メンバーになろう！

サロベツ・エコモ！プロジェクトでは、サロベツの自然や文化を楽しむ地域活動を行っている方々の活動登録を募集しています。毎年、登録した活動の報告会、交流会を行い、活動の環を広げる取り組みを進めています。

あなたもエコモ！★メンバーになって活動を登録しませんか？

エコモ！★サポーター

エコモ！★サポーターは、サロベツ・エコモ！プロジェクトの運営、エコモ！★メンバーのサポートを行います。あなたもエコモ！★サポーターになって活動してみませんか？

【エコモ！★サポーターの年間活動内容】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
WG活動	WG活動	WG活動	WG活動	WG活動	WG活動	WG活動	WG活動	WG活動	WG活動	WG活動	WG活動
●サロベツ・エコモ！プロジェクトの活動募集 (エコモ！★メンバーの募集)			●エコモ！プロジェクトPR活動 (ホッキ祭り)			●エコモ！プロジェクトPR活動 (エコモ！Dayなど)			●活動の取りまとめ		●再生普及部会での活動報告
									●エコモ！★メンバー研修会・活動報告会の開催		



ホームページによる情報発信(随時)

活動の募集および受付(随時)

メールマガジン等を活用した情報共有

(5) 当日の運営

イベント当日は、前出の実施計画書に示したタイムテーブルの時間配分および担当に従って展示、イベントおよび自然再生エコツアー等を実施した。各イベント等の様子を画像で下記に示した。

＜サロベツを食べよう!＞

サロベツの特産品である牛乳を食材にしたオリジナルメニューを募集、考案することにより、また、サロベツレストハウスの新メニューとするなど、自然再生の取り組みを通してサロベツならではの特徴ある地域づくりを推進することを目的として実施した。当日は下記の作業を行った。なお、応募レシピは資料編の「9.5 サロベツを食べよう! オリジナル料理応募レシピ」に示した。

- ・屋台営業許可申請
- ・会場設定(調理器具設置、調理場所および入場者試食スペースなど)
- ・試食応募券の配布
- ・投票用紙の回収及び集計

表-8.27 サロベツを食べよう参加者

考 案 者	料 理 名
稲垣 順子	牛乳わらび餅
田中 美佐保	豊富牛乳しるこ
斉藤 仁美	オロロンスムージー
豊富高校生徒 佐藤先生	サロベツ系・サクサク・カニクリームコロッケ ～北の大地、豊富より～
豊富高校生徒 佐藤先生	豊富(ほうふ)なトヨトミミルクパスタ ～北の大地、豊富より～
嶋崎 左恵子	フワフワ湿原触感! サロベツ★フレンチトースト



会場外観



牛乳わらびもち



豊富牛乳しるこ



オロロンスムージー



カニクリームコロッケ



トヨトミ ミルクパスタ



サロベツ★フレンチトースト



投票用紙記入中



投票箱(左隅)



料理紹介レシピ

サロベツを食べよう！ オリジナル料理レシピ

① 完成写真またはイラスト



② 料理名	牛乳わらびもち
③料理の説明（PR）	牛乳を使った和菓子です。牛乳のコクと隠し味の醤油が決め手！ 笹の微かな香りも一緒に楽しめます。
④調理時間	30 分ほど。（冷ます時間を含め）
⑤使用する材料・調味料	白玉粉～150g グラニュー糖～200g 豊富牛乳～350cc 醤油～大さじ1 きな粉～適量

＜自然再生エコツアー＞

自然再生エコツアーは、通常は立ち入ることができない自然再生事業の現場(泥炭採掘跡地)および牧場に参加者を案内し、自然再生事業の背景や事業目的、また、これまでの成果や今後の展望などについて詳細に紹介することにより、広く地域の方々の自然再生事業、酪農と湿原のかかわりへの関心を高め、地域における理解者を増やしていくことを目的として実施した。

ツアー当日は実施計画に基づき、事前学習、ツアー(泥炭採掘跡地、山本牧場)及び意見交換会(アンケート)を実施した。

ツアーの参加者数は11名であった。この他に説明要員、記録要員および安全確保のための要員として3名(発注者1名、受注者2名)が随行した。参加者の内訳を下表に示す。参加者の性別内訳は、女性7名と男性4名より多かった。所在地別の内訳では、豊富町が最も多く6名、続いてその他道内3名で、比較的近郊の幌延町1名、天塩町2名の参加であった。その他、参加者の知人として神奈川から1名の参加者があったことが特筆される。当日の画像を以下に示す。

表-8. 28 自然再生コエツアー参加者内訳

開催日	参加者数 合計	性別内訳		所在地別内訳				NPO会員区分		備 考
		男	女	豊富町	稚内市	その他道内	道外	会員	一般	
H24.10.20	11名	4	7	6	1	3	1	3	8	その他道内は幌延町1名と天塩町2名 道外は神奈川県



サロベツ湿原に関する事前学習



自然再生事業および泥炭採掘跡地における植生回復についての事前学習



ツアー出発時の注意点確認
(右端の女性は NHK 取材者)



湿原内を移動



植生回復施策地の説明



マルチングによる植生回復試験



現地での説明風景



意見交換会(アンケート記入)



山本牧場牛舎入口にて説明



口蹄疫等予防のために消毒、参加者は靴にビニールカバーを着用



乳牛の飼育等についての説明



乳牛の餌



牛舎内を見学



全員で記念撮影

〈センター展示〉

① 浚渫船に乗ってみよう！



準備(渡り橋の設置)



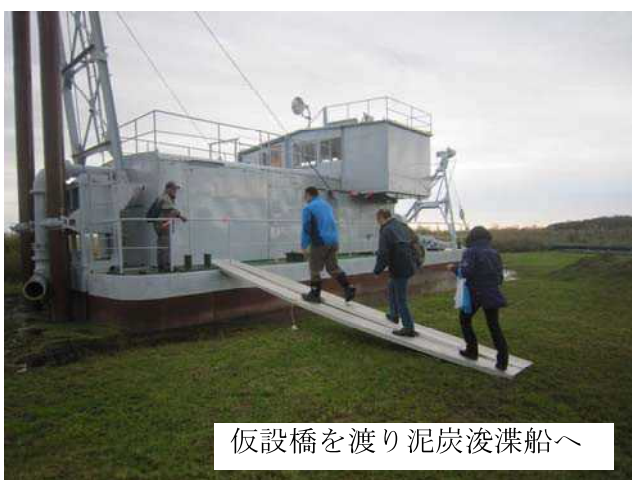
準備(滑止め設置等)



湿原センター内で受け付け



泥炭等について説明



仮設橋を渡り泥炭浚渫船へ



泥炭浚渫船の説明

サロベツエコモーDay特別企画！！

泥炭採掘の歴史を知る

浚渫船に 乗ってみよう♪

2012/10/20(日)

開催時間 9:30～14:00
案内時間 15分～30分程度
参加費無料

※9歳以下のお子様は保護者同伴

受付は湿原センターへ

しゅん せつ せん 浚 渫 船



実際に使われて
いました！

浚渫船について

工場の操業が開始された昭和45年から平成16年の34年間1隻で泥炭採掘を行いました。浚渫船は8時間操業で縦約30m、横約10m、深さ約3mで泥炭を採掘できます。

泥炭採掘は約30年間で高層湿原域を中心に150ヘクタール余りの範囲に及び、これは採掘開始時の高層湿原面積の約16%に相当しました。

色について

工場立ち上げ当時は黄色でしたが、サロベツ原野が国立公園になった頃、景観に配慮した緑色に塗り替えました。（現在は展示の為、灰色の防錆塗装をしています）

採掘方法

工場全盛期には3交代24時間体制で操業し、船には乗組員2名（うち操縦1名）が乗船していました。

浚渫船は、前方に備えたカッターを左右に振って泥炭を切り出していました。後方には泥炭採掘水を圧送するホースが付いており、鉄管を介して工場まで圧送、水洗分離機によって植物繊維を多く含んだ腐植質をこし取り、工場内の脱水機で更に水分を分離し、泥炭の残りカスと水は採掘跡地に戻されました。

泥炭採掘工場とは…？

昭和39年に周辺地域の調査が行われ、豊富工場では昭和45年から操業を開始しました。浚渫船により泥炭を採掘し、主に土壌改良のための肥料(ピートモスなど)を生産していました。



社長の苦勞話…

採掘時に、枯れたミズゴケなどがからまってパイプを詰まらせ水が漏れ、工場中が水浸しになったことがあり、何度も工場が止まりました。



②トラクターに乗ってみよう！



農家の方から説明を受け



トラクター展示状



牧草ロールの展



←牧草ロールの説

牧草ロールに乗って
喜ぶ子供



トラクターの機能などを説



トラクターに乗って楽し

農業用トラクター



農業用トラクターについて

農業用トラクターは耕起や各種作業用の農業機械、トレーラーを引くために使用される機械で、作業に応じて機械前方のフロントローダと呼ばれるアーム部や、後方にけん引する作業機を交換します。

農業用トラクターがけん引する主な作業機

○テッダ（展示中）



テッダは牧草の乾燥を促進させるための機械で、牧草の層を反転・拡散させることで乾燥のムラを解消します。

○ロールベーラ（展示中）



ロールベーラは牧草を拾い集めて直径約1.5mの円筒形ロールにするための作業機で、ローラを用いて成型する「ローラ式」とベルトを用いる「ベルト式」の2つのタイプがあります。



その他の作業機

○モーアコンディショナ



牧草を借り倒す「モーア」と牧草に傷をつけてほ場（農地のこと）乾燥を促進させる「ヘイ・コンディショナ」を組み合わせた作業機です。

○レーキ



予乾後の牧草を掃き寄せて集めるための作業機です。

○ベールラッパ



「ロールベールサイレージ」を作るために、ロールベール（牧草ロール）にプラスチック製のシートを巻きつける作業機です。



トラクター豆知識



エンジン出力	40馬力程度
最大出力時の回転数	毎分2000～2800回転
最大時速	40km/hほど
変速装置	①主変速・副変速など複数のギアがある ②主変速・副変速などのギアの組み合わせにより数十段の変速ができる
タイヤ	前輪よりも後輪の方が直径も幅も広い
ブレーキ	左右独立（後輪のみ）
ハンドル	あそびが小さい



③ 自然再生を知ろう！





見てわかってもらうクイズ



クイズ回答中



野鳥かるた



お絵かきコーナー



子供たちがお絵かき中



アンケート回答者

センターで^{こた}答えを^{さが}探してみよう！！

とよとみちょう のうぎょう かん もんだい
1. 豊富町の農業に関する問題

【問題①】

【問題①】 にゅうぎゅう とう あ のうち おお
豊富町にはたくさんの乳牛がいますが、1頭当たりの農地の大きさは
どのくらいでしょう？ ヒント：牛乳コーナに行ってみよう！

【答え】

(^{へくたーる} ha)



乳牛



牧草ロール

【問題②】

【問題②】 せいさん ぼくそう そと しゅつか
豊富町の広大な農地で生産される牧草は、豊富町の外にも出荷
されています。それはどこでしょうか？

【答え】

(地方)

2. サロベツ^{しつげん}湿原に関する問題

【問題③】

【問題③】 ごぜん ことば
 サロベツの語源となったアイヌの言葉はなんでしょう？

ヒント: 直接の答えはありません。展示の中から、
サロベツに近い言葉を探してみてください。

【答え】

()



サロベツ川



問題④の写真

【問題④】

【問題④】 いろいろ とくちようき ふうけい
 サロベツ湿原には色々な特徴的な風景がありますが、
しゃしん ぬま なまえ
 この写真の沼の名前は？

【答え】

(沼)

【問題⑤】

【問題⑤】 ねんかんへいきんきおん
サロベツ湿原の年間平均気温は？

【答え】

 $(\text{ }^{\circ}\text{C})$ 

サロベツ湿原

3. ^{でいたん}泥炭に関する問題

【問題⑥】

サロベツの泥炭はどれくらい前から積もったものでしょうか？

【答え】 (年 前)



泥炭



【問題⑦】

泥炭を利用して作られる商品にはどんなものがあるでしょう？

【答え】

()

4. サロベツ湿原の生き物に関する問題

【問題⑧】

サロベツ湿原の沼や川に住むこの魚の名前は？

ヒント：ワシの下^{はこ}の箱^{あな}の穴からのぞいてみよう！



問題⑧の写真

【答え】 ()



問題⑨の写真

【問題⑨】

サロベツ湿原に住むこの動物の名前は？

【答え】

()

【問題⑩】

サロベツ湿原で見ることのできるこの植物の名前は？



問題⑩の写真

【答え】 ()

センターで答えを探してみよう！！ 解答＆解説

1. 豊富町の農業に関する問題

【問題①の答え】 (1頭当たり、約 1 ha です。)

【解説】

1haは教室約135個分、1haの農地からは一般的な乾草ロールが約25個収穫できます。ロール1個は約300kgもあります。



乳牛

【問題②の答え】 (士勝地方 など。)

【解説】

出荷されるものは、牧草ロールやサイレージ(牧草などを発酵させた牛の餌)です。



牧草ロール

2. サロベツ湿原に関する問題

【問題③答え】 (サル・ン・ペツ/サル・オ・ペツ など)

【解説】

「サル」=ヨシ原、「ン」・「オ」=にある、「ペツ」・「ペツ」=川です。

アイヌ語で「ヨシ原にある川」という意味になります。

【問題④の答え】 (瞳 沼)

【解説】

瞳沼は、サロベツ湿原のほぼ中央にあり、日本最大級の浮島です。

厚さ1m、重さ2000トン、面積はテニスコート3面分もあります。

浮島は空を見上げる瞳のように見え、風によって右や左に動きます。



サロベツ川



瞳沼の写真

【問題⑤の答え】 (6.4℃)

【解説】

夏の平均気温は20℃近くまで上昇しますが、年間平均は6.4℃と低く、また、降る雪の量がとても多いので、このような気候も、日本一広い高層湿原が発達した要因と言われています。



サロベツ湿原

<エコモ－交流会>

豊富牛乳メニューコンテストの優秀作品発表と記念品授与、自然再生エコツアーの報告の後、これまで長きに渡ってサロベツの自然と農業を見守ってきた「八重沢氏」及び「村元氏」に語り部になっていただき、サロベツの開拓の歴史、自然の魅力や脅威について講演していただいた。なお、村元氏が配布された資料は資料編「9.6 エコモ－交流会資料」に示した。

①サロベツを食べよう！～豊富牛乳を使ったメニューコンテスト～

サロベツを食べようの参加者による投票の結果、下表に示すように「豊富高等学校の生徒・佐藤先生」による「サロベツ系・サクサク・カニクリームコロッケ」が優秀作品として選定され、表彰状および記念品の授与が行われた。

表-8.29 メニューコンテストの投票結果

料 理 名	得 点
牛乳わらび餅	7
豊富牛乳しるこ	7
オロロンスムージー	1
サロベツ系・サクサク・カニクリームコロッケ ～北の大地、豊富より～	11
豊富(ほうふ)なトヨトミミルクパスタ ～北の大地、豊富より～	6
フワフワ湿原触感！ サロベツ★フレンチトースト	5



メニューコンテスト結果報告



表彰状及び記念品授与

② 自然再生エコツアーの報告



③ 開拓の歴史、自然の魅力について



(6) 実施結果の取りまとめ

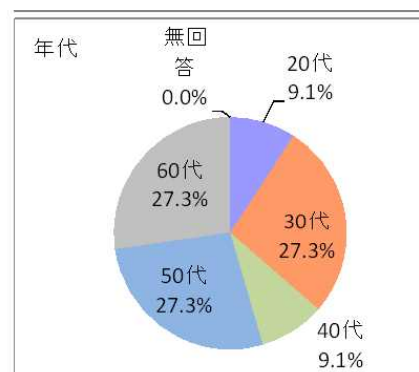
サロベツエコモーDay の各イベントの参加者数は下記に示す通りであった。

表-8.30 各イベントの参加者数

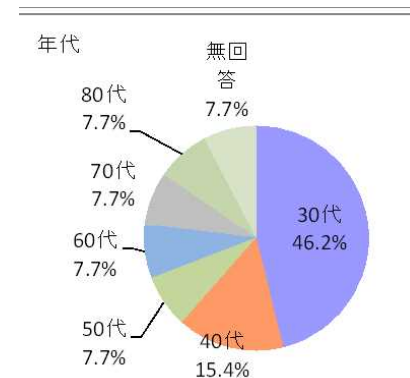
イベント等名称		参加者数
サロベツを食べよう		58
自然再生エコツアー		11
センター展示	浚渫船に乗ってみよう	11
	トラクターに乗ってみよう	26
	自然再生を知ろう	36
エコモー交流会		27
全体（一部、イベント参加者が重複）		113

「自然再生エコツアー」及び「センター展示(自然再生を知ろう)」については、先に述べたように、今後の環境学習の在り方を考える際の参考とする目的でアンケートを実施した。アンケート用紙は資料編に示した。

参加者の年代別内訳はアンケートを実施した「自然再生エコツアー」及び「センター展示(自然再生を知ろう)」についてのみ明らかとなっている。右図に示すとおりである。「自然再生エコツアー」は30代、50代及び60代がそれぞれ30%弱を占めている。一方、20代および40代は9.1%と一割に満たない結果であった。「センター展示(自然再生を知ろう)」では、30代が46.2%、次いで40代が15.4%と60%強を占めている。一方、50代から80代まではいずれも各7.7%で、その合計はおよそ30%となっており、他のイベント等に比べて30代から40代の割合が高くなっている。なお、センター展示「自然再生を知ろう」の参加者は36名であったのに対してアンケート回答者は13名であり、高年齢の参加者がアンケート回答をためらった結果であることも予想される。



自然再生エコツアー参加



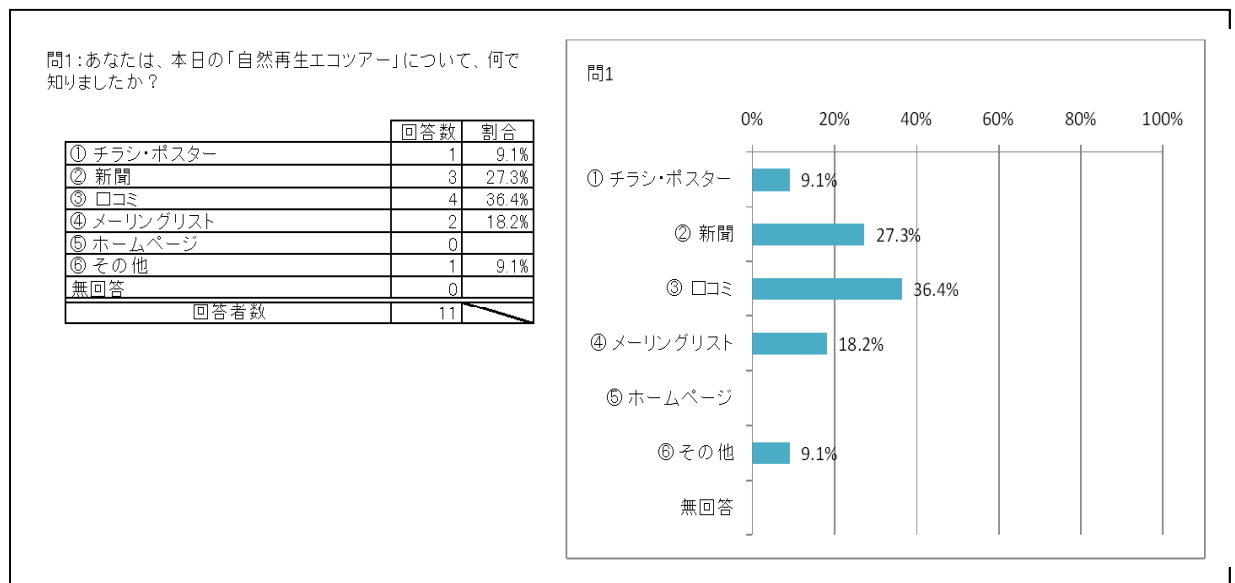
センター展示参加者

<自然再生エコツアーに関するアンケート>

アンケートは参加者 11 名を対象に実施し、回収率 100%であった。

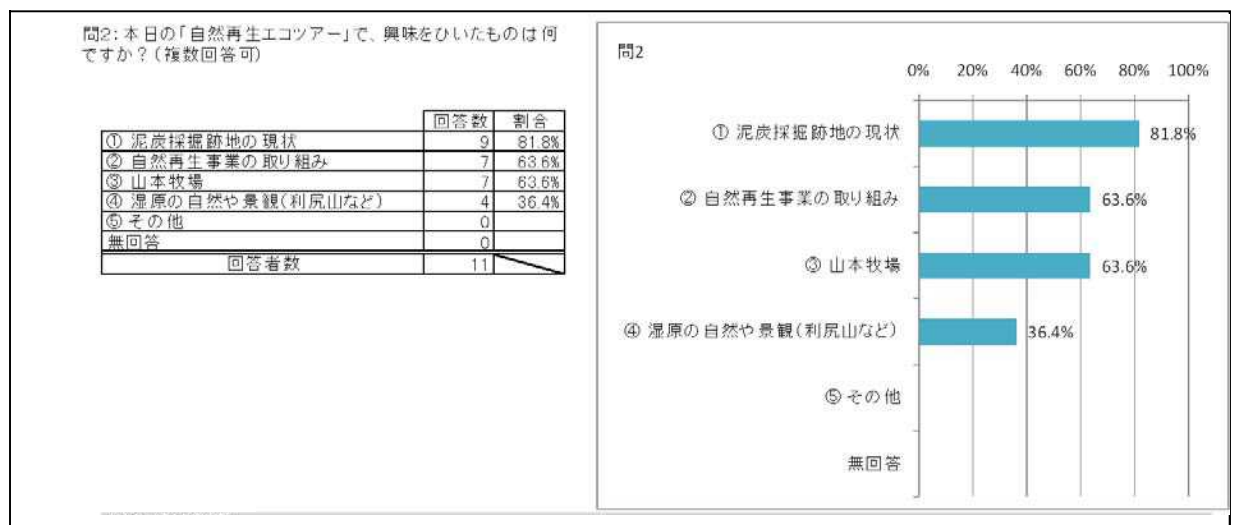
(問 1)あなたは、本日の「自然再生エコツアー」について、何で知りましたか?

広報効果を確認するための設問である。「口コミ 36.4%」が最も多く、続いて「新聞 27.3%」「メールマガジン 18.2%」となっている。一方、ホームページが全く利用されていない点は課題として残る。



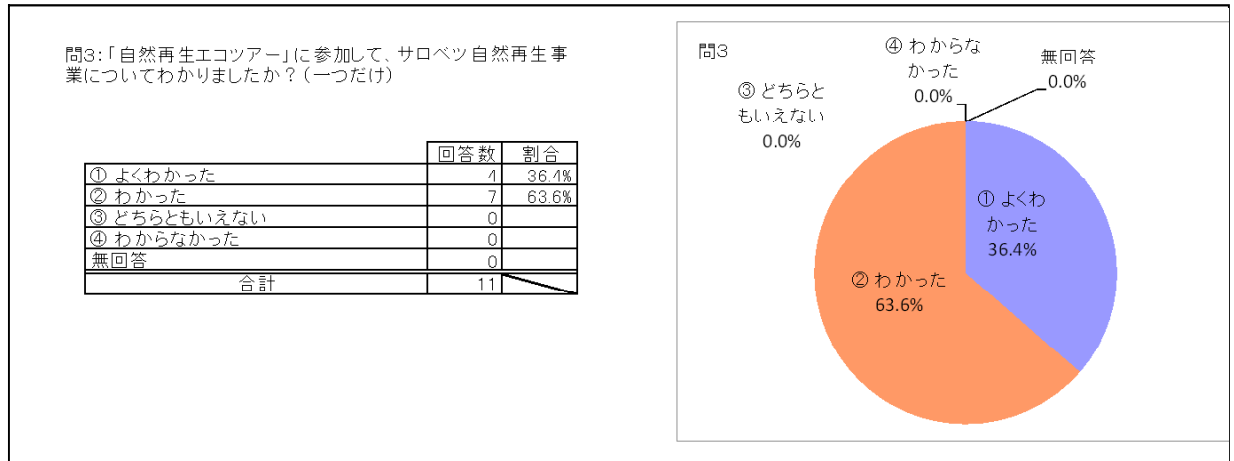
(問 2)本日の「自然再生エコツアー」で、興味をひいたものは何ですか?

自然再生エコツアーの主催者側の「ねらい」がどれほど受け入れられているかを知るための設問である。複数回答で、「泥炭採掘跡地の現状 81.8%」「自然再生事業の取り組み 63.6%」となっており、参加者が泥炭採掘跡地の現状を認識したうえで、自然再生事業の必要性を理解していただいた結果と推察できる。



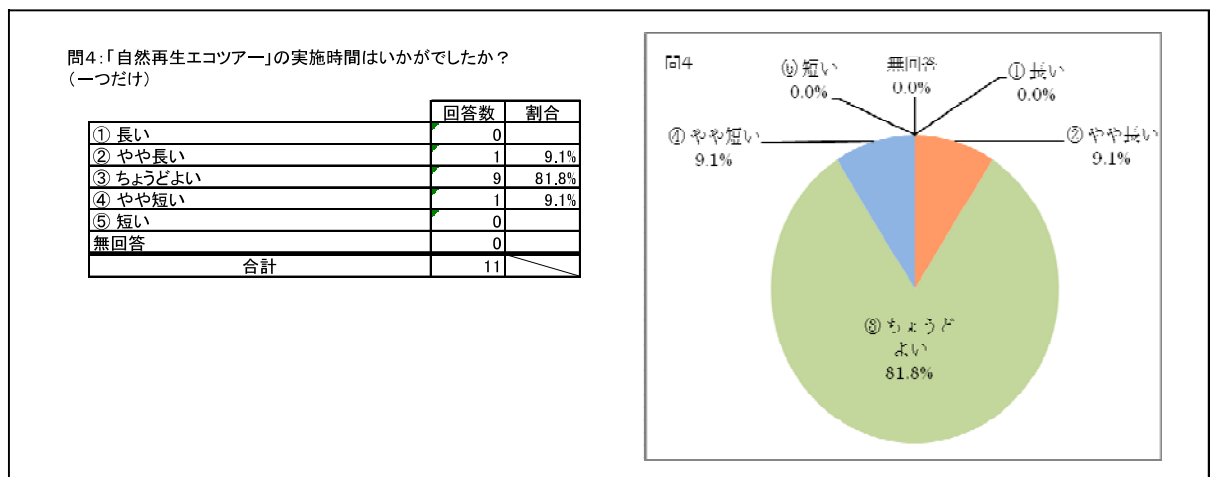
(問 3)「自然再生エコツアー」に参加して、サロベツ自然再生事業についてわかりましたか?

ツアーに参加することにより自然再生事業について理解が深まったかを質問している。「よくわかった 36.4%」「わかった 63.6%」となっており、「わからなかった 0%」回答はなかった。ただし、環境学習に比べて「よくわかった」の割合が低い(第 1 回 60.0%、第 2 回 50.0%)のは、ツアー場所が 2 箇所あり、両者の関連性についての理解が低かったことが予想される。



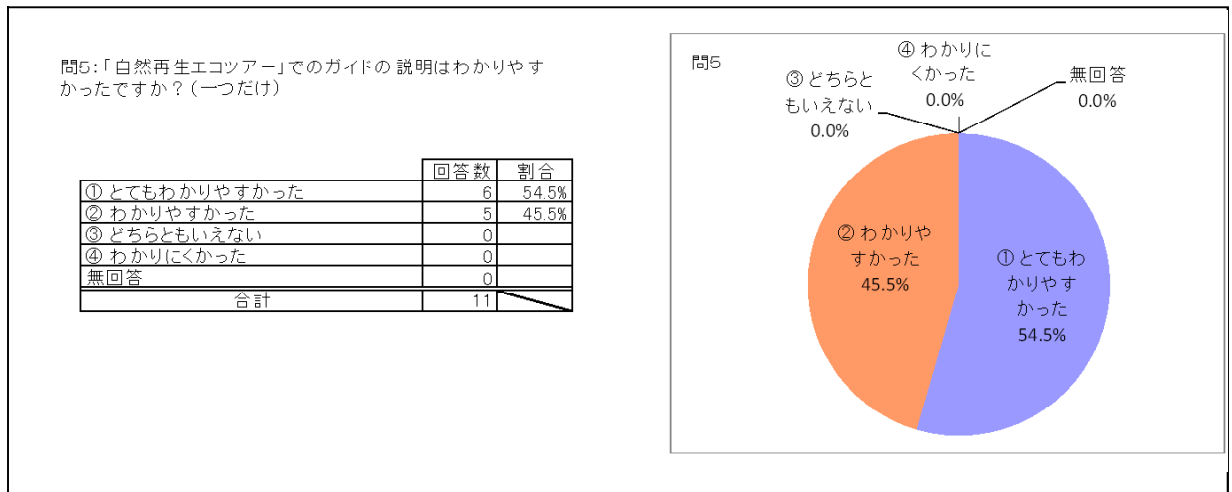
(問 4)「自然再生エコツアー」の実施時間はいかがでしたか?

ツアーの実施時間については、「ちょうどよい 81.8%」が大部分を占めていた。自然再生エコツアーは昼食時間を挟み約 5 時間に渡り、環境学習の約 2 時間に比べて長時間であったが、昼食時間(休憩時間)を挟んだこと、ツアー場所が 2 箇所であったことからこのような結果になったと推察され、このことから、環境学習 1 箇所当たり半日程度、2 箇所ではほぼ 1 日が妥当と考えられる。



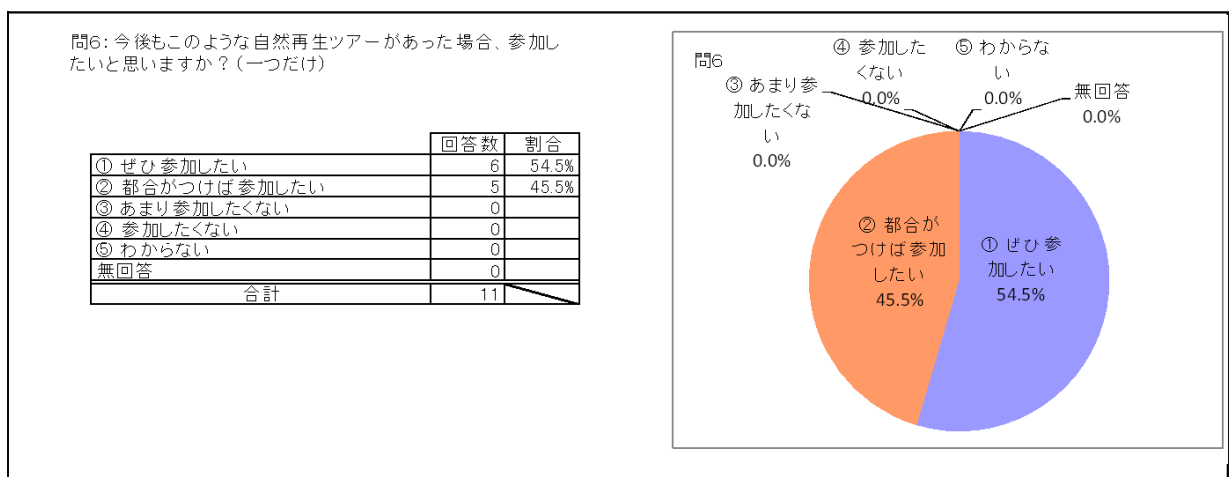
(問 5)「自然再生エコツアー」でのガイドの説明はわかりやすかったですか？

ツアーのガイドの解りやすさを質問しところ、「とてもわかりやすかった 54.5%」「わかりやすかった 45.5%」の結果となっており、良好な結果である。



(問 6)今後もこのような自然再生ツアーがあった場合、参加したいと思いますか？

今後のツアー参加の意向を質問したところ、「ぜひ参加したい 54.5%」、「都合がつけば参加したい 45.5%」の結果となった。「ぜひ参加したい 54.5%」は環境学習の場合(20.0～35.7%)より高い値となっており、自然再生事業地の環境学習に参加者が興味を示す内容のツアーを組み合わせることにより、参加を誘引できる可能性があると推察される。



(問 7)上記問 6 の回答理由？

問 6 の参加したい理由を自由回答形式で記入していただいた。「ぜひ参加したい」の理由に「再生事業への興味」と「普段は入れない所へ行ける特別のツアー」との回答があり、また、「都合がつけば参加したい」の理由に「自然再生事業の取り組みを良く知りたい」との記載もあり、自然再生エコツアー開催の効果が浸透していると評価できる。

問7: 問6(今後もこのような自然再生ツアーがあった場合、参加したいと思いますか?)の回答理由	
記述内容	問6の回答
サロベツ原野が乾燥化していると聞いているので、その再生事業に関心があるので。ツアーにより現状を知りたいから。	ぜひ参加したい
普段はいれないような所に行ってみたいので	
外の場所も見たいと思いました。	
もっともっと知識を深めたいから	
まだまだ知らないことがたくさんあるので少しでも知れたらいいなと思うから。	
湿原の中を歩けるので	都合がつけば参加したい
自然再生事業の取り組みをよく知りたい。	
仕事をしているので、休みがなかなかとれません。	

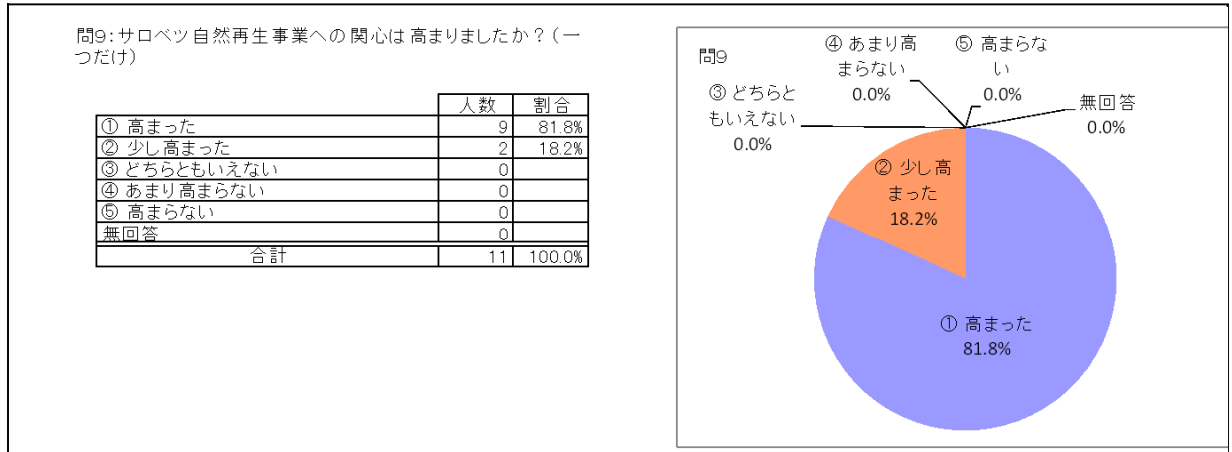
(問 8)ツアー全体を通して、ご意見・ご感想があればお書きください

自然再生エコツアーに関する意見を記載していただいた。いずれも好感的な回答である。ここでもツアーの効果がうかがえる。

問8: ツアー全体を通して、ご意見・ご感想があればお書きください	
記述内容	
いつでも声をかけてください	
大変まんどくしています	
貴重な体験をすることが出来、とても楽しい一日でした。	
牧場見学がおもしろかった。実際に行って現場で実情を聞くと、かなりのインパクトがあった。	
湿原だけでは生きていけない。湿原プラス人間である。	
自分で体感する事で説明にはない自分で知りたい事～ふえていく	
エコモ―dayとの同時進行お疲れ様でした。個人的には浚渫船も乗りたくて・・・時間がないのがちょっと残念でした。	

(問 9)サロベツ自然再生事業への関心は高まりましたか？

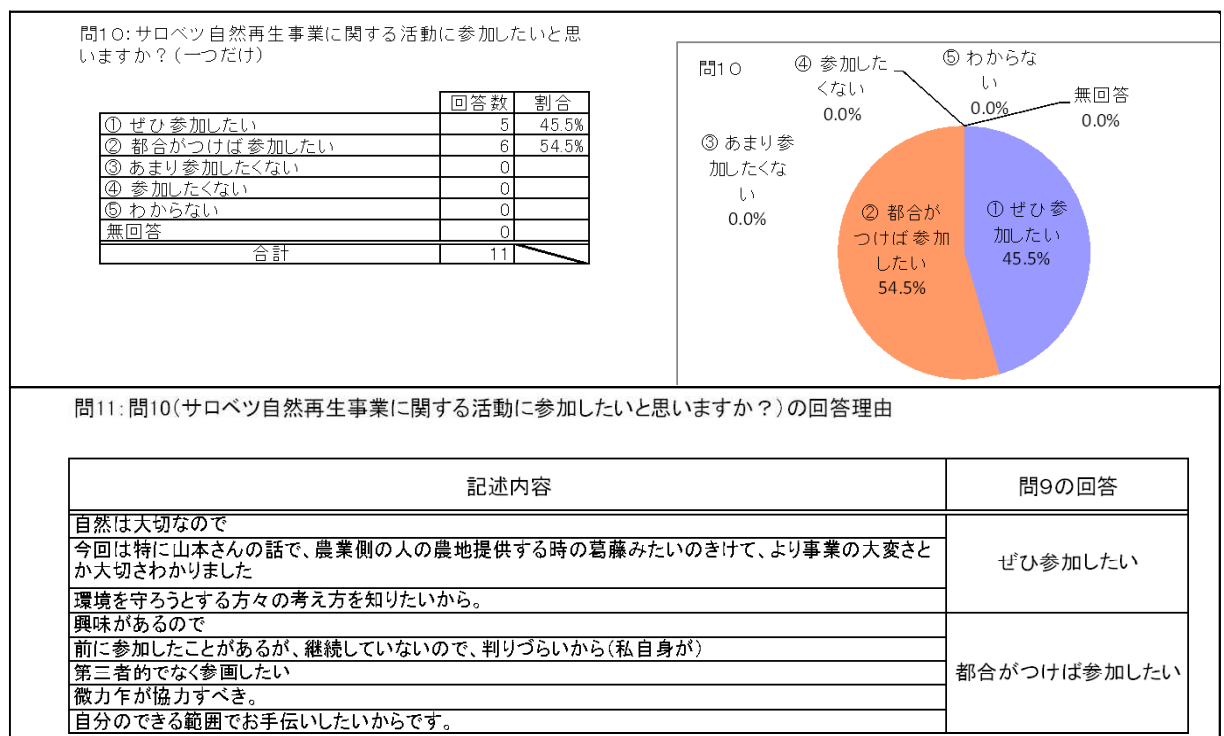
サロベツ自然再生事業への関心度の変化についての設問である。回答は、「高まった 81.8%」「少し高まった 18.2%」となった。自然再生エコツアーの効果がうかがえる回答であった。



(問 10・11)サロベツ自然再生事業に関する活動に参加したいと思いますか？

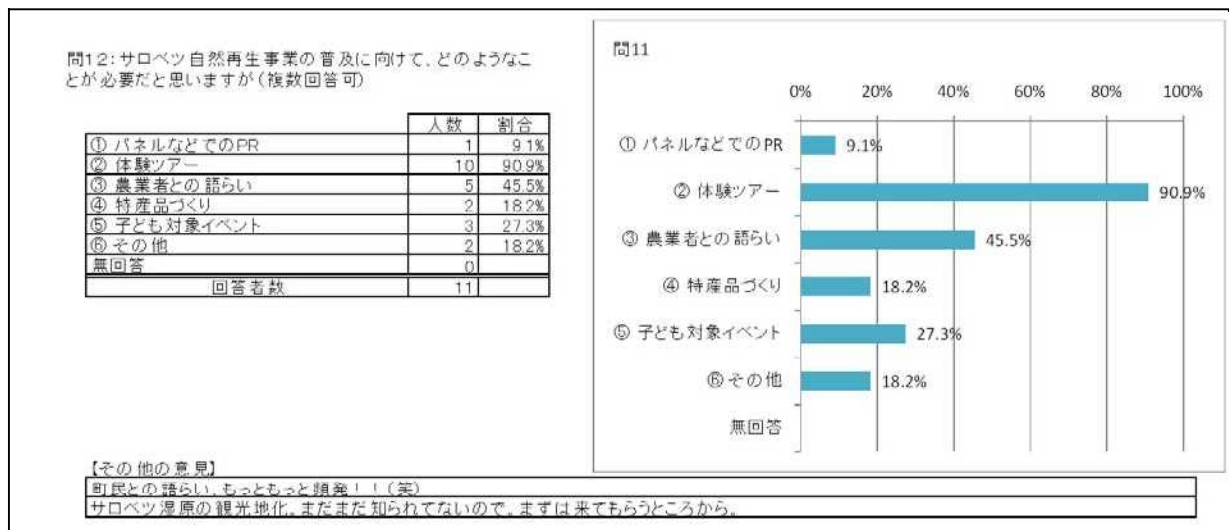
その回答の理由

今後、自然再生事業に関する活動に参加する意思があるかを質問した。「ぜひ参加したい 45.5%」「都合がつけば参加したい 54.5%」となった。環境学習における同様のアンケートでは、「ぜひ参加したい」の割合は 6.7～21.4%であったことと比較して高い値となった。木道のない状況での湿原の徒歩移動体験や牛舎見学における農業サイドからの意見を聞く機会と言った「貴重な体験」が要因となってこのような結果になったのではないかと考える。



(問 12)サロベツ自然再生事業の普及に向けて、どのようなことが必要だと思いますか？

サロベツ自然再生事業の普及に向けて、どのような事が必要かを複数回答で質問した。その結果「体験ツアー90.9%」、「農業者との語らい 45.5%」が高い値を示した。環境学習においても「体験ツアー」が高い値(71.4～80.0%)を示している。一方、「農業者との語らい」については、環境学習(26.7～35.7%)の場合に比べて高い値となっており、今回のツアーメニューに山本牧場訪問が含まれていた効果と考えられる。上サロベツ自然再生全体構想の目標の一つである「農業の振興」「地域づくり」を具体化する方法の一つとしてツアーに「農業者との語らい」につながるメニューを含ませることが大切であることが分かる。

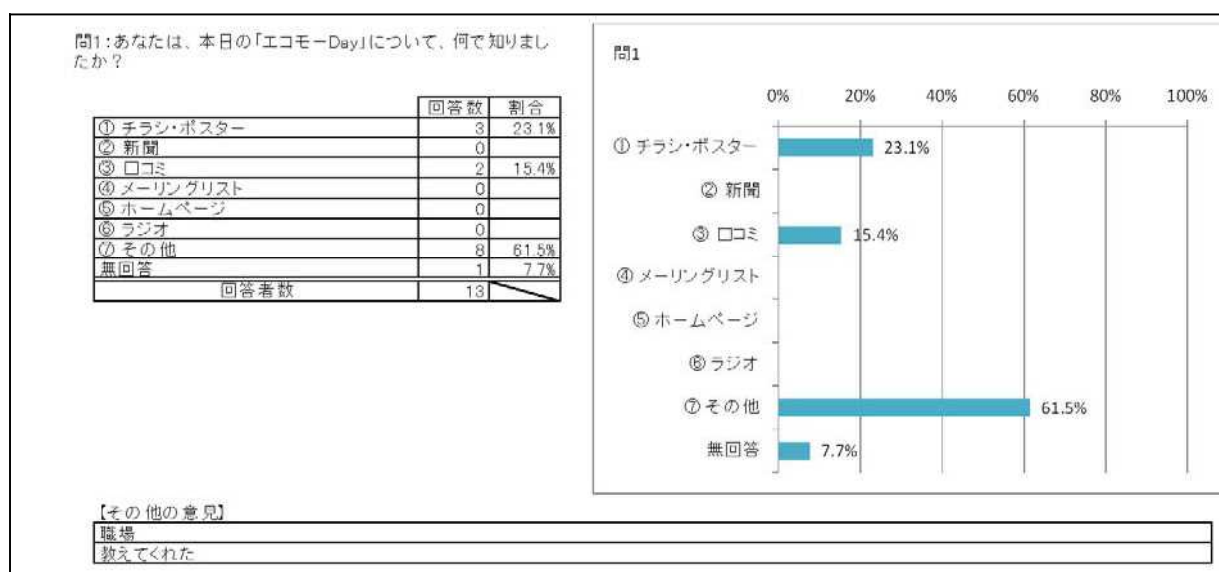


<センター展示「自然再生事業を知ろう」に関するアンケート>

センター展示の入場者は36名であったが、アンケート回答者数は13名であった。

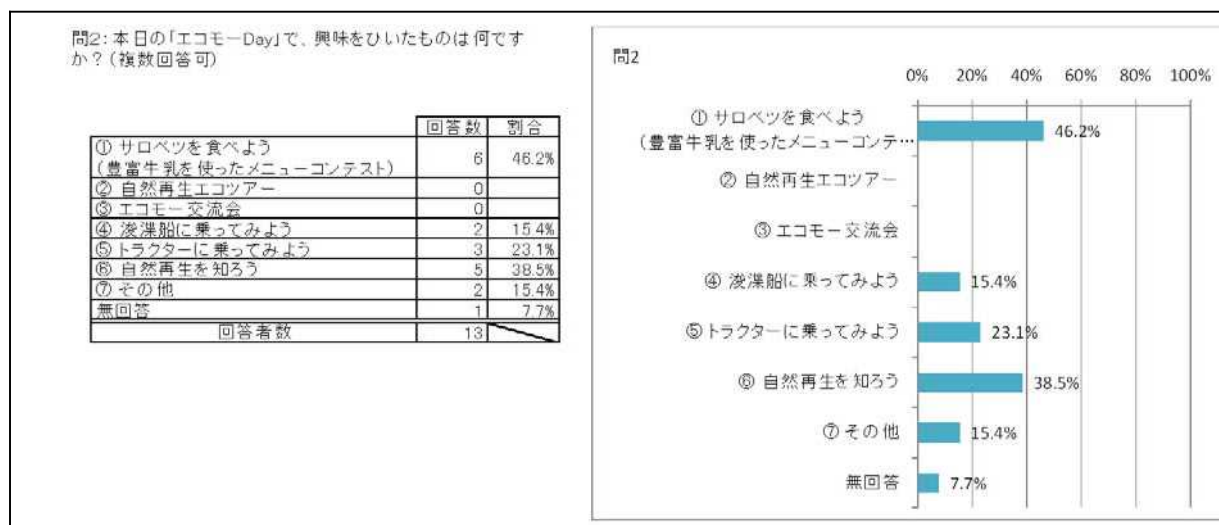
(問1)あなたは、本日の「エコモーDay」について、何で知りましたか？

広報効果を確認するための設問である。その他を除けば「チラシ・ポスター23.1%」が最も多く、続いて「口コミ15.4%」となっている。



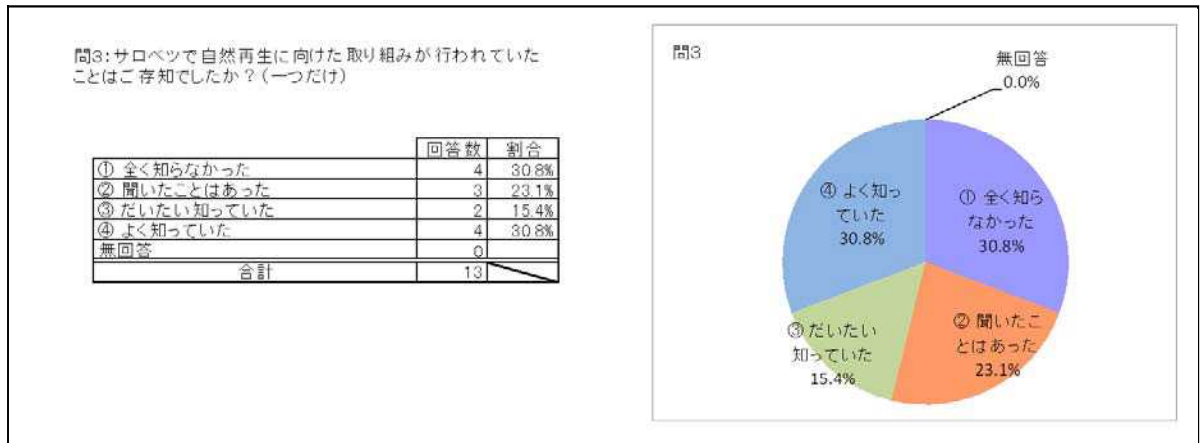
(問2)本日の「エコモーDay」で、興味をひいたものは何ですか？

エコモーDayで興味をひいたものを複数回答で質問した。「サロベツを食べよう46.2%」「自然再生を知ろう38.5%」となっている。「自然再生エコツアー」及び「エコモー交流会」が無回答なのは、センター展示訪問者を対象にしているためであると推定できる。



(問3) サロベツで自然再生に向けた取り組みが行われていたことはご存知でしたか？

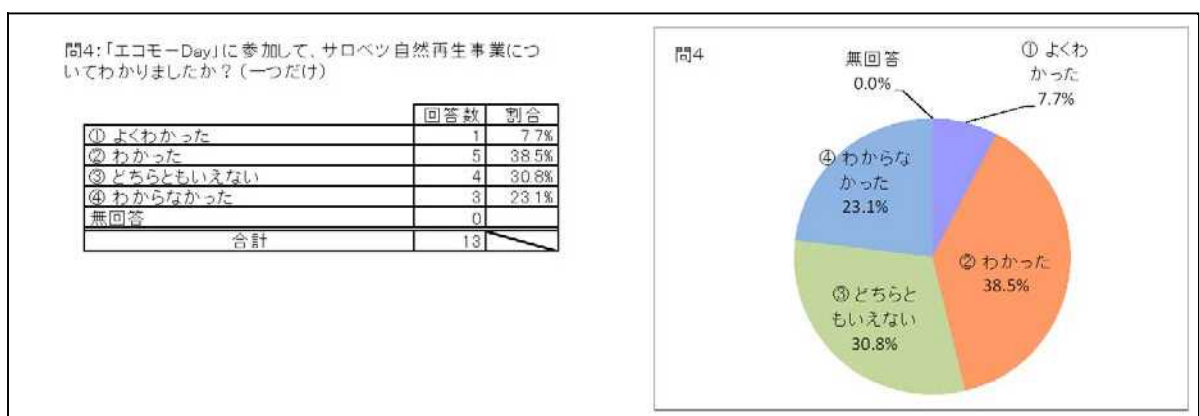
サロベツでの自然再生の認知度についての設問である。「全く知らなかった 30.8%」「よく知っていた 30.8%」と同率であった。「よく知っていた 30.8%」と「だいたい知っていた 25.4%」を合わせると 56.2%となり、およそ「知っている人」と「知らない人」は半々であることが分かる。今後とも、普及活動が必要であることが分かる。



(問4) 「エコモーDay」に参加して、サロベツ自然再生事業についてわかりましたか？

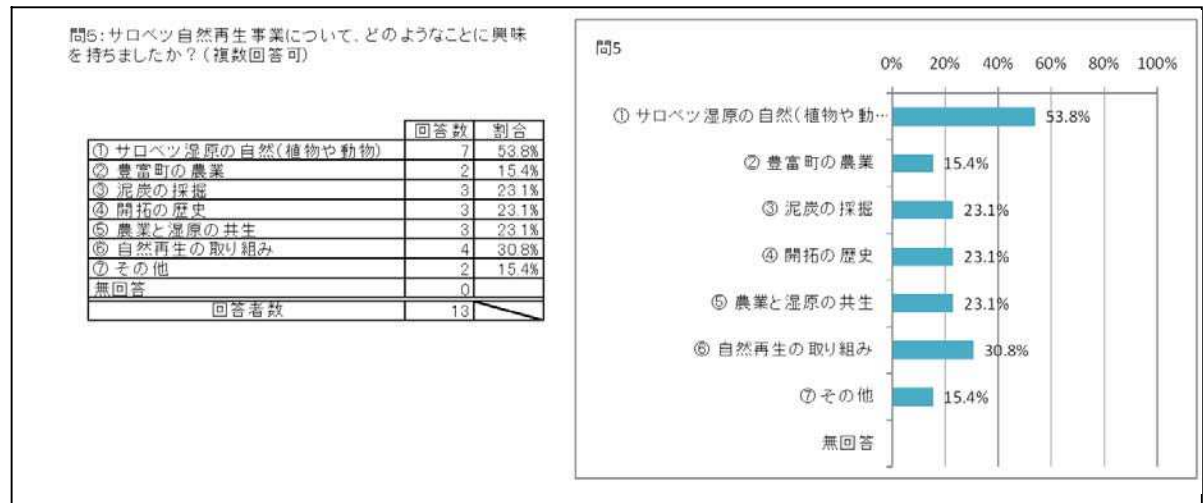
エコモーDayに参加してサロベツ自然再生事業についてわかったかを質問したところ、「よくわかった 7.7%」、「わかった 38.5%」で合計 46.2%とおおよそ半分を占めていた。

展示等においては十分な興味がなければ素通りに近い状況となってしまう恐れが回避できない。入場者の理解を深めるためには、展示物の工夫も必要であるが、「親しみのある」そして「解りやすい説明」を行う説明者が不可欠であり、その育成が今後の課題となろう。



(問 5)サロベツ自然再生事業について、どのようなことに興味を持ちましたか？

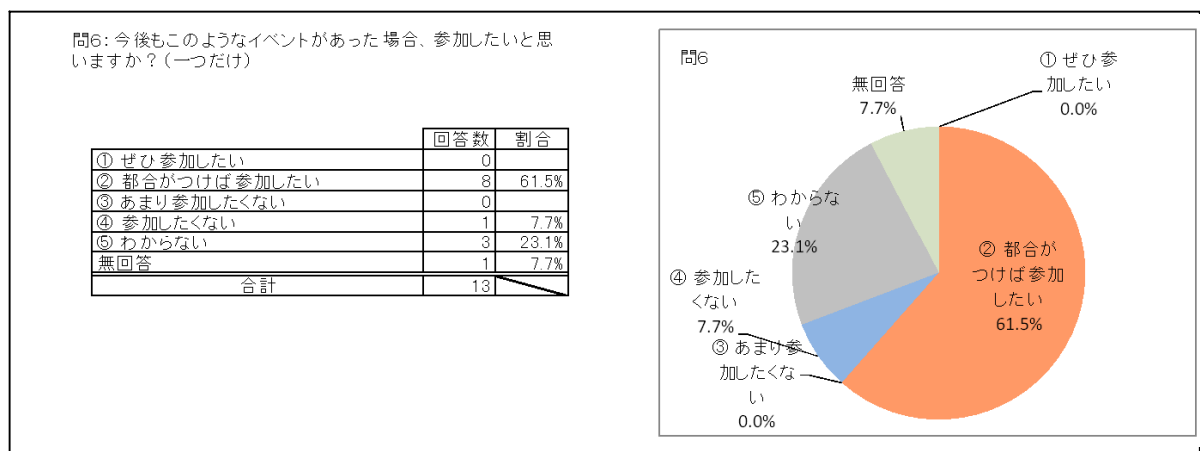
サロベツ自然再生事業についてどのようなことに興味を持ったかを複数回答で質問した。「サロベツ湿原の自然 53.8%」と自然再生事業の基礎ではあるが事業そのものではない事項に回答が集まっている。一方、自然再生事業と直結する「自然再生の取り組み 30.8%」は次に多い回答となっていた。



(問 6・7) 今後もこのようなイベントがあった場合、参加したいと思いますか？
その回答理由

今後のイベント参加の意向を質問したところ、「ぜひ参加したい 0.0%」、「都合がつけば参加したい 61.5%」の結果となった。イベント(センター展示)については積極的な参加意向を誘引するためには、さらに魅力的で解りやすい展示や説明方法の工夫などに努める必要があることが分かる。

問 7 で「都合がつけば参加」にその理由を自由回答で質問したところ、「自然と営農との共生に興味がある」や「ササだらけになってる」など自然再生事業のキーワードが記載されており、一定の理解は得られていることが分かる。

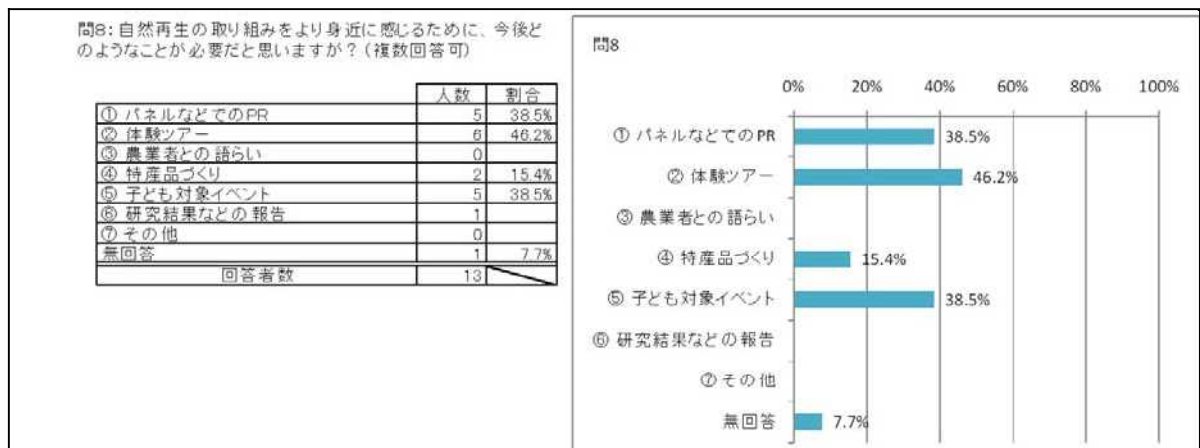


問7: 問6(今後もこのようなイベントがあった場合、参加したいと思いますか？)の回答理由

記述内容	問6の回答
自然と生活(営農)との共生に興味があるため	都合がつけば参加したい
面白かった	
ささだらけになってる	
気になる事があったから	

(問 8)自然再生の取り組みをより身近に感じるために、今後どのようなことが必要だと思いますか？

自然再生事業の普及(身近に感じるため)に今後どのような事が必要か質問した。「体験ツアー46.2%」、「パネルなどでのPR38.5%」「子ども対象イベント 38.5%」の結果となった。センター展示で行ったパネル展示によるPRも比較的高い値となっているにも関わらず積極的参加が少ないこと(問 6)から、解りやすい展示や展示物の説明の工夫などが今後の課題となっていると考えられる。



(問 9)イベント全体を通じて、ご意見・ご感想があればお書きください

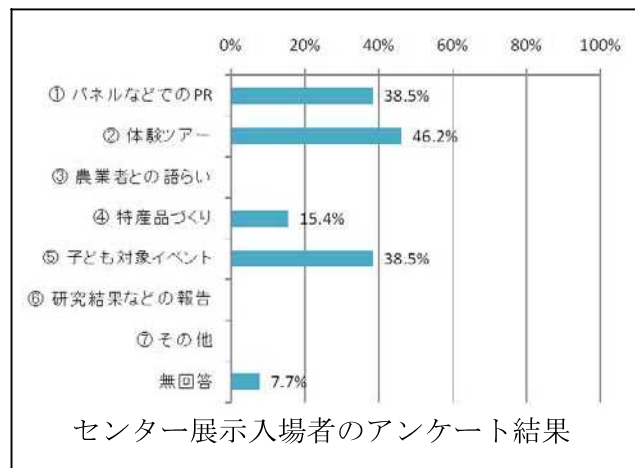
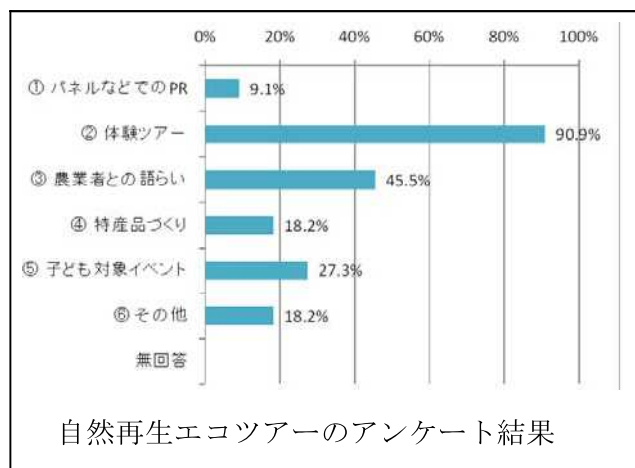
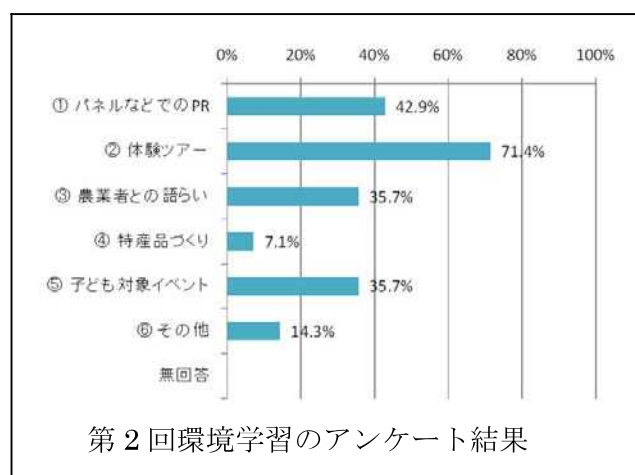
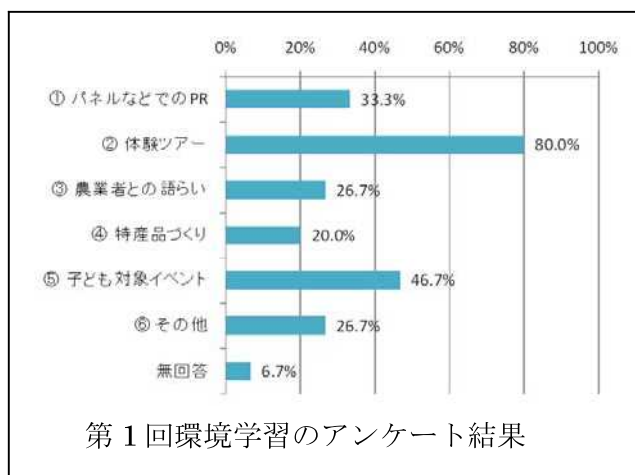
イベント全体を通じての自由回答である。「夏に開催すればよいかと」と記載されている。今年度は試行でもあり、環境学習ツアー、エコモーDay とともに時期的に遅くなってしまう傾向は否めない。湿原の動植物が活発に活動している時期が好ましいのは意見をまたない。

問9: イベント全体を通じて、ご意見・ご感想があればお書きください

記述内容
夏に開催すれば良いかと

8.3 環境学習等の今後の課題

前出の4回のアンケート結果において、今後の自然再生事業の普及方法についての回答は下図に示すように「体験ツアー(46.2~90.9%)」が最も多い回答となっており、続いて「子ども対象イベント(27.3~46.7%)」、「パネルなどでのPR(9.8~42.9%)」となっている。自然再生事業の普及においては、まず「事業を知ってもらい」、「理解してもらい」さらに「地域の活動」へと発展させながら継続していくこと大切である。さらに、将来的にはその活動の主体が地域となることが望まれる。これらを踏まえ、環境学習の試行結果等から今後の課題を検討した。



(1) 今後の課題

「上サロベツ自然再生全体構想」は、「湿原の自然再生」、「農業の振興」、「地域づくり」を目標として平成 18 年 2 月に策定された。この全体構想に基づき、再生普及部会はこれらを推進する事を目的として「上サロベツ自然再生普及行動計画」を策定した。この計画の役割としては、「自然再生を伝える」、「人や団体のつながりをつくる」、「地域への思いを育てる」が掲げられている。これらの役割を果たす一つの方法として今後も自然再生事業の普及においては環境学習等が重要になることから、今後の課題として次の 4 点を整理した。

- 自然環境への負荷の回避
- 適切な説明や誘導
- 環境学習ツアー等による地域づくり
- 子ども(次世代)を対象とした普及活動

○ 自然環境への負荷の回避

環境学習ツアー等の実施においては、今年度と同様に調査用木道を利用することが予想される。調査用木道は環境省が自然再生施設として調査に必要最低限の規模で整備・管理しているものであり、また、周辺は高層湿原をはじめとした脆弱な自然環境であることから、環境学習等の開催による環境への負荷の回避、さらに、安全性の確保から、一般的な観光ツアーに開放されるべきではない。仮に、今後これらの場所を自然再生事業の普及のために利用する場合は、参加者の人数を一定数に制限する必要があるとともに、環境保全に対する配慮および安全面において参加者に対する説明や誘導等を適切に実施できる説明員が引率することが必要である。

○ 適切な説明や誘導

環境学習ツアー等の説明員は、自然再生事業の説明、サロベツ湿原の自然環境や動植物の説明にとどまらず、どのような行為が自然環境への負荷になるか、参加者の安全確保のためにどのように誘導すれば良いかなどを会得している必要がある。そのため、説明は、環境省職員自らが行うか、または、自然再生事業及び対象地域の自然環境等に精通した地元団体や個人等によって行われるのが望ましい。地元団体や個人が説明員となることで、地域での人材の育成が期待できる。

○ 環境学習ツアー等による地域づくり

自然再生事業の普及において、地域の自発的な活動を促すためには、例えば、環境学習ツアー等を一部有料化しエコツーリズムに発展させるなど、地域の観光振興や、地域団体や個人の活動資金の確保などにも考慮する必要がある。

○ 子ども(次世代)を対象とした普及活動

子ども(次世代)を対象とした普及活動は、次世代が地域の課題や取り組みを引き継いで行く意味において重要である。教育委員会や学校と協力し、小・中・高等学校の社会学習、郷

土学習のプログラムとして位置づけていくことは、「上サロベツ自然再生普及行動計画」にあるように地域への思いを育てる手段として重要と考えられる。

○（参考）

エコツーリズム推進マニュアル(環境省・H20.3)によれば、エコツーリズム推進法の基本理念として下記事項を掲げ、エコツーリズムを通じて、各事項を両立させる必要があるとされている。

- 自然環境への配慮
- 観光振興への寄与
- 地域振興への寄与
- 環境教育への寄与

エコツーリズムの取り組みに当たっての視点は下記のように説明されている。

- 「大切にしながら」という視点

自然環境や生活文化などの自然観光資源を保全するとともに、持続的に利用する考え方。エコツーリズムの取り組み全ての基礎。

- 「楽しみながら」という視点

“おもてなしの心”を持って観光旅行者に楽しんでもいただくことが前提であり、このことで自然や地域を好きになる人が増え、継続性が出てくる。

- 「地域が主体」という視点

地域を中心として観光旅行者を迎える関連する人たち全てが協力し合いながら、自ら考え、行動することが求められる。

(2) 環境学習の計画

前項に示した今後の課題を踏まえて、今後、環境学習ツアー等を実施する場合の留意点等をまとめた。

① 開催趣旨

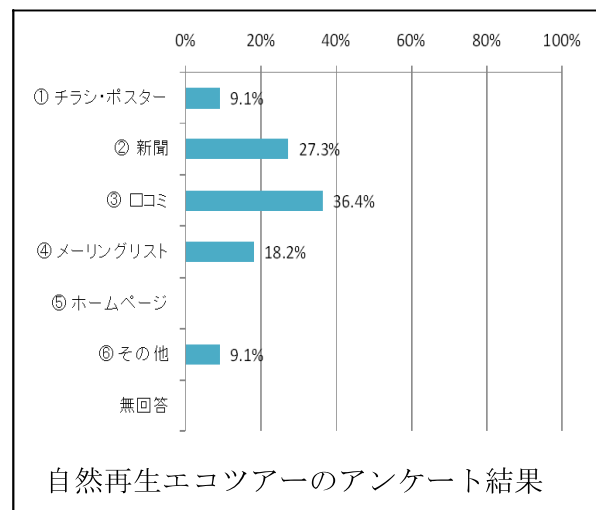
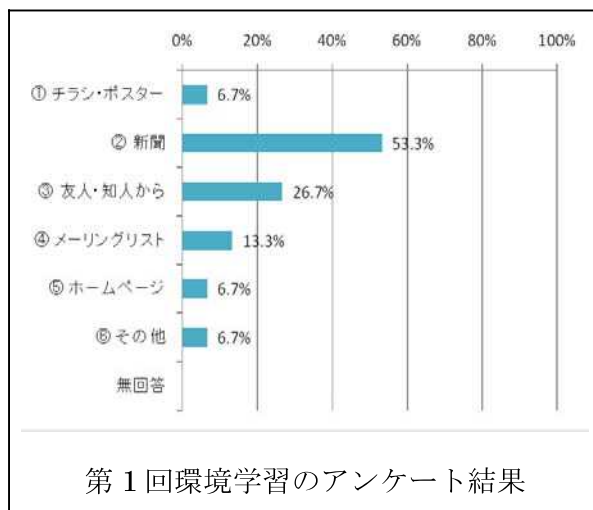
環境学習ツアー等は他の普及活動と相乗して、自然再生事業の目的や必要性、また、これまでの成果や今後の展望などについて説明し、地域住民の自然再生事業への関心を高め、地域における理解者を増やしていくことを目的とする。具体的には下記の効果を目指とする。

- 上サロベツ自然再生事業に対する住民意識の向上
- サロベツの自然環境保全に関する住民参加活動の推進と維持的活動
- 上サロベツ自然再生事業、自然環境保全に関する情報発信
- サロベツの自然環境保全に関する持続的活動の推進
- サロベツの自然環境保全に関する人材の育成

② 参加者の募集

今年度の環境学習ツアー等の参加者を対象としたアンケートでは、ツアーを知った方法について回答を求めている。ただし、第2回環境学習については、その直前に開催されていたNPO主催の勉強会参加者を誘引した経緯があるので、ここでは除外した。

下図に示すように、「新聞」(27.3～53.3%)と「友人・知人から」あるいは「口コミ」(26.7～36.4%)が多く、続いてメールリスト(13.3～18.2%)となっている。メールリストとはエコモ★サポーターやNPOの会員などに一斉送信できるリストによる発信であり、また、「友人・知人から」あるいは「口コミ」のなかには、これらメールリストで情報を得た方々から情報提供である可能性がある。一方、「HP」および「チラシ・ポスター」は6.7～9.1%と誘引効果が薄いことが分かった。



これらのことより、参加者の募集方法は下記を計画する。

- 宗谷管内在住者・・・マスコミ各社へのプレスリリース(日刊宗谷。NHK 稚内など)
- 豊富町在住者・・・関係者に対するメール発信(町内主要施設へのポスター掲示)
- 広域・・・関係者に対するメール発信

③ 開催場所

環境学習ツアー等の目的からして、今年度と同様に下記の3箇所が主要な対象地域となることが想定される。ただし、これらの地域及び調査用木道は環境省が自然再生施設として調査に必要最低限の規模で整備・管理しているものであり、また、周辺は高層湿原をはじめとした脆弱な自然環境であることから、ツアーの実施による環境への負荷の回避、さらに、安全性の確保について十分に配慮することが必要である。

この他に、ツアーの対象としては「自然再生と農業の共生」に配慮して、今年度実施したような牧場見学や営農者との語らいの場の提供にも配慮する事が望ましい。

- サロベツ川放水路南側湿原、調査用木道(落合沼などが観察できる)
- サロベツ原生花園園地跡地、調査用木道
- 泥炭掘削跡地、調査用木道

④ 参加者等の規模

環境学習ツアー等に参加し、自然再生事業等に関する理解を深め、趣旨の浸透を図るに適した人数は、今年度の試行から10名程度が適当と考えられる。また、この人数は、環境保全及び安全確保からも適切な人数であると考えられる。この人数を上回った場合には、木道を利用した移動という制約条件下では、列が長くなりすぎて説明等に支障をきたす。また、緊急事態の発見や対応も困難になる恐れがある。なお、参加者以外に、説明員・誘導員・記録係の2~3名の運営要員が必要である。

- 学習効果、環境保全及び安全確保から参加者は10名程度とする。
- この他に、説明員・誘導員・記録係として2~3名の随行が必要。

⑤ 説明員

環境学習ツアー等で利用する調査用木道の周辺は高層湿原をはじめとした脆弱な自然環境が存在することから、ツアー開催による環境への負荷増大の影響の回避、さらに、安全性の確保から、参加者に対する自然再生事業の説明や誘導等を適切に実施できる説明員が必要である。

⑥ 開催時期

環境学習ツアー等は現地の気候条件などから、融雪出水終了後から降雪前の6～10月の期間が好ましいと考える。さらに、上記の対象域の動植物の観察に適した時期も考慮して設定することが望ましい。

- 環境学習ツアー等は現地の天候条件等から6～10月が好ましい。
- 天候や動植物の観察に適した時期を考慮して設定する。

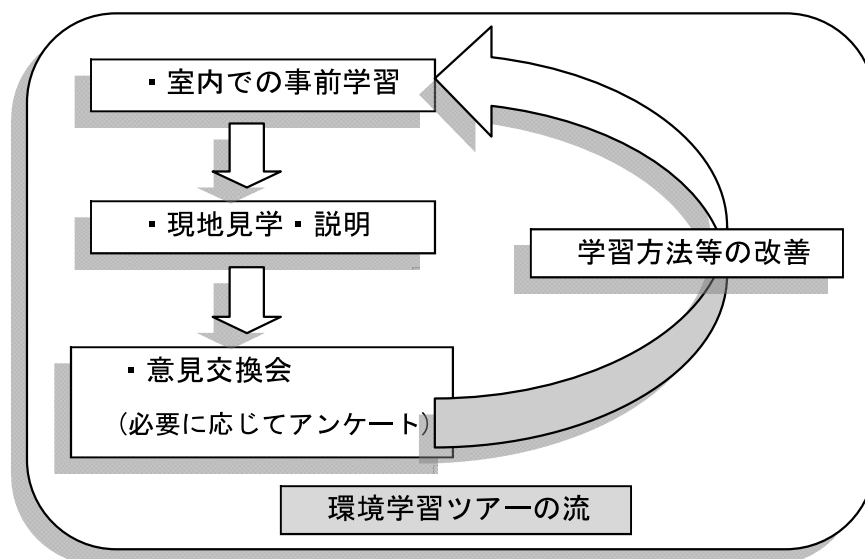
⑦ 内容及び行程

環境学習ツアー等の内容としては、今年度の「学習」に重点をおいたプログラム以外にも「調査体験型プログラム」及び「作業体験型プログラム」がある。「上サロベツ自然再生事業実施計画」によれば「調査体験プログラム」の例としては、「ササ生育地の動向調査」や「泥炭採掘跡地の試験地の追跡調査」などが記載されており、専門家の協力を得るなどによって自然再生事業の調査や効果の把握を自身の手で行う事が出来るため、高い学習効果が期待できるとされている。また、「作業体験型プログラム」としては、「ササの侵入抑制のための試験施工」や「外来植物の除去作業」が例として記載されており、自然再生の取り組みを実践し、参加者の意識を高め、実践的な知識を養う効果が期待できるとされている。今後、参加者の安全確保や環境への負荷を軽減する方法を検討し、環境学習の内容としてこれらを追加することが望ましい。

環境学習等ツアーは、今年度の経験から、参加者の体力的負担等に配慮し、原則的に半日(3～4時間程度)が適当とする。ただし、「自然再生と農業との共生」を加味した2テーマを目的とした学習ツアーでは1日(昼食時間も含めて5～6時間程度)とする。この場合、昼食時間等の休憩を入れて、参加者の体調維持に配慮する事が事故防止のために肝要である。

- 「調査体験型プログラム」、「作業体験型プログラム」の追加を検討する。
- 環境学習ツアー等は、参加者の体力的負担等に配慮し、原則半日(3～4時間)とする。ただし、2テーマを組み合わせるツアーについてはこの限りではない。

環境学習ツアー等の流れを下記に示す。まず、「室内での事前学習」として当日の行程や注意事項の説明、サロベツ湿原に関する学習および対象域の自然再生事業等の学習を行う。続いて、「現地見学・説明」では途中、要所で追加説明を行う。その際には必要に応じて説明用画像を用意すると効果的である。例えば、対象域の時間経過に伴う変化(乾燥化に伴うササ前線の動き)や当日観察できない動植物などを写真などで示す方法である(下記の写真参照)。「意見交換会」では必要に応じてアンケート等を実施して、自然再生事業の普及の効果を検証し、説明資料や説明方法等の学習方法の改善に反映させる。



現地で写真を使用した説明事例

8.4「上サロベツ自然再生普及行動計画」等の作成・印刷

(1)「上サロベツ自然再生普及行動計画」のパンフレットの作成

平成 24 年 6 月に改訂された「上サロベツ自然再生普及行動計画」のパンフレットを作成し（校正・デザインを含む）、印刷（中綴じ A4 版、3,000 部）を行った。



(2) 「サロベツ・エコモー・プロジェクト」の活動募集に向けたパンフレットの作成

「上サロベツ自然再生普及行動計画」の改訂内容を踏まえ、「サロベツ・エコモー・プロジェクト」の活動募集に向けたパンフレットを作成し（校正・デザインを含む）、印刷（A4版、1,000部）を行った。



サロベツ・エコモ-・プロジェクト 活動登録シート

(事前・事後どちらの登録も可能です)

※連絡先などの個人情報は、当プロジェクトに関わる連絡のみに使用します。

活動名	例) サロベツカルタをつくろう						
お名前・団体名	実名以外の公表を希望する方はニックネームをご記入下さい						
活動の日時・場所	例) 月1回集まりカルタ大会を開催する						
活動内容・成果・課題 ※活動の実施後に写真などの提供をお願いします。	例) サロベツに関する天候、動植物、地形、習慣、歴史などを調べてカルタをつくる						
あなたの活動に該当する項目はどれだと思いますか？ ○を入れて下さい。 (複数回答可)	サロベツを見つけよう		サロベツの話をしよう		サロベツを楽しもう		サロベツのことをまとめよう
	サロベツのことを伝えよう		サロベツをまもろう		サロベツでつなげよう		
活動を終えて一言 (活動の感想などを記入して下さい) ※事後登録の方のみお書き下さい							
連絡先	住所：〒			TEL：			
				FAX:			
	E-mail:						
	ホームページ、ブログなどもあればご記入下さい。						
上記の情報(個人情報を除く)をサロベツ・エコモ-・プロジェクトのホームページなどで公開させていただいてもよろしいですか？							
☐ 公開してもよい ☐ 公開はしない							



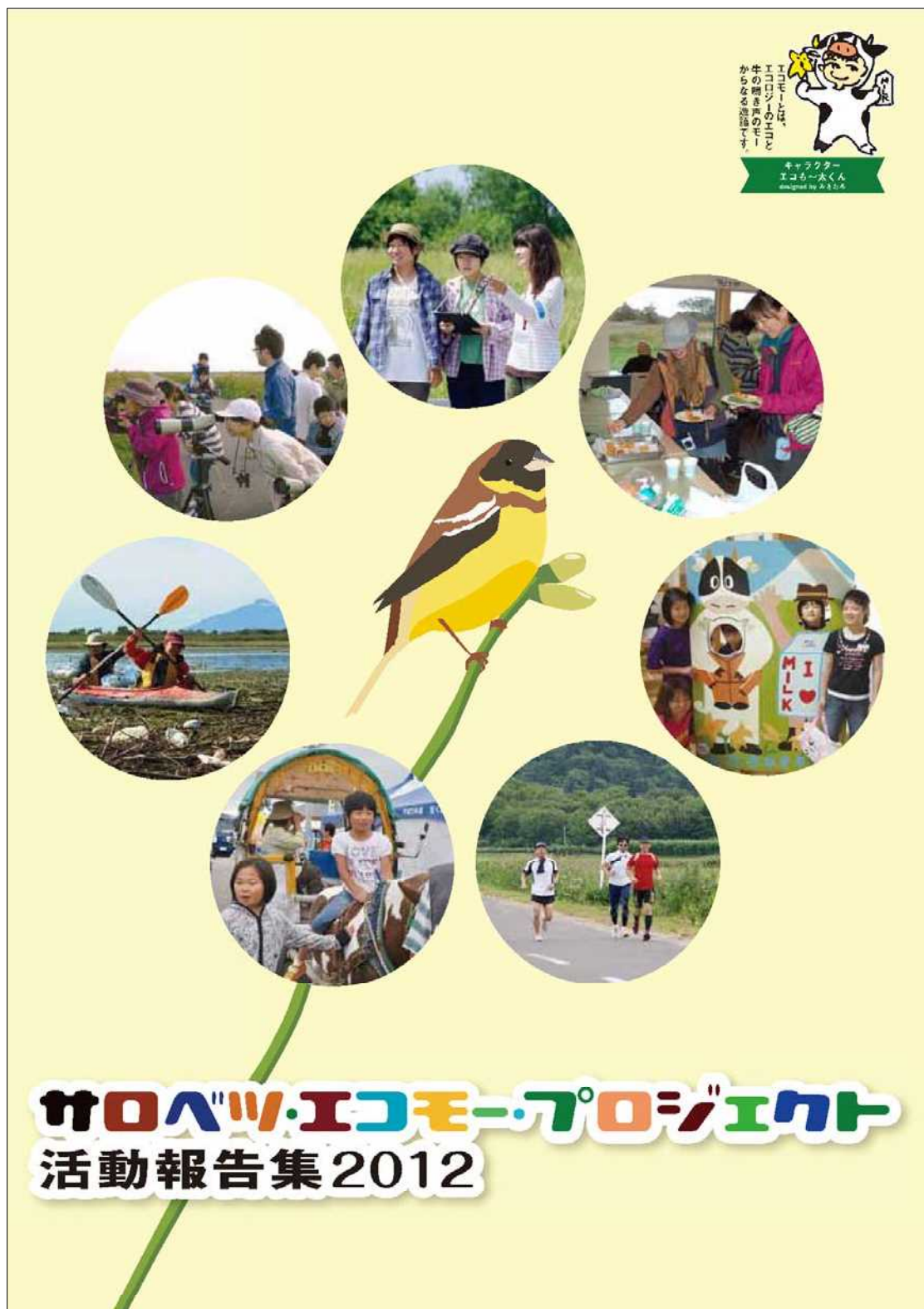
お問合せ先

サロベツ・エコモ-・プロジェクト受付窓口(サロベツ湿原センター内)

〒098-4100 北海道天塩郡豊富町上サロベツ8662番地 TEL:0162-82-3232 FAX:0162-82-1009 Mail:ecomomo@sarobetsu.or.jp

(3) 「サロベツ・エコモー・プロジェクト」平成 24 年度活動報告書の作成

「サロベツ・エコモー・プロジェクト」について、平成 24 年度の活動報告書を作成し（校正・デザインを含む）、印刷（中綴じ B5 版、1,000 部）を行った。



9.資料編

資料編目次

9.1 環境学習用資料(事前学習)	資料-1
9.2 環境学習ツアーに関するアンケート用紙	資料-19
9.3 自然再生エコツアーに関するアンケート用紙	資料-21
9.4 エコモーDay に関するアンケート用紙	資料-22
9.5 サロベツを食べよう! オリジナル料理応募レシピ	資料-23
9.6 エコモー交流会資料	資料-35
9.7 新聞記事等	資料-44
9.8 アドバイザーの意見聞き取り	資料-48